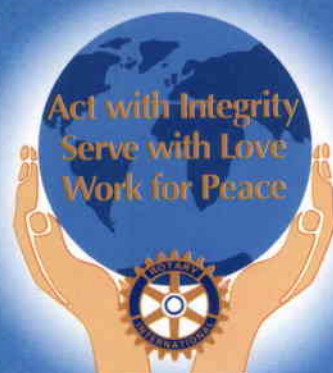


国際ロータリー 第2660地区

1995～1996年度

地区大会 記録誌

海の彼方からのメッセージ

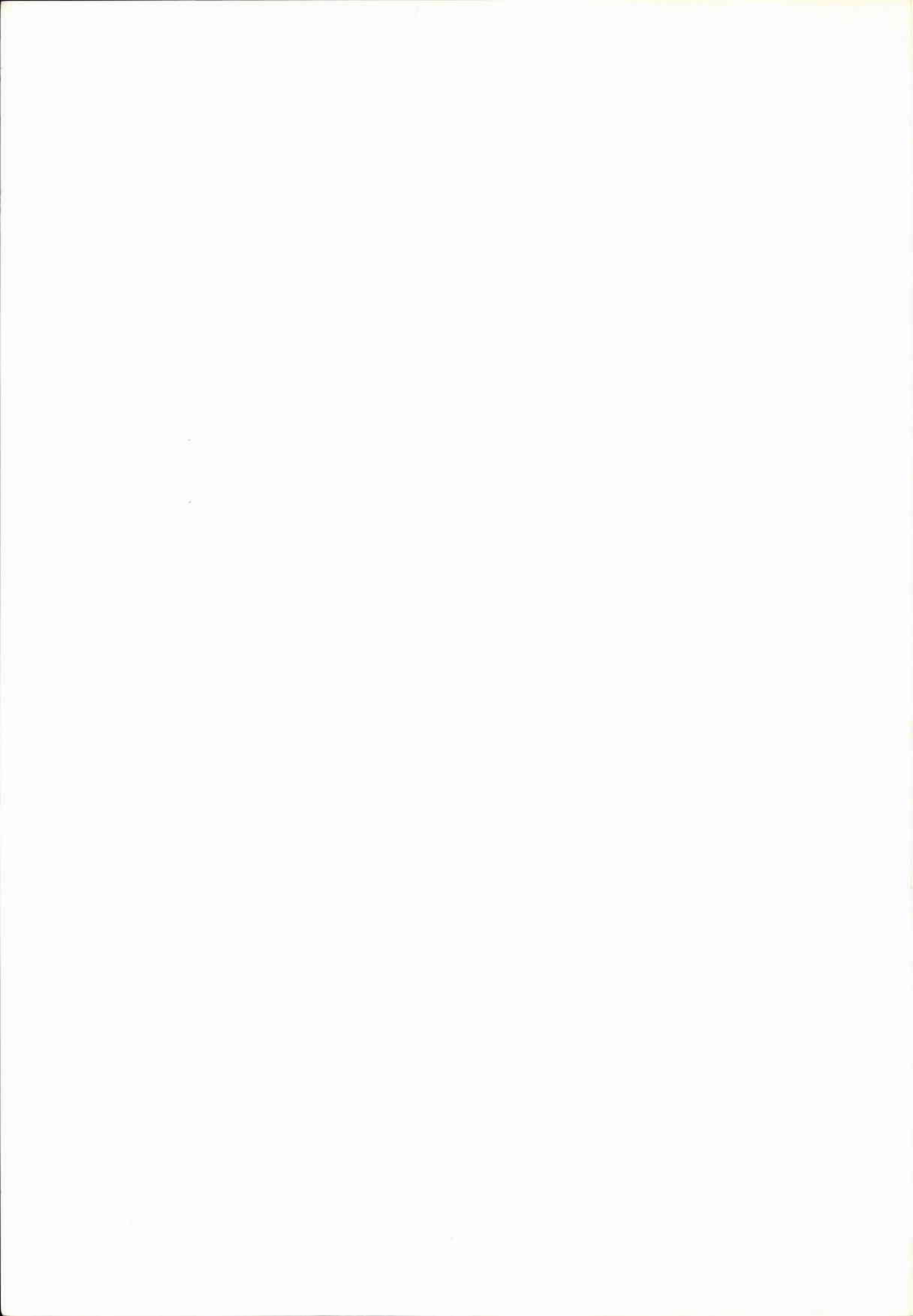


1996年5月

10日 ロイヤルホテル

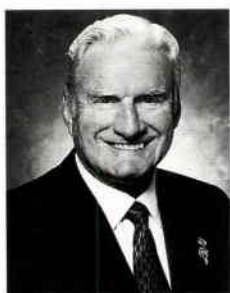
11日 フェスティバルホール

ホストクラブ：守口ロータリークラブ
コ・ホストクラブ：門真ロータリークラブ



国際ロータリー第2660地区
1995~1996年度

地区大会記録誌



R.I. 会長

Herbert G. Brown

ハーバート G. ブラウン

To all Rotarians and Guests attending the 2660 District Conference.

Diane and I send warm greetings to everyone attending the 1995/96 District Conference. We wish to express our great appreciation for the dedication and commitment of your Cistrict Governor Tadami. He, along with the conference committee, have put together a comprehensive program of Rotary information, fun and fellowship. You will make new friends and expand your Rotary horizons through shared experiences as you meet together. You will want to take full advantage of all these opportunities.

Rotary has always been a place for visionaries, those who see how things could be and define a path toward making their dreams a reality. In our clubs and our communities, we transform our dreams into reality for men and women from every culture, race and creed throughout our globe.

Being a Rotarian means extending oneself in service to others. Our actions can make the difference between an unmet need and a hope fulfilled. By **ACTING WITH INTEGRITY, SERVING WITH LOVE, and WORKING FOR PEACE**, we exhibit a bountiful heart which underscores our commitment to making our world a better place.

Unfortunately, it is not possible for Diane and me to visit all the conferences, and so I have invited an outstanding Rotarian to represent me at your conference. Please welcome, Mr. Steve Yoshida, Past District Governor, and his spouse Noko, as our personal representatives. Steve is an extremely knowledgeable Rotarian, an enthusiastic leader, and a warm friendly person. Please make every effort to meet them and to enjoy their company.

Diane and I hope that you may be inspired to dream dreams and make the courageous choices to work boldly toward making those dreams into promises for a better future for your family, your club, your local community and for the world in which we live.

Yours in Rotary,

A handwritten signature in cursive script that reads "Herb".

Herbert G. Brown
President

地区大会(大会第1日)



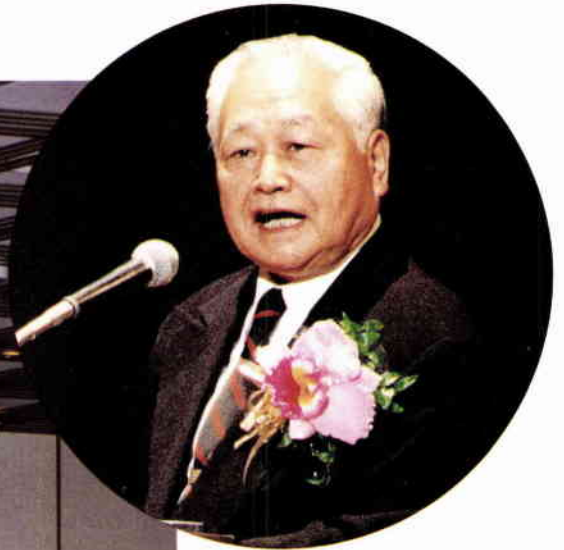
R.I. 会長代理
スティーブ・K. ヨンダ



第1日 受付風景(ロイヤルホテル)



第1日 受付風景(ロイヤルホテル)



ガバナー
熊澤忠躬

地区大会第1日会場全景



地区大会(大会第1日)



地区大会第1日会場全景



スティーブ・K.ヨシダ R.I.会長代理ご夫妻を迎えて



開会宣言する西原大会副委員長



ロータリーソング斉唱 / 中島警子ソングリーダー



来賓の紹介風景



ようこそ、スティーブ・K. ヨシダ R.I. 会長代理



司会進行は吉川憲男大会副SAA



閉会のことば／仲井光夫大会副委員長

シンポジウム

シンポジウム「アジアと太平洋地域における大阪の役割について」 海の彼方からのメッセージ



ヴィセンティ ロアンさん(ベトナム)



アグン プリヤントムルダントさん(インドネシア)



レオニー ボクステルさん(オーストラリア)



張 紹詰さん(中国)



アブドラ ラフマンさん(マレーシア)



スパーラット シリラタナパンさん(タイ)



司会の道上洋三さん



コーディネーターは谷沢永一さん

R.I. 会長代理ご夫妻歓迎晩餐会



盛大に催された国際ロータリー会長代理ご夫妻歓迎晩餐会



なごやかな雰囲気の中にも厳肅に、演奏された「祝典箏協奏曲」



「曲独楽」を演じる桂米八さん



入場されるR.I. 会長代理ご夫妻



乾杯の音頭をとる横尾定美大会委員長



司会 / 岡村晃明大会副SAA
アシスタント円城寺美希

本会議(大会第2日)



地区大会第2日目のステージ



来賓挨拶／山田勇大阪府知事



来賓挨拶／磯村隆文大阪市長(代理)



開会宣言する横尾定美大会委員長



参加クラブの紹介



GSEからも多数参加



リー第2660地区 地区大会



哀調万感、トランペット吹奏



物故者の霊に対して、深く捧げる黙禱



SAA

司会/平井秀興大会SAA



海外から参加のパコロドR.C.代表プリモ氏の挨拶



元フィリピン、オイスカ事業団員水野文雄さんと再会を喜ぶパストガバナー、ホクソン氏(パコロドRC)

本会議(大会第2日)



登録委員会報告する高士登録委員長



信任状委員会報告する菅生信任状委員長



選挙委員会報告する大森選挙委員長



大会決議案を上程する中野大会決議委員長



大会決議を採択する熊沢ガバナー



熊沢ガバナーからR.I. 会長代理へ記念品の贈呈



R.I. 会長代理から熊沢ガバナーへお返しプレゼント



ブラジル「GSE」のサカイ・セイイチ団長にW.C.S.の寄付金を寄託



中野董夫直前ガバナーへ記念品贈呈



記念講演する橋本高知県知事



挨拶する中川章三1996～97年度ガバナーノミニ-



挨拶する次年度地区大会ホストクラブ
大阪城南R.C.の石浜雪大会長



閉会挨拶する井上幾之進ホストクラブ会長



リードする佐治ソングリーダー



元気よく「手に手つないで」を全員で合唱

表彰



ロータリー財団功労表彰



意義ある業績賞



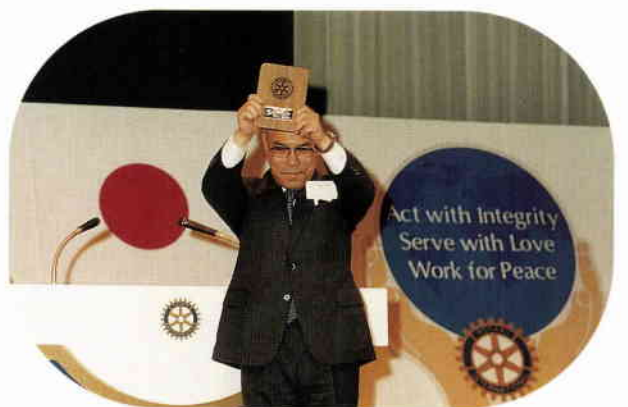
国際ロータリー会長賞



ロータリー財団地区奉仕賞



ロータリー財団寄付優秀クラブ I



ロータリー財団寄付優秀クラブ II



米山奨学会寄付5,000万円達成クラブ



米山奨学会寄付3,000万円達成クラブ



米山奨学会寄付2,000万円達成クラブ



米山奨学会寄付1,000万円達成クラブ



会員増強最優秀クラブ賞



会員増強優秀クラブ賞



年長会員表敬状



青年会員顕彰状



広報活動賞



里親クラブ賞

家族のつどい



いつもいつも流暢そのもの
浜村 淳さん



こちらは「家族のつどい」「人・街・夢」を一杯語っています。



笑顔がたえないご夫人方



ご覧ください。会場はリラックスして、明るさ100%。

エンターテイメント



特別バンド：「オオサカ・イジイ・ジャズバンド」の演奏に
ヴォーカル、ダンスを交えて大いに盛り上がったエンターテイメント。全出演者がいい爺です。



おなじみ 古谷 充



オールドファンを魅了する滝 えり子



熱のこもった「オオサカ・イジイ・ジャズバンド」の演奏



ロータリアンも参加してリズムカルにセッション

大会スナップ



登録風景



「クラブ会報」の展示コーナー



ロータリーグッズの販売コーナー



食事・喫茶コーナーとなった「ジオ」



すっかりお馴染みになった「ベリーグッドマンズ」のジャズ演奏



お食事コーナー「喜八」
(フェスティバルホール地下)

目次

R. I. 会長メッセージ	
口 絵	
○大会プログラム(大会第1日)	18
シンポジウム	20
『アジアと太平洋地域における大阪の役割について』	
—— 海の彼方からのメッセージ ——	
部門別懇談会	
会長・幹事・会員増強部門	32
職業奉仕部門	40
社会奉仕部門	48
国際奉仕部門	56
家族のつどい	
『人・街・夢』	講師 浜 村 淳 64
R. I. 会長代理ご夫妻歓迎晩餐会	74
○大会プログラム(大会第2日)	76
ガバナー挨拶	ガバナー 熊澤忠躬 78
R. I. 会長代理挨拶	R. I. 会長代理 スティーブ・K・ヨシダ 79
来賓祝辞	大阪府知事 山田 勇 80
来賓祝辞	大阪府市長 磯村隆文
	(代理 大阪府助役 佐々木 伸) 81
ガバナー挨拶及び地区現況報告	ガバナー 熊澤忠躬 82
R. I. 会長代理挨拶及びR. I. 現況報告	R. I. 会長代理 スティーブ・K・ヨシダ 85
参加姉妹クラブ代表挨拶	バコロドロータリークラブ 団長 プリモ・エスリェル 87
委員会報告(登録・信任状・選挙)	87
大会決議案上程・採択	88
R. I. 会長代理講評	R. I. 会長代理 スティーブ・K・ヨシダ 90
ガバナーノミニー挨拶	ガバナーノミニー 中川章三 91
○高知県知事 特別講演	
『21世紀へ向けての国づくり』	高知県知事 橋本大二郎 92
次年度ホストクラブ会長挨拶	大阪城南ロータリークラブ 石浜雪大 97
閉会挨拶	ホストクラブ会長 井上幾之進 97
エンターテイメント	98
○名簿	
来賓並びに招待者	100
地区大会表彰	102
物故会員	109
大会役員	110
出席クラブ	113
大会登録者名簿	114
地区大会収支報告書	123
大会を終えて	124
編集後記	126

(敬称略)

プログラム

5月10日(金)

大会第1日(ロイヤルホテル)

開会式 (光琳の間)

12:00 登録・受付

13:00 開会

開会点鐘 <ガバナー> 熊澤忠躬

13:03 国歌「君が代」斉唱

ロータリーソング「我等の生業」斉唱 <ソングリーダー> 中島警子

<ピアノ伴奏> 浅井かづみ

13:06 開会宣言

<大会副委員長> 西原房三

13:08 来賓紹介・ガバナー挨拶

<ガバナー> 熊澤忠躬

13:16 R.I.会長代理挨拶

<R.I.会長代理> スティーブ K.ヨシダ

シンポジウム (光琳の間)

13:30 シンポジウム開会

テーマ：『アジアと太平洋地域における大阪の役割について』
— 海の彼方からのメッセージ —

司会 <ABC アナウンサー> どう じょう よう ぞう 道上 洋 三

コーディネーター <関西大学名誉教授・評論家> たに ざわ えい いち 谷 沢 永 一

パネラー <ヴェトナム> ヴィセンテイ・ロアン

<インドネシア> アグン・プリマント・ムルダト

<オーストラリア> レオニ・ボクステル

<中国> チョウ ショウ テツ 張 紹 喆

<マレーシア> アブドラ・ラフマン

<タイ> スーパット・シリタカパン

15:30 閉会のことば

<大会副委員長> 仲井光夫

15:32 閉会点鐘

<ガバナー> 熊澤忠躬

15:33 閉会

部門別懇談会

15:30 登録・受付

16:00 開会

会長・幹事・会員増強部門懇談会(山楽の間)	<リーダー> 熊澤忠躬
	<リーダー> 中野董夫
職業奉仕部門懇談会(桂の間)	<リーダー> 廣瀬勸一郎
社会奉仕部門懇談会(菊の間)	<リーダー> 大森慈祥
国際奉仕部門懇談会(桐の間)	<リーダー> 古田敬三
	<リーダー> 山中文和

17:30 閉会

家族のつどい (ダイヤモンドルーム)

15:30 登録・受付

16:00 開会

テーマ：「人・街・夢」

講師 しま 村 じゅん 津

17:30 閉会

R.I.会長代理ご夫妻歓迎晩餐会 (光琳の間)

17:30 登録・受付

18:30 開会

歓迎演奏

- ・モーツァルト「アイネ・クライネ・ナハトムジーク」6名
- ・祝典箏協奏曲16名(桐絃社)
- ・古典芸能 桂 米八「曲独楽」

20:30 閉会

シンポジウム

テーマ：『アジアと太平洋地域における大阪の役割について』

—— 海の彼方からのメッセージ ——



20世紀も残り僅かとなり、現在は21世紀への胎動期であります。そしてアジアがその変化の大きな中心であることは世界の一致した見方となっております。

アジアの国々には長い年月にわたり培われ成熟した独自の歴史と文化があります。また、気候風土に根ざした風俗習慣、そして宗教があります。我々はその地域の一員として今後如何に考え、どう行動するべきかを学ぶ為本日シンポジウムを企画致しました。

それは“海の彼方からのメッセージ”として各国の実務上の方々からご参加願ひ、純粹の熱い思いをたくさん話して頂きました。

出 席 者 (敬称略)

パネリスト	
ベトナム	ヴィセンティ・ロアン
インドネシア	アグン・プリマント・ムルダト
オーストラリア	レオニー・ボクステル
中国	張 紹 喆
マレーシア	アブドラ・ラフマン
タイ	スパーラット・シリラタナパン

コーディネーター
関西大学名誉教授・評論家
谷沢 永一

司 会
ABCアナウンサー
道上 洋三

21世紀への幕明けはアジアから ～6ヶ国の実務者、本質を語る～

副SAA(吉川) ただいまよりシンポジウムを開会させていただきます。本日は「アジアと太平洋地域における大阪の役割について——海の彼方からのメッセージ——」のテーマで、ご出席の皆さま方から有意義なご意見を頂戴したいと思います。

シンポジウムの進行は、皆さま方もお馴染みの朝日放送の道上洋三さんをお願いをいたしております。

司会(道上) 朝日放送ラジオで朝早くに「おはようパーソナリティ」という番組をやらせていただいております
道上洋三と申します。

きょうのコーディネーターは皆さんご存じの関西大学の名誉教授、谷沢永一先生でございます。どうぞよろしくお願いします。(拍手)いま、本屋には谷沢先生のベストセラーの本が山積みになっておりまして、初版1万部なのに30万部を超えたというお話を伺いました。おめでとうございます。

谷沢(コーディネーター) ありがとうございます。

アジアからのメッセージ

司会(道上) きょうは、ご案内のとおりアジアからの私たち日本へのメッセージがテーマなんですが、いきなり皆さん方にそんなお話をいただくと肩が凝りますので、まずは日本にいられていちばん困ること、びっくりなされたこと等から伺いたいと思うんですが、まずベトナムのヴィセンティ・ロアンさんをご紹介します。いまはベトナムは南北統一されましたが、北ベトナムのニンリンでお生まれで、ベトナム戦争さなかに青春時代を過ごし、ピョンヤンの外国語大学の日本語学科を卒業、1985～87年の2年間、日本の文部省の研究生として来日、大阪外国語大学でベトナム語の講師もお務めになっています。現在は、日本人の旦那さんがいらっしやまして、3人のお母さんでもあるというロアンさんです。

ロアン(ベトナム) ベトナムのロアンでございます。現在、大阪に住んでいます。日本に来てから8年ぐらになります。現在、日本人にベトナム語を教えています。大阪外大をはじめとするあちらこちらでベトナム語を勉強したい人に教えています。

司会(道上) 日本人にベトナム語を教えていらっしやっていちばん困るのは何ですか。

ロアン(ベトナム) 発音です。ベトナムの発音は難しいです。声調が6つありますから初めて勉強する方々はなかなかできない、いちばん困ってる問題だと思います。

司会(道上) また後ほどお願いします。インドネシアのアグンさんはジョクジャカルタ生まれの32歳、ポゴール農科大学を卒業後大学の先生になり、1990年の4月に日本に留学なさって、京都大学で制御醗酵の研究をなさっていると。制御醗酵って何ですか。

アグン(インドネシア) うーん、難しいですね、醗酵を制御するもの。たとえば薬とかで食品の醗酵を制御する。遺伝子とかもやっております。

司会(道上) アグンさんはドイツにもアメリカにも留学

なさってから、日本というわけですね。ドイツ、アメリカ留学時代と、日本とでは随分、ちがいますか。



ヴィセンティ ロアン
(ベトナム)

1950年生まれ。平壤外国語大学日本語学科卒業。85年、文部省研究生として来日。88年、再来日。大阪外国語大学でベトナム語講師を勤める。日本人と結婚、3児をもうける。

アグン(インドネシア) 私、いま京都大学に留学しております。いつも上下関係、先輩・後輩の関係ですが、簡単にいうと昼ごはんとか夕方に一緒に食事をするんですが、先輩が食事代を出すわけです。食事が終わって、先輩が「終わり」と言わないとみんな帰らないんです。勝手にやったらいいんじゃないですかと思うんですが不思議です。

司会(道上) お隣はオーストラリアのレオニー・ボクステルさんです。レオニーさんはメルボルンでお生まれになって、高校生のときにバレーボール選手として来日、1986年にモナッシュ大学を卒業して、経済と日本語を専攻なさっています。88年に大阪市の国際交流員として2年間勤務。その後、三井船舶にお勤めになった。95年(去年)メルボルン大学院にお進みになり、現在は大阪大学の大学院で企業の公益活動について研究をなさっているということです。結婚なさっていて、旦那さんはオーストラリアにいらっしやるんですね。

レオニー(オーストラリア) そうなんです。

司会(道上) ご本人はいま日本にいらっしやって、どこにお住まいですか。

レオニー(オーストラリア) 吹田市にあります。

日本流へのとまどい

司会(道上) 離れ離れですね。さて、日本でびっくりなされたことって――。

レオニー(オーストラリア) 九州に到着したときに、日本の道路工事の場面を見ていたんですが、かっぱうを着た女の人が、工事をやっていたんです。日本は先進国だと思っていたにもかかわらず、女の人が石を一杯積んで運んでいる姿を見たものですから、自分の思っていた印象と日本の現在の印象がだいぶ違っていたんです。

また最近の経験からいいますと、大阪市の仕事をしたときに、公務員と一緒に勤めていると堅いんですね。し



かし、夜、飲む場所に行きますと、日本人が精神分裂症病になったと思うぐらい性格がごろっと変わって(笑)——。

司会(道上) 日本人の中にもびっくりする人はいるんですが、みんな了解の上なんです。「あれは酒の上の席のこと」と言ってますんでしまうところがあるんです。お花見にも行かれたそうで。

レオニー(オーストラリア) 花見も面白いですよ。それこそ普段のまともなサラリーマンが木の下であのような大騒ぎをして、よく周りの人が不思議に思わないのかというところがあるんです。オーストラリアですと、警察がやってきて大変なことになるかも知れない。

司会(道上) お花を見ながらお酒を飲んで唄を歌うのは変ですか。



レオニー ボクステル
(オーストラリア)
1964年生まれ。初来日は高校生の頃。86年モナッシュ大学を卒業。日系企業への就職後、大阪市国際交流員、三井船舶勤務、メルボルン大学院を経て、現在は大阪大学大学院に在籍。

レオニー(オーストラリア) 家族でピクニックするような様子でもないんです。どうしても違う雰囲気なんです。

司会(道上) 中国からは張 紹喆さんです。中国の黒竜江省、ハルビンのお生まれで44歳。北京対外貿易学院の分校で日本語を教えていらっやって、86年に京都大学

の経済学部で留学、翌年、国際証券の調査部にお勤めになり、去年京都大学大学院を修了なさって、松下電器に入社、中国本部に勤務。現在は松下電器の中国有限公司人材育成センターの副所長をなさっております。先程の話から中国では、お酒の席で人柄は変わりますか。

張(中国) 変わります。ただ、日本では「駆けつけ三杯」と言いますが、中国では随意と無理に飲まされるのと両方あるんです。乾杯という言葉は、本来は杯をあけるとい意味なんです、最近ではそうでもないんです。

司会(道上) 日本は酒がないとコミュニケーションがなかなかはかれないといわれていますね。

張(中国) 酒は日本に来て初めて先生に教えられて、それからついつい癖になってしまった。(笑)いい癖だと思います。



張 紹喆(中国)
1951年生まれ。79年から北京対外貿易学院で日本語・貿易論を専攻。中国人民大學を経て、京都大学へ留学、日本経済史を研究する。95年、松下電器産業(株)に入社。現在は、中国有限公司人材育成センター副所長。

司会(道上) 随意ではなくなったわけで「乾杯」になってしまったわけですね。

そしてタイ王国のスパラット・シリラタナパンさんでございます。去年、タイからお米を輸入しまして、随分、残ってしまったという現実があったんですけども、スパラットさんはどんなふうに思われましたか。

スパラット(タイ) タイ米が急に大量に入ってきたことは、日本の方も戸惑ったと思うんですが、日本と違った長粒種であることをぜひわかっていただきたい。一つはメディアの責任もあると思うんですが、「すごくまずい」と言っていたことは悲しいと思います。

司会(道上) スパラットさんはバンコックのお生まれで、1977年に日本に留学、日本の高校を卒業、横浜国立大学を卒業後、大学院に進み、タイに一度お帰りになって大蔵省にお勤めになって、現在はタイ王国総領事館の商務部の副領事としてご活躍でございます。日本とタイの貿易振興のために本国と日本を往復するという忙しい独身エリートです。

さて、マレーシアのアブドラ・ラフマンさんです。ラフマンさんは、インドネシアのジョホール市にお生まれになって43歳です。1973年にジョホール市の自動車整備

専門学校を卒業、翌年に住友造船所の研修生として来日、一年半の研修後、日本・マレーシアの合弁造船会社にお勤めになりました。1981年にエンジンの研修生として再び来日、トヨタ自動車に2年間勤務、その後、自動車関係の貿易、修理工場を経営。日産自動車の非常勤としてもお勤めになっているという車の専門家でございます。奥さんは日本人でいらっしやって、大変な日本びいきと伺っています。

ラフマンさんは、日本で一番びっくりしたことは何ですか。

ラフマン(マレーシア) 日本人の歩き方は速くて、マレーシアのほうは、みんなゆっくり、のんびりしているから、それは日本に来てすごくびっくりしました。

それにみんなも言ったとおりで、日本人の昼と夜は違うこと、仕事の立場にしてもいろいろ面白いこともあるし、いい面も悪い面もある。いいことは勉強をして、悪い面は忘れたほうがいいかなと思っています。

司会(道上) ありがとうございます。谷沢先生、皆さんがこれだけ日本語をお話になってびっくりしているんですが。

谷沢(コーディネーター) そうなんです。日本人の外国語習得能力がいかにあかんか(笑)ということが如実に証明されております。どうして外国の方は日本語習得が早いんだろうかと、かねてから不思議に思っております。

私は大阪生まれですが、大阪では「しんどがり」という言葉がございまして、私は66歳になるんですが、いまだかつて外国へ一歩も足を踏み出したことがない。ですから、きょうのように外国の方々と一緒にするということは生まれて初めてのことです。

仕事での苦勞

司会(道上) 谷沢先生の意外な一面を拝見させていただきました。今度は仕事を通しての成功・失敗のお話ですが、アグンさんなどは仕事を一緒にやるのに日本人とつきあいにくい、あるいはつきあやすい。こんなことがあって成功したというようなお話をしていただけませんか。

アグン(インドネシア) 結構、いくつかありますが、やはり熱心なところですね。先ほどの酒の話聞きますと、いつ、こういうふうにしなないといけない、いつ、こういうふうにしてもいいとか、割り切ることができるということが素晴らしいと思うんです。それも時々、勝手に変

わるんですね(笑)

司会(道上) お隣のベトナムのロアンさんもうなづいていらっしやいますが、そういうところがありますか。

ロアン(ベトナム) あると思います。私の印象も同じです。日本人はすごく社交的で、表面と裏はちがいます。(笑)

司会(道上) どんどん言ってください。たとえば――?

ロアン(ベトナム) 片言の日本語ができる人に対してはすごく親切に長い間、話をするのに、私たちのように上手ではないですが日本語ができる人だったら、ちょっと話したら何か恐縮してごまかすか、他の話題になって逃げるような態度で、あまり親切にしてくれないという例があります。

司会(道上) 張さん、中国の方も本音と建前はわかっていただけだと思うんですが。

張(中国) 中国人も本音と建前の両方があると思います。でも、やはり日本に来てときには本音が建前かわからない場合が結構あります。

司会(道上) 何かお願いして「それはちょっと検討させていただきます」というのは、わかりますか?

張(中国) わかります。中国人も「考えさせてください」と言うんです。それが実は断り半分です。しかし半分ですよ。

司会(道上) 日本の場合は「検討させていただきます」というのはほとんど検討しないんですね(笑)もう90%「ノー」なんです。ねえ、先生。

谷沢(コーディネーター) 大阪では「また明日、来とくなはれ」と言うんですね。これは絶対的「ノー」です。

司会(道上) ラフマンさんは仕事で困ったこともあるでしょうが、こんなんがうまくいったということはありませんか。



アブドラ ラフマン
(マレーシア)

1953年生まれ。73年ジョホール市自動車整備専門学校を卒業。翌年、住友造船所の研修生として初来日。現在は日産自動車非常勤としてマレーシア・日本間を忙しく往復する日々。

ラフマン(マレーシア) 仕事の場合は日本のやり方で、いいところもいっぱいあるけれども、私のアイデアは通らない。自分の意見は全然とってくれない。うちの会社の社長の話だけをみんな聞くね。

司会(道上) ラフマンさんはそう思っていますが、自分のカラーを出して、これはうまくいったぞという例はありませんか。

レオニー(オーストラリア) しばらく何にも言わない時間があるから出せば、また真剣に聞いてくれると思います。反対に典型的なアメリカ人で、どんどん「マイウェイ」で進む人が来ると、その人がどんなにいい考えを出しても絶対聞かないんです。たとえば、私と同じことを言ってもね。(笑)

司会(道上) それはあります。日本人は、いきなりやってきて「俺が正しいんだ」と言われると、「黙っとけ！」というところがありますね。それ、先生、ありませんか。

日本企業の特徴と勘どころ

谷沢(コーディネーター) これは日本人に限らないと思うんですが、先輩あるいはリーダー、社長が言う意見、言葉、ポキャブラリー、語法を利用しながら、自分の新しい意見を言わなければいけないわけです。そうすると、社長の顔が立つわけです。つまり、ほんのささやかな小さな補足意見を出しているのごさいますよという格好をしながら、決定的に革新的な意見を出すと。それをオブラートに包んで、社長の言葉としてソッと持ち出すという勘どころを習得するのに5年はかかるわけですね(笑)私の場合は、普通の平凡な一般型のサラリーマンのことを申したわけです。松下は昔から新参者にやさしい会社なんです。これは松下幸之助の根本精神でしたから。

司会(道上) そうなんですか。



谷沢(コーディネーター) 松下幸之助というのは面白い人で、90何歳まで生きた間、全く読書をしなかった人なんです。本なんて一切、読まない。ただ、ひたすら考えているんです。そしていろんな若い人を周りに集めてそこから知恵を吸収するわけです。吸収するスポンジのような人だったんです。あの社風全体に新参者に対して、そこからでも上の者が吸収しようという雰囲気がございますね。

サントリーを創設した初代社長の鳥井信次郎さんの口癖は「やってみなはれ」と。若い社員が新しいプランを出しますと「やってみなはれ」と、やらせるんです。失敗するとわかっていることをやらせるんです。で、周りの人が気を使って「社長、あんなんやしたら失敗しちゃいけないか」「あれが失敗したら損失はなんぼや」と、金額が頭に入っているわけです。「それはあの社員の教育費になっている」と。そういう方針だったですね。

司会(道上) でも、大阪というところはそういう創業者とか、いろんな新しい企業を興した方がたくさんいらっしゃって、日本の中では本音と建前と言いますけれども、まだ本音が言葉にしろ、気持ちにしろ、体にしろ、通りやすいところだと思うんです。レオニーさん、東京とか他の日本の都市で仕事をなさったことはありますか。

レオニー(オーストラリア) あります。

司会(道上) それは感じられませんか。

人情味あふれる大阪

レオニー(オーストラリア) 大阪の人たちのほうが人間的な面があると思うんです。要するに、相手の人に対する反応は大阪のほうが早いような気はします。東京の場合は、もう少し探らないとなかなかわからないんです。

司会(道上) ラフマンさん。

ラフマン(マレーシア) 言葉の違いもあって、東京は丁寧な言葉で、大阪の人がしゃべると怒っているような感じだけれども、あとはないです。

司会(道上) スパーラットさんはどうですか。

スパーラット(タイ) 東京と大阪はかなり違いがあると思います。東京は何となく政府、官僚の町というか、建前のほうが強く見えると思うんです。逆に関西、特に大阪は商人の町なので、みんな正直に突っ込んで話をして商売をもっと早めにもっていく。東京だと官僚的なやり方でステップバイステップで、段取りが長くて、形式的なことを重視する点があります。

司会(道上) スパーラットさんは、どちらがおつきあいしやすいですか。

スパーラット(タイ) 大阪の人のほうがタイ人の性格に似ているんです。すぐ冗談が言えて仲良くなれるのは大阪の人です。ただ、私は東京が長いですから、規則を守る点では東京のほうが好きかなと思います。最初、大阪に来てびっくりしたのは、赤信号でもどんどん渡ってし

まうんです。車を運転するときでも、ちょっと遅いと後ろからタクシーにホーンを鳴らされてちょっとびっくりすることもあります。

司会(道上) スパーラットさんに言われたくないわ、それは。(笑)



スパーラット シリラタナパン
(タイ)

1960年生まれ。77年、日本に留学。横浜国立大学、同大学院に学び、帰国後同国大蔵省に勤務。現在は日本のタイ総領事館商務部副領事として日タイ間の貿易振興につとめる。

スパーラット(タイ) だから、タイに似ている点もこの点なんです。

司会(道上) でも、タイに「マイペンライ」という言葉があるじゃないですか。自分に都合の悪いことは全部「マイペンライ」なんです。会社に遅れても「マイペンライ(別に問題はない)」と言っているんです。

スパーラット(タイ) タイは農業国から工業国になるよう開発している最中ですから、自動車産業とか機械産業もタイでもブームになってきて、タイの政府も部品関係の企業がタイに直接投資して下さることをとても歓迎しています。特に関西は機械関係とか、鉄鋼産業がとても盛んですから、ぜひ来てください。

司会(道上) こんなことはしてほしくないということはありませんか。

スパーラット(タイ) 前に、日本のJICA^{*}の人に「日本人に対するタイ人の目はどうなっているか」と聞かれたんですが、タイのある人が言うには、日本が海外に行く自分の組織をつくって、たとえば日本のデパートをつくったり、レストランをつくったり、アパートでも日本人同士と一緒に固まって、日本人町みたいなものをつくってしまいます。だから、海外にいらっしやるときは、できたら海外の人たちに溶け込んで生活してほしいと思います。

日本人の結集力と帰属意識

司会(道上) ラフマンさん、マレーシアはいまマハティール(首相)さんのもとですごい経済発展をなさっていて「東アジアの中心である」と。「ルックイースト」と言われていまして、大変な発展なんです。マレーシアからご覧になって、日本とうまくいっている部分、うまくい

っていない部分はどういうことをお感じになりますか。
ラフマン(マレーシア) たとえば日本との合弁会社をつくって一緒にやって、マレーシアの人はみんな日本に来て実習を受けて、機械とexperience(体験)をもらって、何とかうまくいきました。マレー人は昔からあまり働かない人間なんです。ゆっくりのんびりして、昔からあるゴムの木とか農業かフィッシュマンの仕事しかない。いまは、日本と合弁会社があって、立派な機械の仕事があってこれからは経済がもっとよくなると思います。

昔、戦争があって、マレー人が少なかったからビジネスのときに中国人もインド人も入れて一緒に仕事をやってきたが、今後はチャイニーズかインドかを考えないくらい、みんな一緒に仲間で頑張ってもらいたい。これがマハティールさんのいまのアイデアです。

司会(道上) この間ニュージーランドに行ったんですが、ニュージーランドは規制緩和が進んで外国の人たちがどんどん入っていているところなんです。で、中国の人が10万人、韓国の人が5万人です。日本は駐在を含めて1万人にもならない。

日本人は来るけれどすぐ帰る。定住しないと。中国の人はそこで商売をし出したらそこに住み着いてしまう。韓国の方は半々だろうと。こういうのはニュージーランドだけじゃなくて、どこへ行ってもよく聞かれることなんです。やはり、そうなんです。ラフマンさん、そう思いますか。

ラフマン(マレーシア) そうですね――、

司会(道上) タイでもそうですか。

スパーラット(タイ) 自分がいい例だと思うんですが、私の両親は中国人なんです。タイに生まれたからタイの国籍がもらえて、もし自分が中国人ですか、タイ人ですかと聞かれたら、中国の血をひいたタイ人と思っています。こんな、副領事にまでなれたのも、タイの国の寛大さであると思って、とても感謝しています。

司会(道上) なるほどね。谷沢先生、このへんは日本は政府も民間も遅れているのかなと思うんですが、どうでしょうか。

谷沢(コーディネーター) まず、非常に顕著な日本民族の特色は、いまだかつて政治的亡命をした人がいないということです。あらゆる国においては、必ず外国へ亡命するという現象が起こるわけです。日本でどれだけ袋叩きに遇っても、日本じゅうからつるし上げをくらった大

*JICA : [Japan International Corporation Agency]
日本の国際協力事業団

政治家であっても、また十分な資財を持っている人であっても、絶対にアルゼンチンへ逃亡しようとはしなかった。

もう1つ、広島県とか和歌山県とかには、昔、アメリカへ移民に行った方々がいます。この移民に行った方々が一生懸命、働いて経済的に余裕ができたなら何をしたかという、生まれ故郷にいずれ晩年に帰るべきはずの豪壮な家を建てました。

つまり、日本人はどうしてもぐるっと一回りして帰ってきたいんですな(笑)これは何でかわかりません。つまり、それがあつたために日本民族の民族的結集力がプラスに働いているという面もありますね。



司会(道上) いま日本人的結集力という話が出たんですが、レオニーさんは日本に暮らしていらっしゃるそんなことをお感じになりますか。

レオニー(オーストラリア) オーストラリアにいるイギリス人の特徴も全く同じような傾向があると言えると思うんです。

つまり、どんなに長くオーストラリアに住み着いていても、自分の心は母国のイギリスにあると。自分はどうしてもスコットランド、アイルランド、イギリスなり、死ぬときは自分の灰をどうしてもそこに投げてほしいという希望を持っている人が何人もいます。何人にも会ったことがあるし、私のお祖父さんに当たる人もオーストラリアで亡くなったんですが、絶対的にスコットランドで自分の灰を撒いてほしいという希望がありました。そこまで自分の生まれ故郷とのつながりが強いということは、日本人に限らないと思うんです。

ボランティアは今…

司会(道上) オーストラリアのレオニーさんは、公益活動、ボランティアについて随分、勉強もしてらっしゃる

し、実際にやっていらっしゃるし、阪大の本間先生のもとでNPO^{※1}の活動も勉強なさっているようだけれども、オーストラリアのボランティアの活動と日本のボランティアの活動をご覧になって、その違いとかを感じられますか。

レオニー(オーストラリア) 去年の10月から今回、来ただすけれども、大阪大学の本間先生にいろいろお世話になりまして、授業に参加した結果としては、日本のボランティア活動はある意味ではオーストラリアのボランティア活動と同じ拠点にいるような感じはします。何故かと言いますと、背景はもちろん全然、違うんですが、オーストラリアの場合はボランティア活動は主に教会を通じて行っているのが慈善活動が多かったわけです。主に病気になった方、お年寄りの方のお手伝いとか、不幸に遭っている人たちのお手伝いが主なボランティア活動だったんです。けれども、80年代に入ってから、オーストラリアは環境に対する意識が非常に高いものですから環境問題に関するボランティア活動だけが非常に活発になってきたわけです。

日本でのボランティア活動も、この4～5年の間は特に注目を集めていると思うんですが、たとえばアメリカみたいな非常に活発な国と同じでない理由を考えると、1つは、もともとオーストラリアも日本も昔からボランティア活動のグループ自体をつくるのが、難しかったわけです。いま、国会でNPO法案が出されていますが、オーストラリアでも任意団体の立場からちゃんとした法人にするためには決して簡単なものではないわけですから、まとまった活動をするためにはいろんな課題があるんです。

お金とか国民の意識・理解とか…。

司会(道上) NGO^{※2}とかNPOとか非政府組織の民間団体でというのが世界じゅうのネットワークでできようとしているんですけれども、NGOとNPOもちょっと性格が違うということもあって、このへんの難しさはあると思うんですが、張さんのところは割合、ボランティアもなさっている会社だと思うんですが、企業のボランティア活動というのはどうなんでしょうか。

張(中国) 松下電器自身は最近では会長が中国に行きまして、中国の教育がとつてもしんどい状況ですから100万ドルの寄付をしました。中国の場合は、ご存じのように、いま一党独裁化、あるいは共産党支配とか、NGOという

※1 NPO：〔non profit organization〕
非営利民間組織

※2 NGO：〔nongovernmental organization〕
非政府組織 発展途上国へ経済援助活動を行っている民間団体を指す

ものがなかなかできにくいです。中国にはロータリークラブとか民間組織はまずない。ただ、こういうボランティア活動は盛んにやっているんです。これは全国的規模でやっています。しかし、民間組織じゃなくて政府の外郭団体みたいなものをつくって始めています。

司会(道上) アグンさん、どうぞ。

理解ある法の対応と柔軟性を

アグン(インドネシア) 私の経験ですが、3年前に日本の方々とボランティアをやっていたんです。どういう形かという、いま不用品がいっぱいあるんです。留学生は要るものが多いから、要らない服とか要らない家具を集めてやろうかという話になって、留学生と日本のおかあさんたちと、毎月うまくやっていました。

ところが突然、京都府警から「古物商売の免許をもっていますか」と言われたんです。僕らは別に営業でもなくて、留学生とか学生を助けようと思ってやっていただけなのです。

それでも京都府警が理解してくれなくて、結局、一人の議員さんが京都府会までもって行ってくださって、何とか解決したんですがいまでも何故か不思議に思っています。



アグン プリマント ムルダノ
(インドネシア)

1964年生まれ。ポゴール農科大学卒業後、同大学の講師を勤める。90年日本に留学し、京都大学で制御発酵を研究。全国在日インドネシア留学生協会会長など幅広い活動を行う。

司会(道上) それは残念なことでしたね。

他にボランティアのことで、自分の国はこうだよということは、ありませんか。

スパーラット(タイ) タイの場合はボランティア活動をかなりやっていると思うんです。主体になっているのは、大きく分けて3つあると思います。1つは、タイは王国の国ですから王様ご自身が財団を設置して、そちらのほうに皆さんが寄付して、王様ご自由に関係するプロジェクトに使っていただくわけです。

もう1つは、タイは仏教国ですからお寺自体が寄付を集めて、お寺によって宗教の普及のためにやっているお寺が多いですが、たとえば職業訓練とか、教育をするお寺もたくさんあります。

もう1つは、全くの民間団体でNGOの組織で、それぞれの孤児たちに関係するお手伝いの財団とか、婦人財団、身体障害者たちに関する福祉活動をやる財団があります。

去年、タイはかなり水害に遭いまして、そういう天災のときは銀行とかテレビ番組とかで募金を集めて災害に遭った人たちのお手伝いをやっているんです。

司会(道上) さて、ラフマンさんのところ、マレーシアはイスラムのお国ですね。宗教的な側面のボランティア活動が盛んでしょうか。

ラフマン(マレーシア) イスラム教の場合はボランティアが大きいけれども、みんな一日5回、モスクでお祈りをやっているから、朝と昼は仕事をやっているから集まらないけれども、夜は一緒に祈りをして祈りが終わってから、声をかけて、お金、力の面で相談してみんなにまわっていきます。

司会(道上) 日本の場合は宗教的な側面がやや薄いのかなとは思いますが、谷沢先生、ボランティアがだんだん会社単位から社会のコミュニティ単位、あるいは非政府組織とかNPOという、国や政府に頼らないでやる組織を考え始めたと思うのですが。

公助、共助の基盤は 自助の確立から

谷沢(コーディネーター) 現在、ボランティア活動とかいろいろなことを言われておりますので一つ危惧していることは、近代社会の根本理念は自己責任ということ、独立・自尊ということであって、みだりに故なく他からの援助を受けないというのが近代人の根本精神で、これが失われると近代社会そのものの健康な運営に障害を来すと思います。

ですから、そのボランティア活動というものは、一人々々の人物があまりに外からの援助に頼り過ぎることのないような限度を守るといって非常に微妙なラインが必要じゃないかと思えますね。

司会(道上) なるほどね。福祉の場合には、長らく「公助」「共助」と言われて、いま先生がおっしゃった、自分で自分を助ける「自助」の部分だと思えますけれども、私たちは戦後50年「公助」には随分あずかってきた部分が多い。「共助」は向こう三軒両隣で随分、崩れてきた部分が多かったんじゃないか。これが皆さん方の活

動を通じて見直されている部分が当然あると思うんですけども、次は「自助」をもう少し確立していかないと、「公助」も「共助」も生きなくなるんじゃないかと思うんです。

日本はアジアの一員か？

さて、次に質問ですが、皆さん方は日本はアジアの一員だとお考えでしょうか。まずロアンさんから。

ロアン(ベトナム) 多分、生活レベルはアジアと離れていますけれども、基本的にアジアだと思います。

司会(道上) ありがとうございます。さて、アグンさん。

アグン(インドネシア) アジアの考え方よりアメリカとかヨーロッパじゃないかなと思います。

司会(道上) 要するにアメリカに向き過ぎとるぞと。日米安保も、この間クリントンさんと手を結んでちゃんとやったじゃないかという思いがあるんですね。

アグン(インドネシア) そうですね。

司会(道上) それはわかりました。オーストラリアのレオニーさん。

レオニー(オーストラリア) アジアのそれぞれの国を想像しますと、私はどうしてもその国の衣装と、その国の典型的な物を思い出しますが、日本の場合は着物の姿よりもスーツなんですよ(笑)。残念ながら日本は独特な日本の伝統的なイメージが薄められていると絶対言えると思うんです。

いい悪いは別として、他のインドネシア、マレーシア、タイ、中国の場合は非常に固まって、守っているイメージがあると思うんですが、日本の場合はそれほど守っていないようなイメージがあります。一言で言うと、必ずしもアジアの同じ立場の一員ではないと、私個人として思います。

司会(道上) 同じ立場の一員じゃない最大の理由は何なんでしょうか。

レオニー(オーストラリア) たとえば貿易、経済のこれからの進展とか、これからの政策に関して、APECの場合も、決定する前にまずアメリカを向いてから「こうです」というイメージは、無視できないんです。やはり去年のAPECを見たときも、私はすごく感じたんです。

司会(道上) なるほど。アグンさんと同じ。アジアと言いながらアメリカを向いているじゃないの。わかりました。中国の張 紹詰さんは、日本はアジアの一員だと

お思いですか。

「和魂漢才」から「和魂洋才」へ

張(中国) かつて、日本は100年以上前には「和魂漢才」から「和魂洋才」に転向しつつ、それから有名な福沢諭吉さんは「脱亜入欧」と言ひまして、日本は100年以上も近代社会に向かって頑張ってきたんです。

ずばり言いますと、日本は「脱亜入欧」しようとしたが、脱しきれなかったアジアの国だと思います。



司会(道上) なるほど！強烈な指摘でございました。

スパーラット(タイ) 全世界は大きく分けて発展途上国と先進国です。その面から見たら日本は全く先進国の仲間に入っています。たとえば貿易交渉とか首脳会議でもアジアの中のただ1つの参加国は日本だけ。だから、経済とか貿易の面から見ると日本はアジアではないんじゃないかと思います。

でも地理的、文化的な面、生活習慣の面から見ると、文化とか伝統的な面から見ると、茶道、華道、書道がありまして、東洋的な考え方が含まれていると思います。自分の意見は西洋人みたいにすごく個人主張をしていない点が東洋的な考え方じゃないかと思います。家族的な側面から見ると、だんだん西洋化されているんじゃないかと思います。

で、私の個人的な結論から言いますと、日本はアジアかどうかは別にこだわらなくてもいい。それぞれの国のやり方がありますからそれほど強調する必要はないと思います。

司会(道上) いまの「日本はアジアの一員か」というので、皆さん方のおっしゃりたいことがいちばん出てきたのではないかと思ったのですが、谷沢先生いかがでしょう。

谷沢(コーディネーター) 皆さま方にはちょっと逆らうようですが、日本はアジアであるか、ないか、私の答えは簡単であります。「日本はアジアであってアジアでない」(拍手)両方とも事実です。

一方においては明らかにアジアのいちばん端に立地しております。しかし、社会構成においては、いくらか見積もっても百年近い差があります。いま、全アジアの諸国はすべて日本がかつてたどった道を、もっと効率的に、もっと有効に、そしてフルスピードでもって進みつつあります。その意味で全部が共通点をもつ日はもう目前に迫っております。その意味では一緒であると。

私は友好親善という言葉は嫌いでございまして、もっと具体的に、極端に言うたら要するに全アジア、地域としてのアジアは「あんじょう商売しまひょうな。あんじょう物づくりに励みましような。お互いに経済成長してより豊かになりまひょうな。そのためには助け合いしまひょうな。はい、やりましよう」というのが結論に近いのではないかと考えるわけでございます。(拍手)

提言

日本人へのアドバイス

司会(道上) 私がまとめることは何にもございせん。最後に「あんじょう商売やって、うまいことって、みなで助け合いましようね」というための提言を最後に一言ずつ皆さんからお願いします。あんじょう商売をやるための、皆さん方からの日本への提言という意味合いです。まずタイのスパラットさんから。

スパラット(タイ) もっと黒字貿易解消をするために日本のできることは、海外の製品開発、技術移転がとても重要な仕事じゃないかと思ひます。

司会(道上) マレーシアのラフマンさん。

ラフマン(マレーシア) さっき言ったとおり、貿易の面でいろんな国、たとえばマレーシアに行っても、中国に行っても、仕事だけじゃなくてその国のこともわかっていれば、もっとうまく仕事もやれると思ひます。

司会(道上) 中国の張 紹詰さん。

張(中国) さっき先生は「友好親善」という言葉は嫌いだと。実は「中日友好」という言葉、あるいは「一衣帯水」という言葉が外交辞令として使われているんですが、あれはあんまり好きじゃない。というのも中国も日本のことをあんまり知らない。しかも日本は中国のことについてもあんまり知らない。商売をする上では、その文化を理解しないと商売はなかなか成功できないと思ひ

ます。だから経済一本筋ではだめやなと思ひて、相互理解が必要なんです。

司会(道上) オーストラリアのレオニーさん。

レオニー(オーストラリア) 企業の公益活動にも関連するんですが、皆さまのご活動も2つの役割があると思ひます。なるべくこの2つを同時に果たすように続けていたいただきたいと思ひています。一つは、ロータリーもなさっているように、日本の理解を深めることだと思ひます。これは最近、日本は非常に活発で有意義なプログラムとか、いろいろ活動していると思ひます。

現地への理解と誇りと愛

もう一つは、そういった活動を通じて現地に対する知識と理解とプライドを高めることです。「自分を愛しなければ相手を愛することはできない」ということは非常に意味深い表現だと思ひておりますけれども、そういう親善活動をするときには、現地の人の文化を守りながら、その文化を理解するための活動も行いながら、日本の理解を深めることも大切だと思ひています。

司会(道上) インドネシアのアグンさん。

アグン(インドネシア) お互いに人間として付き合っしてほしいですね。それと相手かだれというのじゃなくて、相手の立場を考えていただきたいんです。相手はこういう人ですから愛される前に相手を愛するというように考えていただきたいと思ひます。

相互競争から相互理解が生まれる

司会(道上) 最後にベトナムのロアンさん。

ロアン(ベトナム) このロータリーの奉仕、ボランティア活動のことについて、すごく感激します。私はベトナムの教育についてすごく関心をもっています。いま、ドイモイ^{*}という政策のお蔭でベトナムの経済はちょっと発展しています。しかし、反対にその結果、貧しい人とお金持ちの人の差がだんだん大きくなっています。結局は、以前と比べて教育の状態は悪くなったと言えます。

谷沢(コーディネーター) 「相互理解」という言葉は、単に理解してもらいたいという受け身の姿勢ではなくて「理解させ合う努力の相互競争」というふうに解釈して、そう受け取りながら、未来を展望したいと考えております。

司会(道上) 皆さん長時間本当にありがとうございました。

*ドイモイ：ベトナム語で刷新を意味する。自国の現実を直視、新たな経済・社会建設に取り組むベトナムの意欲を表わしている。

閉会のことば



相互理解で「世界はひとつ」

大会副委員長 仲井光夫

シンポジウムがたいへん成功裏に終わりました。私は大会副委員長で門真ロータリーの会長をしております仲井でございます。

今日は、国際ロータリーの会長代理のステーブ・K・ヨシダさま、並びに令夫人の脩子さま、わざわざ遠くアメリカからご出席を賜りまして心から厚く御礼を申し上げます。また、各地から多くの来賓の皆さん方、ご出席を賜りまして、本当にありがとうございました。

開会式に続きましての、ただいまのシンポジウムを聞いておまして、思いおこしますのは、私も昨年までは関空の開港に向けて携わってきた一人でございます。その結果といたしまして、特にベトナムが日本からの初めてのラインとして、昨年から就航させていただいたということでもあります。今では本日の参加国全部にラインが引かれております。そして成田以外の世界の各地へ関空から非常に多く飛ぶようになってまいりまして、現在では中国の上海までが1時間半で行ける距離になっております。

本日のシンポジウムで若い人たちのご意見を聞き、たいへん感銘いたしました。相互理解というよりもお互いの国の民族、歴史を知らないといけないと、最近つくづく感じているところです。道上洋三さんの司会、そして谷沢永一さまのコーディネーターが簡略にして明解に伝わり、加えてパネラーの皆さん方の日本語が非常に堪能であったことです。私は常々日本人のいちばんの問題は英語力だと思っている一人ですが、日本の英語教育の早い時期の改革を痛感致しました。

とりわけロータリーに入りまして、いま、何をすべきかを模索中ではありますがこれからは日本オンリーということではなしに「世界はひとつ」という認識を思い新たにお互いに交流しながら高めてまいりたいと思っている次第であります。

このあと各部門別懇談会と並行して「家族のつどい」をダイヤモンドルームで、そして夕刻には一同に会して晚餐会を行います。

明日は場所を変えましてフェスティバルホールで第2日目を行います。それぞれの会場に多数のご出席を賜りますようお願いを申し上げて閉会のご挨拶に代えます。ありがとうございました。(拍手)

●プロフィール●

コーディネイター

谷沢 永一

評論家 関西大学名誉教授

昭和4年、大阪府生まれ。27年関西大学国文学科卒業後、同大学大学院、助手を経て43年教授に就任。文学研究の他、政治・社会全般にわたる鋭い批評には定評がある。平成3年、関西大学より名誉教授号を授与される。昭和55年サントリー学芸賞、平成元年大阪市民表彰文化功勞を受ける。近著『人間通』（新潮社）。

司会

道上 洋三

A B Cアナウンサー

朝日放送アナウンス部所属

昭和18年、山口県生まれ。日本大学法学部卒業後、昭和40年朝日放送入社。翌年から、アナウンサーとして、同社ラジオの深夜放送「A B Cヤングリクエスト」を10年間担当。52年からは「おはようパーソナリティ」を担当、同社ラジオの朝の顔になるとともに、プロ野球の実況でも多くの聴取者に親しまれている。

会長・幹事・会員増強部門

本年度第2660地区では特におおきな目標として増強が謳われている。『増強なくして奉仕なし』の精神のもとにR.I.本部、地区ともに積極的に増強が推進された。

その結果、本年度(1996.5.2現在)の純増員数は、国際ロータリーで60,000人超、第2660地区では330名を超えている。まさに記録的増強となった背景には地区内全会員の結束力であると考えられる。

また、冒頭R.I.会長代理スティーブ・K・吉田氏は拡大に触れられ『ロシア、シベリア地域の拡大には日米両ロータリアンの協力が是非とも必要』と期待感を強調された。

リーダー	熊澤 忠躬(ガバナー)
	中野 董夫(パストガバナー)
サブリーダー	中川 章三(ガバナーノミニー)
	土井 正裕
	田中 研一
	小山 隆三
S.A.A.	深田 清一
	藤原 明弘
記 録	伊藤 宜史

司会(深田) 会長・幹事・会員増強部門懇談会を始めさせていただきます。私は、本日の司会役を務めさせていただきますS.A.Aの、守口ロータリークラブ・深田清一でございます。同じくS.A.Aの藤原明弘と記録担当の伊藤宜史でございます。よろしく願いいたします。それでは、まず初めにリーダーのご紹介をさせていただきます。本年度地区ガバナー、守口ロータリークラブ・熊澤忠躬さんでございます。パストガバナー、大阪阪南ロータリークラブ・中野董夫さんでございます。

中野リーダーは、昨日からR.I.会長代理のエイドとしてお務めいただき、たいへんご苦勞を願っております。後ほどまたエイドとして中座されますので、お含みおき



をいただきたいと思います。

次にサブリーダーの方々のご紹介をさせていただきます。1996年度より1997年度ガバナーノミニー、大阪城南ロータリークラブ・中川章三さんでございます。地区規定情報委員長、大阪北ロータリークラブ・土井正裕さんでございます。地区会員増強委員長は、大阪平野ロータリークラブ・山崎啓一さんになっておりましたが、急な所用によりお越しいただけません。代行といたしまして田中研一さんでございます。前地区代表幹事、大阪阪南ロータリークラブ・小山隆三さんでございます。

それでは、進行させていただきます。ご挨拶を熊澤リーダー、よろしく願いいたします。

熊澤(リーダー) ご挨拶申し上げます。皆様、たいへんご多忙、そしてタイトなスケジュールのなかでお集まりいただきましてありがとうございます。

ただいまから部門別懇談会で、「会長」「幹事」、そして特に私、お願いしまして「会員増強部門」を入れていただきまして、この懇談会を始めさせていただきます。この会議は、R.I.会長代理・スティーブ・K・ヨシダさまをお迎えしまして、決議(案)、会員選挙の方法、国際会議に参加したノミニーの話などをまじえての会議でございます。

まずこの1年間、非常に誠心誠意、奉仕の行動に努められ、見事な成果を挙げていただきましたことを心よりお礼申し上げます。その報告を皆さんにさせていただきました、そして来年に向かってどのように進めるかという一つの基礎的な参考資料を提出することになります。これもアンケートでもっていろいろとお伺いしてあるかと思しますので、その報告もでございます。

以上をもちまして、私のご挨拶といたします。よろしく運営させていただきますようお願いいたします。(拍手)

司会(深田) ありがとうございます。

次に、R.I.会長代理・スティーブ・K・ヨシダさんからお言葉を頂戴いたしたいと思えます。

ヨシダ(R.I.会長代理) 熊澤ガバナー、ロータリアンの皆さま、私は今回、大阪に来ることができて非常にうれしく思っています。ブラウン会長の代理として私がまいりましたのは、いま私がやっている仕事の関係でのごことだと思っています。われわれの5010地区にはカナダ、アラスカ、そして3分の2のロシアが入っています。昨年、

私はガバナーとして、シベリアに、クラブ訪問するのに2日間もかかるようなところまでまいりました。ときには水もないところや非常に貧しいところもありました。しかし、このごろのロシアは非常にスピリットがあります。このようなロシアのロータリアンたちと会いまして、これから平和を保っていくためにロータリーとして非常に大事な仕事があるのではないかと考えています。

ロータリーがこのシベリアに初めてのクラブをもって3年たちますが、どんどん伸びております。日本のロータリアンの方々にもそれを理解していただきいろいろお手伝いをしていただければ平和のために非常にいいのではないかとと思うのです。現在(ロシアでは)アメリカやカナダの人々が一緒になって新しいクラブをどんどんつくっておりますが、日本のクラブはこれからだということですので、そのこともいろいろと報告していきますが、ご理解とご協力をいただければと思っています。

ブラウンさんのテーマは“Work for peace”です。平和のための運動をすることが一つの大きな目的(テーマ)として入っています。これほど重要なことはこのロータリーの世界ではありません。実際に私は、cold war(冷戦)が終わり、ロシアがアメリカとなんとかうまくいくようになっていくのをこの目で見てきました。これに日本も参加して、ロータリーの力でその平和が続くように、そのような願いをもって皆さんのご協力をお願いしたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。(拍手)

司会(深田) どうもありがとうございました。R.I.会長代理が退席されますので、皆さま方、盛大な拍手でお送りいただきたいと思えます。

(R.I.会長代理 退席)(拍手)

ありがとうございます。

次に、大会決議(案)を、大会決議委員長の中野リーダーよりお願いいたします。

大会決議案報告

中野(リーダー) 明日の大会で決議をお願いするのですが、会長・幹事の方々に決議(案)の内容をご紹介します。了解願いたいと思えます。

では、決議(案)を読ませていただきます。

決議第1号

**国際ロータリー会長代理 スティーブ・K・ヨシダ氏
に対する感謝の件**

「国際ロータリー元役員、スティーブ・K・ヨシダ氏は、国際ロータリー会長、ハーバード・グラハム・ブラウン氏の代理として、公私にご多用のなか、令夫人とともに遠路はるばる本大会へご臨席賜り、国際ロータリーのテーマ『真心の行動、慈愛の奉仕、平和に挺身』を推進するために極めて格調の高いメッセージと豊富なロータリー情報により参加者全員に深い感銘を与えてくださいました。よって、本大会は国際ロータリー会長代理、スティーブ・K・ヨシダ氏に対し、深甚な謝意を表することを決議します。」

ただいまの文章の内容は、明日いただく内容のお話を先取りしてつくった文章でございますが(笑)ちょっとご了解願いたいと思います。

続きまして、決議第2号でございますが、これは私に関することでございますので、私の代わりにガバナーに読んでいただきます。(笑)。

熊澤(リーダー) それでは、代わりまして決議第2号を報告いたします。

決議第2号

**国際ロータリー第2660地区直前ガバナー、中野董夫氏
に対する感謝の件**

「直前ガバナー、中野董夫氏は、真摯な学究の徒として地区内外の信望を得られまして、1994年度～1995年度の国際ロータリーのテーマ“be a friend”を身をもって垂範されました。特に1月17日の阪神大震災直後にアド・ホック援助プロジェクトをつくりまして、地区全員を指導してすばらしい奉仕活動を行われました。卓越したご見識と優れた指導力によるこれらの幾多のご業績は、地区ロータリアン一同の深く感銘するところであります。よって、本大会は直前ガバナー・中野董夫氏に対し、その功績を讃えるとともに、深甚な感謝の念を捧げることを決議いたします。」

以上でございます。

中野(リーダー) ありがとうございます。たいへん面映い文章を聞かせていただきまして恐縮いたしております。

では、続きまして決議第3号です。

決議第3号

研究グループ交換実施の件

「本大会は国際ロータリー第9980地区(ニュージーランド)と当地区との間に合意されている1996～97年度の研究グループ交換プログラムに賛同し、区内全クラブがその実施に積極的に協力して、国際理解増進の成果を挙げることを決議します。」

決議第4号

1994～95年度収支決算表(監査報告付)を承認する件

「本大会は、国際ロータリー第2660地区、1994～95年度収支決算表(監査報告付)を承認することを決議します。」

決議第5号

**1995～96年度カルガリー国際大会の推進に協力する
件**

「1996年6月23日から26日まで4日間、カナダのカルガリーにて開催される国際大会に国際ロータリー会長、ハーバード・グラハム・ブラウン氏は多数のロータリアンとその家族が参加することを要請されております。よって本大会は、これを受けて多数の会員および家族の参加推進を決議します。」

決議第6号

1996年アジア地域大会の推進に協力する件

「1996年10月25日から27日までの3日間、タイのバンコクにおいて開催される地区大会に、国際ロータリー会長エレクトのルイス・V・ジア氏、多数のロータリアンとその家族が参加することを要請されております。よって本大会は、これを受けて多数の会員および家族の参加推進を決議します。」

決議第7号

**地区大会のホストクラブ、コ・ホストクラブおよび
協力諸団体に対する感謝の件**

「今回開催されました1995～96年度国際ロータリー第2660地区の地区大会が、地区内外のロータリアン多数のご参加を得て輝かしい成果のうちに終了できまことは、ひとえにホストクラブである守口ロータリークラブ、コ・ホストクラブである門真ロータリークラブの会員、ご家族、および関係の皆様のご長期間にわたる周到なご準備と献身的なご奉仕、ならびに関係協力諸団体の絶大なご協力の賜であります。

よって、本大会は、ホストクラブである守口ロータリークラブ、コ・ホストクラブである門真ロータリークラブの会員、ご家族、および関係の皆様方ならびに関係協力諸団体の各位に対し、深甚の謝意を表することを決議します。」

決議第8号

次年度地区大会開催に関する件

「本大会は国際ロータリー第2660地区1996～97年度の地区大会を、大阪城南ロータリークラブをホストクラブ、および大阪東南ロータリークラブをコ・ホストクラブとして、1997年4月18日および19日の両日、大阪市において開催することを決議します。」

以上でございます。これを明日の決議(案)として上程いたしますので、ご了承願いたいと思います。

司会(深田) どうもありがとうございました。

次に、会員増強につきまして、サブリーダーの田中さんから、よろしく願いいたします。

会員増強の成果

田中(サブリーダー) 会員増強委員会の田中です。

皆さんご存じのように、本年度は国際ロータリーにとって会員増強の部分に特に記念すべき年となるようでございます。全世界で1年間に6万人を超える新たなロータリアンのメンバーをお迎えしております。現在もなお増えております。長いロータリーの歴史のなかでこのような記録的な数字は過去にはございませんでした。

わが国25地区の、3月末ですでに4千名を超える新たなロータリアンをお迎えしております。当2660地区について申し上げるならば、ご存じのように熊澤ガバナーが年当初から今年度の最大活動目標として会員増強を掲げておられました。多くのクラブでも会員増強のプロジェクトチームを編成して、その努力をしていただいていたわけでございます。

その成果につきましては5月2日現在でクラブ数が大東中央さんが増えまして81クラブ、総会員数が5678名、332名の純増新メンバーをお迎えすることができております。

カルガリーキャンペーンについて少し触れさせていただきたいと思います。カルガリーキャンペーンは全世界のすべてのゾーンで会員の純増率の1位を競っていただき、その最高数字を記録したクラブを優勝地区とするも

ので現在もやっております。当2660地区はご存じのように第3ゾーンに属しております。たいへん幸せなことに、きょう現在、第3ゾーンで当2660地区は1位でございます。その純増率は6.449%となっております。

順位のことを申し上げるのは少し変かもしれませんが、第2位が2630地区(岐阜・三重地区)でございます。その増加率は6.342%と、極めて僅少差で両地区が競っているでございます。

ご案内のとおり、カルガリーキャンペーンは5月17日で締切でございます。きょうは5月10日ですからちょうどあと1週間でございます。ここまで皆さんにご努力いただきまして再度のお願いをするのはたいへん恐縮でございますが、さほどに非常に競っていることをご理解いただきまして、残り1週間、いま一度のご協力をお願いできればなと思っております。2660地区が第3ゾーンでの優勝地区という栄誉を受けることができればたいへん喜ばしいことではないかなと私ども一同考えております。ぜひよろしくご協力をお願いしたいと思います。

会員増強はロータリー活動の源泉

もちろん、5月17日、カルガリーのキャンペーンの締切日がイコール、ロータリーの増強の日の締切となるわけでもございません。ロータリーの活動とは、その源泉は常に会員の増強でございます。これはガバナーが常々おっしゃっておられることでございます。ロータリーの理念といいますか組織、こういうものはすべて永遠に続けられなければいけないもので、本年度はこの増強に関する機運、ムードが地区内で非常に高まっております。ガバナーノミニーがお見えてございますが、ぜひ次年度もこの機運、ムードを引き続きお持ちいただきますように。また、あわせまして次年度の会長、幹事さん、各委員長にご伝達、バトンタッチをいただければ地区増強委員会としてはたいへんありがたいなと思っております。

それから、もう1つだけご報告させていただきます。このプログラムで28ページ、特別ガバナー賞を定めさせていただいております。これは1995年7月1日から本年3月1日までの期間に会員増強に特別ご協力いただいたクラブをガバナー賞として表彰させていただこうというお話で、当2660地区では吹田ロータリークラブさんを最優秀クラブとして、明日また表彰させていただきたいと思っております。吹田ロータリークラブさんは、13名の

純増新会員を増やすという成果を挙げていただきました。

同じく優秀クラブは、上位7クラブをここに挙げさせていただきます。大阪イブニングロータリークラブ、大阪御堂筋ロータリークラブ、この2クラブは12名の増員を果たしていただいております。大阪北ロータリークラブ、大阪大淀ロータリークラブは10名の増員を、大阪ロータリークラブ、大阪城南ロータリークラブ、大阪中央ロータリークラブ、この3クラブにつきましては9名の増員を果たしていただいております。(拍手)



熊澤(リーダー) ありがとうございます。それにちょっと付加して申し上げますと、明日の第2日目の大会におきまして、現況報告で私もスライドをもって報告いたしますが、私の資料は3月22日で統計をとっておりますのでちょっと少なく、もちろんゾーンの中では当地区はトップだろうと思うのですが、6.31%の増でございます。それから後に増えたことをつけ加えておきます。

また、このゾーンは恐らく日本一だろうと思います。この第3ゾーンは非常に活発なゾーンでございます、日本のゾーンのなかでは1番だろうと思いますから、ということは、日本では1番であるということになるかと思えます。あと5名だそうでございますが、(笑) ちょっとご認識のほど、お願いいたします。

それから、世界中で調べますと、ゾーンが12万名でございます。ディストリクトは世界中に515地区がございますが、このなかでいきますと32番目でございます、1番は韓国のソウル、2番目がエジプトです。韓国のソウルの場合は1300名を超えて増強しているのでございます。

司会(深田) 順序が変わりまして、6番目の会員選挙の方法に関するクラブ細則の規定について、土井サブリーダーからお願いします。

会員選挙に関する細則について ～R.I.で1995推奨クラブ細則が改正～

土井(サブリーダー) 会員選挙の方法に関しまして、推奨クラブ細則が昨年7月にR.I.の理事会で改正されました。多くのクラブではこれを受けて細則を改正されていると思ひまして、アンケート調査を致しました。

全クラブに質問票をお送りしたのですが、実施したということで改正の具体的な条文をお送りいただいたクラブは23クラブにとどまりました。その他「まだこれから実施する」「こういうスケジュールで実施しようとしている」とのお答えをいただいたクラブもかなりございました。

そういったことで、今後のクラブのご参考にもなるかと考え、23クラブの回答をとりまとめた資料をお配りしました。これにつきまして簡単にコメントを加えさせていただきます。

ご案内のとおり、会員選挙の方法に関する規定がいくつかの点で変わっております。まず第1点は、従来は幹事に提出されました会員候補者の推薦、これは理事会に提出されますとすぐに職業分類委員会あるいは会員選考委員会に対してそれぞれ調査あるいは審査をして、その結論を次の理事会に提出するようにと理事会から諮問されておりました。新しい規定では、その「職業分類委員会と会員選考委員会に対する調査または諮問」という言葉が消えており、その右側の表の中に書いてございますように「理事会が確認すること」となっております。このことから、実はR.I.に対して世界各地のクラブからいろいろな質問が出されております。「もう職業分類委員会あるいは会員選考委員会にまったく諮問しなくてよくなったのか」という質問がその大半でございます。

これにつきまして、その表の下の「クラブからの質問に対するR.I.の回答要旨」のところに書かれておりますように、R.I.の回答は、「新しい推薦手続きでは会員選考委員会と職業分類委員会の調査は不要になったということではありません」と。

スピード化される会員推薦の処理 ～最終は理事会確認と責任～

では、本条項の改正の意図はどこにあったのかと申しますと、その「要旨」の1と2にありますように、新たに規定された「30日以内に会員の推薦を関係委員会を通じて迅速に処理するのはクラブの理事会の役割である」このことに焦点を当てたかったのだということでございます。ですから、つまり「迅速に処理してほしい」ということです。また2番目でございますように、「提出されたすべての案件に対する承認・不承認の最終責任は理事会にある」ということです。委員会で審査していただくのですが、最後に決定するのは理事会ですから、最終責任は理事会にあると。そのことを明確に規定したかったので「委員会」の文言を削ったというのがR.I.の考え方でございます。

これに関して、今回、アンケートで23クラブから回答をいただきましたが、改正後の推奨クラブ細則の通りに決められたところが17クラブでございます。残り6クラブは、ただいま申しましたような趣旨をご理解されまして、それなら従来どおりおいておいたらいいじゃないかということで従来の規定をそのまま残しておられるクラブでございます。

なお、釈迦に説法でございますが、推奨クラブ細則といいますがものの性格は、標準クラブ定款と違いまして、単に推奨されているにすぎない、R.I.理事会がクラブの指針としてその採用を勧めているに過ぎないものでございまして強要はしておりません。

次のページに、理事会の審査期間は30日という期間が設けられたことが書いてございます。これにつきましては、23クラブ中19クラブと、ほとんどのクラブは推奨クラブ細則の規定どおり「30日以内に決定して通知する」とされておりましたが、やはり例外的にそうはいかないことも当然予見されます。

私は個人的には上から2つ目の「やむを得ない事情がある場合を除き30日以内」、このへんが妥当であろうと思っていたわけです。

次に、ロータリー情報提供の件についてでございます。これも改正前に比べますと、「ロータリー情報委員会が推薦者と一緒に提供する」という、その「ロータリー情報委員会」という委員会の名称が今回は削られております。しかし、これも先ほどの選考委員会と同じでございます。

まして、委員会の任務を決めております推奨細則の規定には、ロータリー情報委員会の任務として、会員候補者に対してロータリーの目的やロータリアンの権利・義務等を説明することが任務として決められておまして、当然これはロータリー情報委員会がやるべき仕事でございます。

そういったこともございまして、その表の下にございますように、16クラブは推奨クラブ細則の規定どおり情報委員会の名称は削られましたが、7クラブは従来どおりロータリー情報委員会という委員会名をそのまま残していらっしやいます。

次に3ページにまいります。被推薦者については会員に名称その他を公表しまして異議の申し立てを受けるのでございますが、その期間が従来「10日」から「7日以内」へ3日間短縮されました。これにつきましてはほとんどのクラブが「7日間」と短縮されましたが、1クラブだけ従来どおりの規定を残していらっしやいます。

また、もし異議申し立てがあった場合、理事会で再審査するのでございますが、そのときの採決の仕方につきまして、5の表の中でございますように、従来はそれぞれのクラブが細則のなかで妥当な票数を記入いたしました。例えば推奨細則はそこは白紙になっておまして、出席メンバーの反対投票が、多くのクラブは「1票を超えなかった場合」（つまり2人以上反対がなかった場合）、あるいは一部のクラブでは「2票を超えなかった場合」と規定されておられましたのが今回は推奨細則では単に「票決を行う」と決めまして、19クラブはそれをそのまま細則に規定されました。「票決」といいますと「過半数」と解釈するのが常識的な解釈だろうと思うのですが、表の下にありますように、「3分の2以上であれば入会の承認」と書かれたクラブが1クラブ、従来どおり「1票を超える反対意見があれば入会は承認しない」としているのが3クラブでございます。大阪北ロータリークラブでは従来どおりの規定をそのまま残させていただいております。

インフォメーションと オリエンテーションの実施を

最後に、「オリエンテーション」という言葉が入会手続きのなかに用語として入ってきております。4ページでございます。従来は「クラブの例会において新会員と

して正式に紹介されなければならない」という記述だけであったのですが、改正後は「入会式とオリエンテーションを行う」という具合に変わっております。情報委員会によるいわゆるインフォメーションの提供がすでに行われて、そして入会式とオリエンテーションを行うこととなります。「オリエンテーション」をそのまま訳しますといわゆる「クラブ案内」でございますので、これは私なりの解釈ではありますが、インフォメーションの提供とはどちらかといえばロータリーの基本的なことを話をしておいて、オリエンテーションではそのクラブの具体的な現実の活動とか、あるいはその方が配属される委員会の活動などを説明するものではないかと思っております。

R.I.が発行しております「会員増強と退会防止の手引書」というものがございまして、多くのクラブが既にお持ちかと思いますが、そのなかに「オリエンテーション」についてかなり詳しく説明されております。それは新たに入会された会員1人について必ず顧問ロータリアンを1人つけて、その方にロータリアンとしての必要な知識をしばらくの間、例会で同席してお話するとかあるいは質問に答えるとか、初めてのメーキャップには一緒についていってあげるとか、そのように懇切丁寧に指導するようにと、それがオリエンテーションであるという解説が行われております。そういったことを並行していくのも適当な方法であらうかと思えます。以上が皆様方から頂戴いたしましたアンケート調査の回答でございます。

国際協議会に参加して

～中川ガバナーノミニ～

司会(深田) ありがとうございます。それでは次に「国際協議会に参加して」に移らせていただきます。中川ガバナーノミニ、よろしく願いいたします。

中川(サブリーダー) 日本から34人のガバナーノミニがアメリカのアナハイムで、この2月18日から、1週間の研修を受けてまいりましたのでそのお話をさせていただきます。

かねがね「1週間の研修はつらいですぞ」とパストガバナーの方々からお話を伺っていたのですが、本当に朝早くから夜遅くまでまるまる1週間、研修がございました。

次の月曜日がいよいよ本会議でありまして、そのときにはただいまのR.I.会長のブラウン氏が主となって、次年度会長エレクトのルイス・ヴィセンテ・ジアイ氏を紹介されました。アルゼンチン出身の方でございます。

本会議のときには、例年発表になりますようにR.I.のテーマがございまして、その方のテーマは「築け未来を行動力と先見の眼で」でございます。その発表に引き続いてジアイ会長エレクトのお話がありました。それはメッセージといえますか、ジアイさんの目標といえますか、それが6つほどございました。

最初に大きなものを申し上げますと、やはり会員の増強でございます。皆さん方も、「会員増強はまだ終わっていないのでしっかりやってほしい」というブラウン会長からの書簡が皆さん方の会長さん宛に届いたことはご存じかと思えます。

新世代の育成をはかろう

そういうことで、会員増強については、今年度にも増して増強していただきたいということでございます。

ほかにもテーマにしたがっていろいろあるのですが、その1つに新世代を育てるために「新世代の育成をはかろう」というのがあります。勿論、未来を築くための目標ですけれども、やはり次代を育成する、未来を築いていくのはやはり新世代、若い人たちですから、30歳ぐらいまでの若い人たちに各クラブで新世代のためのロータリー会議を地区ではなしに、各クラブの皆さんでそれぞれ青少年月間のときにしてくださいという大きなメッセージがございました。

また、その次に、ロータリーの先達に対して敬意を払いましょうというお話がありました。といいますのは、来年1月27日でございますか、ロータリー創始者のポール・ハリスの没後ちょうど50年にあたります。そこで、来年1月にはポール・ハリスを偲んで各クラブでいろいろなことをやっていただきたいという大きなメッセージがございました。

また、もちろん、財団に貢献していただきたいと。やはりこのロータリーを発展させていくためには財団へもいろいろな寄付をしていただきたいと。そういったお話がございました。

そういう本会議が毎朝8時半ごろからございまして、ずっと会員増強の話や財団の話とか、ポリオプラスの話

とか、それぞれ担当のR.I.の理事さんからお話を伺い、それがすみますとお昼が済んで、直ちにグループセッションがごさいます。われわれ日本のノミニーは2つに分かれて、グループセッションリーダーのもとにノミニーとしての会の運営の方法などいろいろなことを教えこまれました。

2004年R.I.世界大会に向けて

また私たちノミニーのパーティーの席上でラージ事務総長が『2004年にはこの大阪で世界大会を開く予定である』と、挨拶されました。今井理事もわれわれ近畿の4人のノミニーを呼んで、「そういうことからよろしく頼む」とおっしゃっていらして、現在では着々とやっておられると思います。

次年度、私のときのテーマは「築け未来を、行動力と先見の眼で」でございます。やはり先見の眼でもって「ただ闇雲に行動しただけでは骨折り損のくたびれもうけになりますよ」とジアイ会長もおっしゃっておられまして、いろいろなロータリーの各クラブのプロジェクトを開始するにあたって、やはり先見の眼でもって行動していただきたいということでもございました。(拍手) 司会(深田) どうもありがとうございました。最後にガバナーから閉会のご挨拶をお願いいたします。

大阪の将来を建設しよう

～熊澤ガバナー～

熊澤(リーダー) 私、アナハイムから会長さんに「カルガリーに挑戦しましょう」というお手紙をさし上げましたが、中川さんのときもグラスゴーに挑戦ということだそうですね。もうこれで種が尽きたとおっしゃらずに、これで会員増強の一つの弾みがついたというお気持ちで、なお増強をお願いいたします。私も会長部門のカウンセラーでグラスゴーに挑戦ということだそうですね。私も会長部門のカウンセラーでございますので、またいろいろと皆様をお願いにあがると思います。

先ほどおっしゃいました2004年の話はもう着々と進んでおりまして、実を申しますと、この15日に視察団がエバンストンから2人見えます。そしてパーティーをやりまして、16日に大阪シティードームを見学に来います。

その結果、このお2人がエバンストンで報告しまして——もう日本でやることは決まっています。まだ韓国も

香港も手を挙げているのだそうですが、なぜ日本でやるかといいますと、日本がいちばん、特に大阪がいちばん、いろいろな面でロータリーの活動をしているということ、大阪ドームという5万人ドームがあることからなのです。そしてこれが8年先なのです。8年先ということになりますと、どうも私ども、あまり生きている自信がございせんので、(笑)古田さんともども相談いたしまして、なるべく若いガバナーをつくらうと。少なくとも2004年の5年前の1999年までに75歳以下のガバナーをつくらうということ非常に頭を悩ませております。そういう意味で、近々、私が指名委員長になったときにはお若い方のなかで活力のあふれた、そして語学の堪能な方をマークしましてアプローチにかかりますので、その節は断らずによくお願いいたします。

これから先、ますます皆さんのお力添えをいただくことになると思いますが、まあ何と申しまして国際大会を日本でやる、大阪でやる、「大阪の国際大会は」ということは必ず世界中で話題になるのでございますから、「将来はいまからである」というのが今度のターゲットでございますので、「未来を建設しよう」という意味で、大阪にとっては非常にうってつけのテーマであろうと思いますので皆様、またご協力をお願いいたします。(拍手)

司会(深田) 長時間にわたりまして熱心なるご討議、ありがとうございました。これで会長・幹事・増強部門を終わらせていただきます。

ガバナーノミニー中川章三略歴

生年月日	1922年6月16日生
学歴	1945年3月 大阪高等医学専門学校 卒業 1960年12月 医学博士学位記授与(大阪市立医科大学)
職歴	1952年5月 南大阪病院小児科長 1959年7月 大阪市立城北市民病院 小児科医長 1964年7月 同 小児科科長 1976年4月 大阪市立十三市民病院 小児科科長 1982年4月 同 第2診療部長 1983年6月 大阪市停年退職 7月 協和会加納・北大阪病院小児科部長 1985年10月 関西女子短大 講師 1994年12月 協和会病院、関西女子短大 退職
ロータリー歴	1969年5月 大阪城南ロータリークラブ チャーターメンバーとして入会 1971～72年度 理事(国際奉仕委員長) 1976～77年度 幹事 1981～82年度 会長 1987～88年度 理事(社会奉仕委員長) 1995～96年度 理事(ロータリー情報委員長)
職業分類	シニア・アクチブ(小児科)
その他	ポール・ハリス・フェロー 米山功労者

職業奉仕部門

私たちの入会の直接のポイントとなっている職業奉仕委員会は、ロータリーにおける最も現実的奉仕路線といえる。

この委員会の目標は職業そのものが奉仕の一環であり、職業奉仕の精神を通じて“内と外に企業倫理を高めること”ただ1点としている。ロータリーの語る金看板といわれる所以でもある。その職業奉仕委員会が、力を尽くして研究し、今後世界のロータリーの動きにまで視野を広げて、R.I.へも地区として提言を行っていかうというのである。

リーダー	廣瀬勲一郎(パストガバナー)
サブリーダー	久我 三郎 岡本克持郎
S.A.A.	楠神 壽
記録	佐谷戸安好

司会(楠神) —— S.A.A.を担当いたします、守口ロータリークラブの楠神でございます。ただいまから職業奉仕部門の懇談会を始めさせていただきます。最初にリーダー、サブリーダー、そして関係者をご紹介申し上げます。

本日のリーダーはパストガバナーの廣瀬勲一郎さまでございます。サブリーダー、大阪南ロータリークラブの久我三郎さま。同じく大阪城南ロータリークラブの岡本克持郎さまでございます。そして後ほどアンケートをご報告いただきます、大阪南ロータリークラブの近藤浩司さま。地区委員の門真ロータリークラブの土田進彦さま。大阪西南ロータリークラブの丹羽健二さまの方々です。本日の記録を担当いたします、佐谷戸安好さま。(拍手)



それでは廣瀬パストガバナ―、よろしくお願いいたします。

地域貢献の要は職業奉仕

廣瀬(リーダー) 職業奉仕に関しましては、先ほどのシンポジウムでもお聞きのとおり、コーディネーターの谷沢先生の「あんじょう商売しまひよ」「仲ようやっぺいまひよ」に尽きると思います。

ところで、R.I.の奉仕の道は、ご承知のとおり、多種多様で多彩にわたって展開されております。もう国際的には世界社会奉仕、そして、地域社会に対しては社会奉仕と、いろいろと奉仕の道が開かれて、そしてそれが年々歳々、世界中いたるところで一日も休まず、地球のどこかでロータリーの奉仕がロータリアンの力で実施されているのでございます。しかし、そういったいろいろな奉仕のなかで、この職業奉仕が、このロータリーの起源とそれに基づく歴史のうえから言いましてもいちばん基本になるものでございます。「職業は奉仕の機会である」と言われておりますように、職業そのものが奉仕そのものであると言われているのです。もちろん、職業奉仕も事業をするうえにおいても、あるいは専門的な仕事をしていただくうえにおきましても、いろいろと時代の変遷とともに、ポール・ハリスが始めたころの職業奉仕にとどまらず、世界的な、あるいは地域的な、環境的な、いろいろな問題を抱えて、そしてそれを事業家も専門職務の方々も対応しながら、今日、いろいろと展開していただくことは、言うまでもないこととございます。

職業奉仕本来の道へ

そのためには、やはり事業、職務が安定して健全に運営されていくことが下敷きになっているのです。ひところ、「フィランソロピイ[※]」という言葉が、特にバブルの華やかなころにはいろいろな面でマスコミ等にも取り上げられ、また、企業のなかでもそれを非常に強く叫ばれたことがございます。それは、ただ事業を経営しているだけでなく、そこから得た収益のなかから、税引き前の利益の1%は社会のために、教育とか、保健とか、いろいろな慈善のために寄付し協力するということが言われたのでございますが、最近はその声をあまり強く聞かなくなりました。大きな時代の変化、特にこの不景気という状況のなかで、やはり企業がなかなかそれ

を実現することが難しくなってきたせいでもあると思うのです。

特に本年度は昨年度と違いまして、こうした職業奉仕本来の道について久我委員長に非常に力を入れていただいて、皆さん方にいろいろとそういう面においてご指導いただきました。昨年度はどちらかという、こういったことを軽視したわけではございませんが、ご承知のように、不法駐車違反の問題が職業奉仕で非常に大きく取り上げられて、ほとんどその面に力を注がれてきておりました。そこで、本年度はいま申し上げたような、職業奉仕という本来の精神、姿に基づいた活動をしていただいたのでございます。

APECでのボランティア活動

そして、あわせてボランティア委員会も岡本委員長には非常に力を注いでいただきました。これも前年度は一応、何10名と登録はされておりましたけれども、地震の場合には何ら機能しませんでした。非常に残念なことで、肝心のときに機能しないということは、やはりこの委員会としても、あるいはクラブにおいても何かそこに欠陥があったのではないかと思う次第であります。しかしながら、本年度はご承知のようにAPECで非常に活躍していただいて、もちろん登録もたくさんしていただきました。ああいう世界の要人が来られたときに、「しゃべることさえできたら誰でもええ」というわけにはまいりません。やはり身元の信頼のおける人たちを特に要請されたわけで、それに応えてロータリーからは各国の語学に通じた方々に大いに奉仕していただいて、ロータリーの存在の認識を深めていただくことができました。

悲しむべき交通事故死数の増加

それから、私、一つだけ皆さん方に大いに声を大にして訴えておきたいことがございます。われわれが携わったこの年度の間に、1年集計したら恐らくそうなると思うのですが、交通事故で年間1万2千人という大勢の死亡者が発生しているというこの現実であります。これは本年度だけではなくありません。昨年度もその前も、ずっとここ何年も続いて1万人台を記録しているのです。

年間1万2千人という数は日清戦争の戦死者の数に匹敵します。10年たったら12万人です。障害者を入れたらもう100万人を越すというような大きな被害が出ている

※フィランソロピイ(Philanthropy)：民間人や企業が公益のために行う社会貢献活動

のです。

われわれの足元でこういう問題がいつどこで、あの地震のようにいきなり起こるかもしれない。こういう危険にさらされた状態にあるだけに、どうかひとつこれを今後の次なる職業奉仕の活動のなかに、地区を挙げて、大きな運動に展開していただけたら有り難いと思うのであります。最近、その事故は自転車の事故にも広がっております。そしてその犠牲となっている人には老人が非常に増えております。どうかこの点もこの機会にあわせてお願いしたいところでございます。よろしく願いいたします。

あと、両委員長からまたお話しいたしますので、私はこのへんで終わらせていただきます。

司会(楠神) それでは、岡本委員長さん、よろしく願いいたします。

ボランティア活動の夜明け

岡本(サブリーダー) 資料の内訳は、1つは本年度の地区委員会の1995年度から1996年度の活動報告書のコピーでございます。2つ目は、『ガバナー・マンズリー』の3月号に掲載されました、山中パストガバナーの「APEC大阪会議開催に際しての地区各クラブの対応について」のコピーでございます。3つ目は、本日、補足としてボランティア委員会ロータリーボランティア登録者リストの追加分を配付させていただきました。

いま廣瀬パストガバナーから縷々お話がございましたのですが、私、10日ほど前ですか、ある新聞記事を見て非常に心が痛くなった、胸が痛くなった記事がございます。新聞ですから皆さんもご存じのことですが、東京だと思っておりますが、ある77歳の老いた母親が44歳の息子と一緒に餓死していたという記事。その方は老人年金で家賃を払って、1万数千円しか、生活費がなかったと。

(R.I. 会長代理・スティーブ・K・ヨシダ氏入場)

司会(楠神) それでは、会長代理がお見えになりましたので、岡本委員長の報告をちょっと一時中断していただきまして、会長代理のご挨拶をいただきたいと思っております。

ヨシダ(R.I. 会長代理) 皆さま、こんにちは。私はアラスカから来まして、いまアラスカは非常に暖かくなってきていて釣りには非常にいい時期ですから、早くアラスカに釣りをしに帰りたいと思っておりますけれども(笑)

これから職業奉仕についてのお話を引き続きされ、具

体的なお話もあるものと思いますが、このvocational serviceについてもロシアの方々に教える必要があると思っています。この大会を通じてこれから皆さんにお願いしたいと思っています。ありがとうございます。(拍手)

司会(楠神) ありがとうございます。

それでは、中断いたしましたので、引き続きましてよろしく願いいたします。

ボランティア団体としてのR.C.

岡本(サブリーダー) 先ほど、老母と身体障害者の子供さんが飢死をした、心が暗くなるお話をしておりました。私、これで非常に痛切に思いましたのは、このお母さま、この親子が人に物乞いを一切せず、そしてまた、人様のものを盗まず、人間としての誇りと尊厳に満ちながら、すでもう食べ物があったらなくなった、これから死ぬんだと従容として死に就いたと。このようなことを考えますと本当に胸に迫るものがございました。

こういった人たちを手助けするのが私どもロータリーではないかと思っております。ロータリーの“奉仕”という言葉、日本語でございますが、これはまさに“ボランティア”というように、ロータリーというものはすべて大きなボランティア団体でございます。

そこで、私もボランティアについてすべて理解したわけではございませんが、ロータリーボランティアについてのお話をさせていただきたいと思っております。

クラブレベル、地区レベルでロータリーボランティア委員会の設置が義務づけられてからもうおよそ5年ほどになります。しかし、この委員会の実質内容につきましては、まるで想像上の動物である鶴(ぬえ)と同じように、なにかさっぱりよくわかりません。

しかし、いろいろと考えてまいりましたのですが、そのなかで私どもがよく言われますことは、ロータリーとは大きなボランティア団体であって、その国際奉仕なり社会奉仕なり青少年奉仕、インターアクト、ローターアクト、いろいろ各部門がございます。すべてがボランティア活動をやっているのに、その屋根の上に屋根をかぶせるようなそういった委員会の設置が必要なのかと。これについてもアンケートの結果を集約しますと、ボランティア委員会として独自につくっていただいているところはこの地区のなかでも半数を割っております。だいた

いは職業奉仕委員長さんの兼任か、あるいは委員の方を担当者として地区に対応するために置いておかれるというのが実相ではないかと思えます。

ボランティア委員会がコーディネーターに

しかし、ロータリーボランティアプロジェクトと申しますのは、公式的な言い方をしますと、クラブのテリトリーの内外でのボランティアニーズ——例えば、いま申し上げたような親子がいるとか、障害児の施設がいろんなことで難儀しているとか、そういったクラブのテリトリー内のニーズを汲み上げ、そのニーズに対して、クラブの中や外、あるいは地区の外などへ広く目を向け、他地域のロータリークラブ、あるいは地区内のロータリークラブやボランティア登録をしておられるロータリーの方々のなかで、自分のところのロータリーボランティアのニーズにマッチするような方がおられましたら、その相手方のクラブに申し入れてその方を派遣していただく。また、自分のところのクラブにつきましては、ボランティア委員会あるいはボランティア委員がコーディネーターとなって、自分のクラブの中でのいろいろな調整をする。例えばニーズの掘り起こしにつきましては社会奉仕委員会などと提携をする、あるいは依頼をする。そしてプロジェクトを実施する時点では、その他のインターアクトやロータリーアクトの人たち、あるいは青少年奉仕の方やクラブの財務委員会の方々との調整を密接にやっていただく。そのようなことがボランティア委員会の仕事ではないかと思えます。

阪神淡路大震災を機に変わったボランティアの認識

それで、本年度にあたっての私と地区ボランティア委員会のもう一つの反省点を申しますと、前期、1月17日に阪神大震災が発生、以降、よく“ボランティア元年”と言われるほど社会的にボランティアに対する認識が根本的に高まってまいりました。われわれの委員会でもいままでに百数十名のボランティア登録を過去3年ほどの間に頂戴しています。しかし、それをもう更新せざるを得ない。特に1月17日以前においてボランティア登録していただいた方ご自身が被災者であるというようなこともかなり考えられますので、昨年度は新しい新規のボランティア登録をお願いいたしました。一応、本日の追加



分を含めて30名の新しい新規の登録者を得ました。これは大東クラブさんほか数クラブでございますが、これも次年度ではもっと拡充させていただきたいと思えます。

当年度において地区のロータリーボランティア委員会はいままで何をしていたのかについて、かいつまんでご説明をさせていただきたいと思えます。

まず、前年度から継続しておりますボランティア委員会としての阪神大震災対策委員会への参加でございます。

本年度のボランティア委員会は… ～里親クラブ制度を発足～

これにつきましては、皆さん方にもいろいろ地区や対策委員会から連絡があったと思うのですが、昨年6月、まず、熊澤ガバナーと大橋社会奉仕委員長と一緒に、2680地区へ表敬訪問も兼ねて被災地の視察にまいりました。その結果、隣接の2680地区に対する救援そのものはさほどの緊急事ではなくなったので、むしろ2660地区内の被災者に目を向けるべきではないかと熊澤ガバナーが判断をされまして、それに私どもも協力させていただいたわけです。

もう一つは、震災遺児・孤児の里親クラブ制度でございます。これは7クラブでそれぞれ一人ずつ震災孤児を面倒みてくださるというもので、小さいお子さんは確か4歳か5歳で、これが20歳になるまでですから、10数年にわたってそのクラブが1人の子供のお世話をするという、非常な多年度にわたるボランティアでございます。これは、幸か不幸か当地区内には震災の遺児も孤児もございませんでした。そこで、阪神地区のそういうところへ、私、熊澤ガバナーと大橋委員長と一緒に子供のところを訪ねて、いろいろ面接して決定いたしました。来年

にはその7クラブの方の表彰もございますが、これから長期にわたってその7つのクラブの方は大変ご苦勞が多いことと思えますけれども、どうぞよろしくお願ひしたいと思えます。

APECに100名超の 通訳ボランティア集結

また、ボランティア委員会では、これも先ほど廣瀬パストガバナーからのお話もございましたのですが、ボランティア委員会が窓口になりまして、APECに対しまして、何万という方が大阪へ来られます。その方々に対する医療救護班の編成についてのボランティア登録をお願いしましたところ、44名の医療ボランティアのドクターの方あるいはナースの方の登録がございました。そしてまた各国語の通訳では、実に104名の登録者がございまして、クリントン大統領こそ来られませんでした。各国首脳あるいはその他の随員のいろいろな通訳にあたりまして、ロータリーのボランティア通訳の方々が非常にめざましい活躍をしてくださいました。

職業奉仕を考える

司会(楠神) それでは、引き続きまして久我委員長さん、よろしくお願ひいたします。

久我(サブリーダー) 実は、ちょうど1年前、皆さん方に職業奉仕につきまして、「どんなものでしょうか」「みなさんと一緒に研究しましょう」というようなお話をさせていただきました。その当時を振り返ってみますと、要は、職業奉仕とは、われわれが企業経営をしていくについて基本的に企業倫理の向上をはかることなのだ、ということでした。

実は、私の前の委員長さんが、ご承知のように浅沼清



太郎さんで、とにかくたいへん立派な方でございました。またその前の方は芦屋の市長のご主人で弁護士の北村さんで、こういうことにたいへん精通された方でございました。

前委員長は警察庁長官(あるいは警視総監でしたか)でございまして、大阪府交通対策協議会の理事長を、2年間か3年間やられたと思いますが、どうしてもロータリーのなかに交通安全対策を徹底してやろうという強い意気込みがございました。

職業奉仕で取り上げる交通安全問題と、社会奉仕、青少年とでは若干違います。私は、交通問題に対しては、災害対策特別委員会ができましたように、一職業奉仕委員会がするものではない、むしろ全ロータリアンが一緒になって特別の委員会をつくって活動するというようなもっと大きな問題ではないかとパストガバナーといろいろ議論してまいりました。

そういう意味で、本年は、職業奉仕のなかでも交通安全については、継承事業といたしまして、この4月に大阪府交通安全協議会が主催した春の交通安全運動初日行事に参加(職業奉仕の委員の方々38クラブの43名)。約1時間ばかり、交通安全のお話を聞いたり交通安全のプラカードを持って町を歩いたりしたのでございます。

海外に目を向けて

それからまた、従来の職業奉仕とは考え方をちょっと変えて外に目を向けてみようと思ひまして、R.I.の目指す職業奉仕の研究を皆さんにご提案いたしました。実は、皆さん方のファイルのなかに、これは『ガバナー月信』のなかの一つとして入れたと思ひますが、「職業奉仕の静かな動き」——テーマは別といたしまして、要するに、バブル崩壊後の日本の経済もちょっとおかしくなってきた。経済だけではなく政治も社会もみんなおかしくなってきた。そこで日本の国も他の国と同じように、他の国が抱える問題を抱えてくるようになってきたので、それでは世界のロータリーが何をしているのかを見て、われわれもそういうことについて関心を深めなければならぬと。

昨年9月、皆さん方にご出席していただきましたクラブ職業奉仕委員会の際にいくつかの事例を近藤委員からご報告していただきましたが、それを読んでいただき、世界の職業奉仕はどんなことをしているかがおわかりい

ただいたかと思えます。特に日本と諸外国と違いましたのは、職業奉仕委員会のなかには職業相談、職業紹介、あるいは優秀な職業人の紹介とか、いろいろな項目がありますが、なかでも雇用の問題、失業の問題、あるいは高齢者の雇用の問題などについて、諸外国のロータリアンはたいへん熱心に取り入れておられることです。その資料がありましたらいま一度読んで思い出していただきたいと思えます。

雇用問題を積極的に取組む

～クラブ奉仕委員会の活動目標～

われわれの国も、いま青少年の、あるいは学卒の就職、特に女子の就職について非常に大きな問題がございます。同様に高齢者の雇用問題もたいへん大きな問題になってきております。われわれロータリーはそういうことを知らない顔をして通っていいのだろうか。どのような形でやっていけばいいのか私もよくわかりませんが、せめてそういう話題を提供したいと思ひ、従来やってまいりました地区職業奉仕委員会とは少し方向を変えて皆さん方に研究をしていただきたいと訴えた次第でございます。

何しろこうして皆さんとお会いできるのは年間3回でございます。ちょうど1年前の地区協議会、部門別協議会でお話をしたとき、それから9月3日だったと思ひますが、クラブ職業奉仕委員会、そしてきょうの総まとめでございます。私たちも、委員の人たちが例えば卓話の講師となっていくようなことも考えたのでございますが、やはり皆さん方でこういうことを研究してもらって、それぞれのクラブで講師になってやっていただくほうがなお一層理解の度合いが深いと考えましてお願いした次第でございます。

ともあれ、繰り返すようでございますが、本年度の地区職業奉仕委員会は、従来と違って、国が変わってきたからちょっと外に向いて、R.I.のことについてももう少し研究しようという訴えをしたつもりでございます。その成果は決してよくはなかったと思ひますが、10月の職業奉仕月間後に「職業奉仕月間にどのようなことをしていただきましたか、あるいは、できなかった場合にはその後どういうことをされましたか」とアンケートを取らせていただきまして、全員から回答をいただきました。お手元にそういったことをまとめて書いてございますが、

なかなか読んでもらえないと思ひますので、これをまとめていただきました近藤浩司地区委員からできるだけ簡単にご説明いただきたいと思ひます。(拍手)

報告

アンケート結果にみる 活発なR.C.活動

近藤(地区委員) 久我委員長のもとでまとめさせていただきましたので、時間も押しておりますので簡単にご報告させていただきます。

設問はA、Bと2つに分かれておまして、まず「職業奉仕月間にちなんで特別の催しをしたかどうか」でございます。「はい」と答えられたクラブの方が80クラブのうち74クラブ。ほとんどのクラブの方が何らかの催しをされております。

「はい」と答えた方に対して7つの質問が用意されています。1番、「例会に講師を招いて職業奉仕に関する卓話をもったかどうか」、これは約半分の方が「イエス」と答えておられます。

その「イエス」と答えられた方のうち、「そのときの講師のお名前、肩書、卓話の題名を答えてください」という質問では、講師はだいたい3つに分けられまして、「自分のクラブのロータリアン」、ほとんど、職業奉仕委員長の方がされております。「地区内のロータリアン」、これはパストガバナーの方やボランティアの岡本委員長などがされております。「ロータリアン以外の方」では、福祉協議会の主事や大阪大学の教授、郵便局長などの方が卓話をされております。

2番の質問で、「職場、工場等、事業所の見学をしたかどうか」、これも約半分のクラブの方が実施されています。その訪問先は、第二阪奈の地下道の工事現場やセキスイハウスの研究所、ダイハツ工業、村野浄水場などで、変わったところでは、震災で破壊されました本山アーバンライフを見に行ったというクラブもございました。

3番目の「職業奉仕の事業のなかで、優秀な職業人の表彰をしたかどうか」という質問に対しては、これは少なかったのですが14クラブの方が行っておられます。その表彰者の内容の主なところで、看護婦さんが非常に多かったようでございます。あとは警察の方だとか一般の会社の技術部の課長さん、サニーストンホテルの

方——これは事務局で使っておられる、あるいは例会場で使っておられる方のごようでした。

4 番目、「職業フォーラムを開催したかどうか」、これは約3分の2のクラブの方から「イエス」という答えがありました。そのときのテーマは、だいたいここに列記してありますテーマにほぼ近いようなテーマでございました。「クラブ内における職業奉仕の実情」「職業奉仕活動について」、珍しいところでは大阪大学の教授の方が江戸時代にも職業奉仕があったことを話されたというものがございました。講師の方はほとんどがロータリアンでございましたが、ロータリアン以外の講師を呼ばれたクラブも約18クラブございました。

5 番目、「ロータリーボランティア活動をしたかどうか」、これも思ったよりも少なかったのですが17クラブの方がボランティア活動をしておられまして、その内容は、大淀警察の依頼でAPECのために路上駐車を取り締まりに協力したとか、東大阪福祉協議会チャリティーバザーに参加した、あるいは被災地の小学生を招待して生駒野外センターでバーベキューを催した、中国人留学生の身元保証と入国手続きに協力したというようなことでございました。

6 番目、「国際ロータリーのめざす職業奉仕活動、すなわち職業相談、職業情報、職業指導に関する奉仕活動をされたかどうか」、これは、いま久我委員長がおっしゃられましたように、なかなか宣伝が効いていなかったとか、あまり皆さんご存じなかったようございまして、わずか7クラブの方がそれに類する奉仕活動をしたということでお答えをいただきました。その事例として、池田公共職業安定所所長による安定所の利用方法だとか、雇用条件の現況の講演、当地区優秀ボランティアサークルの表彰、あるいは被災者が移動先を決めるまでの家財の保管の協力など、ずばり職業相談、職業情報というものは非常に少なかったようでございます。

7 番目、「その他の職業奉仕活動をした場合、その活動について説明してください」という質問に対しまして、アンケートを実施して社是、社訓、経営方針をまとめて小冊子を作成した、APECの医療ボランティアに3名の医師を派遣した、『難しくはないヴォケーションナルサービス』を全員に配付した、といったようなお答えをいただいております。

フォーラムを開催したいとか『難しくはないヴォケ-

ーションナルサービス』を配付したいとか、新設ロータリーなので全員の職業の紹介から始めたいとか、あるいは職業奉仕に関する卓話・表彰等を実施したいなど、いずれにいたしましても全クラブの方が非常に関心をもっておられたという結果が出ているのではないかと思います。以上でございます。(拍手)

司会(楠神) あとわずかな時間でございますが、せっかくの機会でございますので皆さん方からご意見なり、実績のご報告なり、ございましたらお願いしたいと思います。

質問コーナー

任期を2年にしては

Q：前田(寝屋川ロータリークラブ) 先ほど久我委員長さんがチラッとおっしゃられたように、職業奉仕というのは、委員会のなかでは、通俗的な言葉なのですが専門職的な委員会ではなからうかと思うのですね。したがって、任期を2年にするというような制度にならないものかと、ご提言申し上げたいと思うのですが。

A：久我(サブリーダー) 同感いただきましてありがとうございます。これは担当ガバナナーのほうの権限でございますので、またそういうような議論をしていただけましたらと思います。

3委員会との共同活動の是非

Q：大槻(箕面ロータリークラブ) 私、職業奉仕をやらせていただきまして感じることは、当クラブにはボランティア委員会というのが別にございますが、仕事のなかから、奉仕をしていくうえにおいて、社会奉仕、ボランティア、職業奉仕の3つは切り離せない関連性があり、非常に重複するような問題がございます。そしてまたボランティア活動をするにはお金が要ります。そういうことで、予算の編成の面でもトータルしますと活動もしやすいのですが、3つに割りますと非常に金額が小さくなってきます。

私、来年はボランティア委員長を仰せつかっておりまして社会奉仕・ボランティア・職業奉仕の委員会とは手を組んでいかねば到底達成できないのではないかと感じておりますが。

ボランティア活動は共同して

A：岡本(サブリーダー) 私個人としては、先ほども申

しましたように、特にボランティア委員会というものはそのようなものであろうと。ですから、ロータリーボランティアプロジェクトというものは、1つのポジションでできるものもありますが、できないものもあります。そういった場合には、クラブ全員の総意といいますか了解を得て、共同で実施すると。しかし、それは何も垣根をなくして解消させるということではなく、青少年と社会奉仕、あるいはインターアクトなどが協力してもいいのではないかと思うのです。ですから、全部クラブ内での協力、合意によって一つのプロジェクトを達成するという、そういった考え方もあっていいのではないかと思います。

企業の根幹に奉仕あり

～職業奉仕はロータリーの綱領と目的の核～

久我(サブリーダー) ロータリーの綱領というのは日本語に訳すとロータリーの目的になるそうでございます。その目的は、要は企業運営についての根底には奉仕を下に持って来なければいけないと。それが職業奉仕です。職業奉仕はそういう意味で非常に広い意味を持つものです。つまり、「職業奉仕＝ロータリーの奉仕」なのです。しかし、あまりにも大きすぎるのでそれをいくつかに分けていると。例えばクラブ奉仕は職業奉仕を達成する、つまり職業倫理の向上のためにみんなが仲良くなって情報の交換をする。そして、これをわれわれは国内だけでとめておくのはもったいない。もっといい情報がある、もっと情報を流さなければならない。それが国際奉仕。そしてまた、もう一つは社会奉仕。これもわれわれがいわゆる社会奉仕をどんどんすることによって企業倫理を上げていく。そういう意味で、われわれのやっているその4つのうち、職業奉仕だけは特別に一つ入れてダブって狭義の職業奉仕というのを入れているような気がいたします。

これは『難しくはないヴォケーションナルサービス』を読んでみると、そのようにとられますので、やはり大前提は「ロータリー＝職業奉仕」で、そしてロータリーのやっていることはすべて職業奉仕だと解釈するのが一番いいのではないかというような気がいたしました。

久我(サブリーダー) 最後に実は、私、ことし1年間、廣瀬さんとお付き合いをさせていただきました、職業奉仕、あるいはボランティア活動をやっていくについて、

30～40回ぐらいお目にかかりました。やはり、ガバナー経験者でございます。いろいろな幅の広い知識を提供していただきまして、私もロータリーというものにたいへん、勉強をさせていただくことができました。(拍手)
司会(楠神) ありがとうございます。まだまだご意見なりあるかと思いますが、時間も迫ってまいりましたので、最後に廣瀬パストガバナーから講評といいますか、締めくくりを頂戴いたしたいと思います。

奉仕は論より実行を

廣瀬(リーダー) きょうは本当に長時間、ご熱心にご参加いただきまして、貴重なご意見を承り、ほんとうにありがとうございます。いまご質問がございました件についても、やはり奉仕は口で唱えているだけが能ではなくて、それを実行する、効果をあげることが目標でございますので、規則やら規定やら、そういうようなものにこだわって何もしないというのではこれは意味がないわけでございます。そういった意味で、「垣根を越えて」という岡本委員長の話どおり、また、いまの久我委員長の話のとおり、仕分けをされているのは便宜的なものであるわけでして、やはり一つの力でできない場合は二つ、三つと合わせてやる、そして実現するということが目的でございますので、私はそういう組織ということは伸縮自在に、弾力的にとらえてご実行いただければ結構だと思えます。そういった意味で、クラブ1つでできない場合はクラブ2つ、3つと一緒にやるといったこともいいわけでございます。

そういうことで、弾力的にやって大いに、あと残された50日ほどでございますが、ひとつ皆さん方、有終の美をもって本年度を飾っていただきたいと思えます。

司会(楠神) これにて職業奉仕部門の懇談会を終らせていただきます。長時間にわたりたいへんありがとうございます。

社会奉仕部門

社会奉仕の実践基準としては、人間尊重、地域発展、環境保全、協同奉仕の4つの柱に沿って行動している。

地域社会のニーズを分析しながら、各クラブ、ロータリアンが地域の主体となって奉仕することは、この委員会の責務でもある。

本年度社会奉仕委員会は、アドホック形式(一定期間に限定された特別委員会)として「阪神大震災復興対策特別委員会」を設置、被災者支援への運動を積極的に展開、その成果を充分に収められた。

また、他の活動分野においても密度の濃い内容が数多く実践されている。

被災地の復興を祈った1年

司会(疋田) ただいまから部門別懇談会を始めさせていただきます。開始に先だち本日のリーダー大森慈祥パストガバナー、サブリーダー大橋融様、藤江正謹様をご紹介します。進行を努めさせていただきますのは、秋山憲敏と私、疋田でございます。

それでは大森パストガバナー、よろしく申し上げます。大森(リーダー) もう皆さんご存じですが、この懇談会は社会奉仕の今年度の締めくくりでございます。

社会奉仕部門は、今年はやはり阪神大震災の速やかな復興を祈りながら、気にかかる社会奉仕の1年であったと思います。

昨年8月7日に地区委員長会議を開いた際に「阪神大震災の課題と今後の対策」という題で講演をいただいた

リーダー	大森	慈祥(パストガバナー)
サブリーダー	大橋	融
	藤江	正謹
S.A.A.	疋田	茂雄
記録	秋山	憲敏



のを覚えております。また、海遊館の見学時には、ロータリアンと招待者を含めて324名、いいお天気に恵まれてにぎやかに開催することができました。また、これは計画中なのですが、この5月16日に環境保全委員会が茨木のゴミ処理場の見学を行うことになっております。

それから、この社会奉仕の担当でやらなければならないものに、「阪神大震災対策委員会」というのがございます。これは役目がすんだらさっと解散するというアド・ホック委員会なのですが、これが地区にできておりまして大橋社会奉仕委員長に委員長をやっていただいております。これは皆さんご存じのフェスティバルホールでチャリティーコンサートを行いまして、大盛況のうちに終わり、800万円ほどの義援金が残ったと伺っております。また、ごく最近のことですが、この地区で被災された65歳以上の方々をお招きしまして、箕面スパガーデンで慰安会を行い、これもにぎやかにすばらしい会となることができました。あとでまた委員長から詳しくご報告があらうかと思っております。

それでは、大橋サブリーダーから社会奉仕委員会の今年度の地区の活動についてご報告をしていただきます。

今年度の活動実績

大橋(サブリーダー) 今年度、地区の社会奉仕委員長、兼、阪神大震災対策委員長を仰せつかりました大橋でございます。

この1年間、皆様方におかれましては、地区の社会奉仕活動、阪神大震災対策活動、並びに協同奉仕、そしてまた、所属クラブでの奉仕活動と、たいへんご多忙にもかかわらず、献身的にご尽力賜りましたこと、心から厚くお礼を申し上げる次第でございます。

それでは、早速、その活動の実践について報告をさせていただきます。

海遊館への招待では、11月6日に、被災されたお年寄り多数を含め、60歳以上のお年寄り223名をご招待し、大好評ございました。これには近鉄百貨店阿倍野店より300冊ご寄贈いただいた豪華写真集「海遊館の世界」をお配りし、こちらもたいへん喜ばれました。これには阿倍野ロータリークラブさんにたいへんお世話になりました。ありがとうございました。

そしてまた、この海遊館におきましては、感想文が来ております。ちょっと読ませていただきます。〔一部略〕

<バスの乗り降り、不安解消>

「左麻痺の私は外出は車椅子を利用しております。ラッコ、ジンベイザメ、イワシの群れ等々と再会できる。嬉しくてたまりません。しかし、観光バスの乗り降りにチラッと不安がよぎります。乗降口から唯一の取っ手を握って第一歩。ズボンの後ろを持ち上げてもらってどうやら一段上がれました。それからが大変。副館長さんの介添えて次々と上がりこなしました。到着後の降車も前後を守っていただき、一時の緊張のみで無事に着地成功いたしました。ありがとうございました。観光バスの乗り降りを初体験させていただいた機会に、近辺の観光に出かけるのを楽しみにいたしております。」

それともう1つ、俳句が来ておりますので、その一部を読ませていただきます。

「銀色に 輝きまわる 群れイワシ」

「コウペンギン 雪ふれふれと 手をひろげ」

「悠然と ジンベイの 王者ぶり」

「サンタマリア 航海気分 湾の秋」

「鼻づらを出し 気を探る サンゴウオ」

「小春日や 海遊館に 人かず多き」

「冬ぬくし ラッコゆうゆう 浮き寝せり」

「冬晴れに マストすくと 林立す」

「水面下 忙しげなる カモノハシ」

「冬うらら 招待受けて 足軽く」

このようにたいへん喜びの感想文をいただいて、海遊館も皆様方のご協力で大成功に終わらせていただきました。

続きまして、**阪神大震災対策委員の活動**について申し上げます。

まず、阪神地震の救援にあたっては実地見聞をしなければいけないと思い、7月半ば、熊澤ガバナーと岡本ポランティア委員長と私が神戸市の社会福祉部長の案内のもと、神戸の被災地を実地見聞したあと、被災地2680地区の松岡ガバナーをお見舞い訪問し、その際、神戸の被災状況や、2680地区の奉仕活動計画についてお話を聞いてまいりました。

先方では、1つ目は、被災された留学生に対する会館「ロータリーフレンドシップハウス」の建設をされております。2つ目はやはり何か2660地区の奉仕活動をしたほうがいいのかということに話がきまりまして、2660地区の被災孤児に対する**里親クラブ**がいいのではないかと。いろいろ意見を交わした末、そういう話に

決まりました。

話はちょっと飛ぶのですが、それと前後しまして、「元気が出る山のキャンプ」に50万円の寄付をお願いに来られました。これは大阪府内の被災地の小学校1年生から6年生の子供たちが対象で、8月23日から8月25日の2泊3日、主催は大阪府青少年活動財団、後援が大阪府教育委員会、協賛が国際ロータリー2660地区ということで、ガバナー事務所へ来ていただきましていろいろお話を聞き、ガバナーと私が応対しました。そして50万円の寄付をさせていただくことにいたしました。

心のケアにも

次に、日本家族療法学会による阪神・淡路大震災支援委員会委員長、松田孝治先生(松田クリニックをしておられる精神科のお医者さまです)が、震災に遭った方々への心のケアに取り組んでおられます。そこで、こちらにもひとつ寄付をお願いできないかということでガバナー事務所に来ていただきましてお話をいろいろ聞き、50万円寄付させていただくことになりました。

司会(疋田) ただいまR.I.会長代理がいらっしゃいましたので、ちょっと中断をしていただき、R.I.会長代理にお話を伺おうと思います。

(R.I.会長代理・スティーブ・K・ヨシダ氏入場)

ヨシダ(R.I.会長代理) こんにちは。私、ロス生まれの2世で、下手な日本語ですが、ちょっとご挨拶したいと思います。

私が大阪に最初に来たのは26年前、万博の関係でアラスカ館の館長としてでした。そこで妻と出会い京都の平安神宮で結婚しましたから、大阪は非常に深い思い出のあるところで、ふるさとに帰ってきたような感じがしております。

さて、私は5010地区の昨年のガバナーで、その地区はアラスカ、ユーコン・カナダと東ロシア、すなわちロシアの3分の2が含まれております。一番遠いクラブに行くためにジェット機で2日間もかかるのです。週1回しかない便でときどき行かなければいけませんでした。そのときには必ずホストファミリーのところへ泊まりましたが、お湯がないことが多く、ときには水もないことがありました。しかし、皆さんにはとても親切にしてくださいました。ロシアのロータリアンは非常にスピリットがあり一生懸命頑張っている方々なのです。ですから、

日本に来てその話を報告したいと思いました。

ロシアに最初のロータリークラブができたのは3年前のことです。いまではわれわれの地区にロシアのクラブは12クラブあります。おそらく来年は10クラブが増えます。どんどん増えてきています。これはアメリカとカナダのロータリアンたちが一生懸命頑張って、その訓練やお金などの面でいろいろ支援してどんどん増えているのです。

きょうのシンポジウムではアジアなどの話がいろいろありましたが、私はシベリアはアジアの中に入るのはないかと考えています。アメリカではないし、ヨーロッパにも入らないし、アジアではないかと思うのです。そのアジアの一番近い国は日本です。この日本のロータリアンの方々の協力と理解とサポートがないとなかなか拡大ができないのではないかと思うわけです。

その意味で、この地区大会で皆様とお会いしていろいろな質問やお答えをして、これから日本も参加していただけないかをお願いしたいと思っています。よろしくお祈りします。どうもありがとうございます。(拍手)

司会(疋田) どうもありがとうございました。盛大な拍手をもってお見送りいただきしたいと思います。

(R.I.会長代理退席)(拍手)

無事終えたチャリティーイベント

大森(リーダー) では大橋さん、続きを。中断しまして失礼いたしました。

大橋(サブリーダー) 被災者支援にはお金が必要でございます。そこで、ガバナー自身のお考えとしては、2年にまたがりクラブに寄付をお願いするのはたいへん心もとないからと、被災者支援のチャリティーコンサートを開催し、収益金をあげようじゃないかということで話が決まりました。関西フィルハーモニーの演奏で、大川進一郎親睦委員に実行委員長になっていただき、10月19日、地区を挙げてご協力をお願いし、これも大成功裡に無事終えることができました。それによって800万円の収益金をあげることができました。

収益金で里親クラブ助成

そこで、その800万円のお金をどのように使おうかと考えまして、阪神大震災の孤児に対する長期援助として、その収益金を被災孤児・児童のために使用すると。そこで里親クラブをすることになり、各クラブの募集を行い

ました。地区としましては、芦屋や東灘、豊岡に点在している身元の確かな、両親を亡くした7人の孤児を捜し出し、賛同いただいた7クラブにチャリティーの収益金より100万円ずつを助成しました。お引き受けいただいたクラブは大阪中央ロータリークラブ、大阪大手前ロータリークラブ、八尾東ロータリークラブ、大阪北淀ロータリークラブ、吹田西ロータリークラブ、守口ロータリークラブ、中之島ロータリークラブ、この7クラブにご協力いただきました。

なお、本事業は地区を挙げての記念碑的事業ですので、今後とも地区、クラブ、全クラブ員が支援、ご協力を惜しむものではないことを確認しておきたいと思えます。

演芸会・ハイキング等で 被災者を激励

次に、平成8年4月7日、大阪府下の被災者に対して被災地区クラブ、中村実行委員長を初めとして、豊中市、箕面市、池田市、吹田市、大阪淀川など15の被災クラブの皆様方が実行委員となられて「ふれあいとぬくもり」をテーマとした、箕面スパガーデンでの温泉と演芸会、ハイキングなど支援活動が展開されまして、65歳以上の被災された方を招いていろいろ演芸をさせていただいたのでございます。被災者211名を招待し、ロータリアン、ローターアクト、110名が膝を交えて語り、大盛況でございました。

ここで招待者から寄せられた短歌、川柳をご紹介させていただきます。

「悪夢さめ ふれあいロータリー招かれて 友と語りし」

「卯月の午後に 避難所に 地震を知らぬ花が咲き 明日もまた強く生きよとロータリー」

このようなおうたをいただいております。

また淀川ロータリークラブさまには150万円のご寄付をいただきました。ありがとうございます。また、各クラブからのご寄付もいただいております。ご協力をいただきまして、本当にありがとうございます。

以上、私からはおおまかに今年度の地区の社会奉仕活動につきましてご報告を申し上げます。

これから報告いたしますのは各地域に生き、そして地域に奉仕する各クラブでのすばらしい実践活動の数々をご紹介します。



まず、大阪梅田ロータリークラブの社会奉仕委員長さん、田村様をご紹介します。大阪梅田ロータリークラブでは、阪和ロータリークラブと共同で「この町・花の街作戦(花いっぱい運動)」をされています。よろしくお願いたします。

「この町花の街」作戦

田村(大阪梅田ロータリークラブ) この運動の特徴と申しますのは、お金を集めてお花を買って被災者に届けるという活動ではございません。全国のボランティアに種を送ってくれという要望をいたしました。それはマスコミの協力を得てやったのですが、この配信しました新聞の記事がこんどこの地区大会でうちの広報委員長が広報の方で表彰されるという原因になっております。

それで、そういうことをやりましたら、続々と全国からと言いましても主に四国、九州ですが、種が送られてまいりました。

それで、われわれと被災者が一緒になって育苗から始めました。あまり目立たない運動なのですが、この2月の中頃に芦屋の仮設住宅のなかに育苗地をつくりまして、田中社会奉仕委員長のクラブの方とわれわれとボランティアと、そこの仮設住宅の住民の方との全部で種蒔きをやりました。

ここの仮設住宅に住む方々はほとんどが65歳以上のお年寄りの方なのですが、この種蒔きのときにはわれわれは本当に「おばあちゃんパワー」を見せつけられました。20kgぐらいある土を育苗地に埋めるのですが、それを70歳以上の方が一人で抱えるのですね。そうやってどんどん「自立」していつてもらわなければならないのではないかと、この活動を行っています。

実は、これは副次的な効果がございます。野田正彰さんという京都造形芸術大学の精神科の教授からエールを送っていただきましたので、一部を読ませていただいて、終わりたいと思います。

「中略——このような園芸療法は、生きがいを追求する精神療法の一つである。人は病気になり回復しがたい障害を持ったとき、自分は無用で生きていても仕方がないと絶望する。そんなとき、“あなたが世話をしてくださるとき水をかけてくれないと私は枯れてしまう。あなたが生きていてから私も生きていてよ。私が生きていてからあなたも生きてね”と、小さい命が語りかけてきて、その人が生きていて意味をひそかに伝えてくる——」

大橋(サブリーダー) すばらしい奉仕活動をしていただいております。

続きまして、吹田西ロータリークラブでは江坂ロータリークラブと共同で江坂周辺のクリーン運動とリサイクル運動を実践されています。また、吹田西ロータリークラブにおきましては、被災遺児の孤児の里親クラブにもなっております。吹田西ロータリークラブの河邊様、よろしく願いいたします。

クリーン&リサイクル活動

河邊(吹田西ロータリークラブ) 私どもはこの隣におられます吹田江坂ロータリークラブさんと、ちょうど5年あまりになります。クリーン&リサイクル活動を始めました。

その内容は、吹田のクラブは地下鉄の吹田の江坂の駅前でございます。非常に人の多い町でございます。場所といたしましては、4本の道路、つまり新御堂の側道と、さらに東側と西側、延べ2000mぐらいの距離を毎月1回、1日に朝7時半に集合いたしまして1時間をかけて掃除するのでございます。

われわれとしても、ずっと最後までこれをやるというよりも皆様にその認識をしていただくのが目的でございますので、昨年からは私どもも当番制にいたしまして、月に1回、江坂さんと私どもと、そして周辺の江坂企業協議会と、1ヵ月おきに当番にしまして、そしてもちろん参加できる人はより多くするという格好にいたしました。企業協議会の皆さんはもちろんメンバーも多ございますし、何しろ若い社員の方が来られますから、最近はだんだんそっちにちょっとおんぶされているような格

好でございます。本来の私どもの狙いは地域の人たちだけでやっていただくのが目的でございますので、やはり皆さんにはご理解していただいて、それと同時に“汚さない”ということが定着したのではないかと思います。

それと、クリーン&リサイクルの“リサイクル”もちようど同じころに始めました。5年ほど続けて、リサイクルのほうはちょっと形態が変わってきたようです。

われわれの“クリーン&リサイクル運動”は、すなわち町を汚さず、資源になるものは資源にしようじゃないかという活動でございましたので、これも社会の変革と申しますか、環境の変化で、非常にいい方向に進んだのではないかと考えております。それと、先ほどの青少年の問題に関連しまして、例の里親クラブでございますが、私ども、慎重な審議を経てお引き受けさせていただきました。

ただ、私どもも今後、彼らが成人に達するまで善良なる社会人となるよう育成していく上で地区として相談に乗っていただけるようお願い致します。勿論、長期にわたる基盤づくりをご準備していただける、と社会奉仕委員長から以前お聞きしておりますので、ご期待申し上げて終わりたいと思います。

大橋(サブリーダー) ありがとうございます。里親クラブもお引き受けいただきまして、まことにありがとうございます。

続きまして、東大阪ロータリークラブでは、高齢者とともにクリーン&グリーン作戦をされておられます。塚田さん、よろしく願いいたします。

クリーン&グリーン作戦

～4クラブで共同事業～

塚田(東大阪クラブ) 東大阪には4クラブございまして、東大阪東クラブ、中クラブ、西クラブ、そして私ども東大阪と、この4クラブで何かまとまった息の長い仕事をやろうじゃないかと、例年同じようなことをやっているのですが、昨年ぐらいからクリーン&グリーン作戦というテーマを掲げまして、やっております。

今年度の事業としましては2つございまして、去る4月23日、東大阪の方で歴史的にかなり有名な長瀬川に4クラブ合同で植樹をいたしました。そこで魚をながしが放流していこうと。これが第1点でございます。

それからもう1つ。あさっての5月12日(日曜日)は東

大阪ごぞつての**市民ふれあい祭り**がございまして30万人ぐらいの人出がございます。そこで一角をお借りしましてチャリティーバザーをロータリークラブでやって恵まれない方たちやお年寄りたちに寄付をしてみたいと思っております。

1つだけ申し上げておきたいのは、これは私ども4クラブの私見でございますが、「地球」とか「国土」とか「地域」を人の体にたとえることができるのではないかと。すると、「海」「川」「湖」は「血管」に相当するもので、そこに流れる水は「血液」であろうと思います。生えている植物や海の珊瑚などは「心の状態」そのものであるととらえております。ですから、その国土の水や緑の状態を見れば、そこに住む国民の心身の状態がはつきり見えてくる。したがって、国土や地域というものは、そこに住む**住民を映す“鏡”**であると思っても過言ではないだろうと思っております。それが1点です。

それから、私どもの地域では子供やお年寄りを使う——“使う”というとおかしいですが、一緒になってやっていただいて**健康管理に生きがい**を見出していると思っております。今後もそういった方針で無理をしないでやっていきたいと思っております。

大橋(サブリーダー) ありがとうございます。

続きまして、大阪天満橋ロータリークラブでは養護施設の児童を招待して八尾空港で「おおぞら夢教室」を開催されております。天満橋ロータリークラブの方、よろしく願いいたします。

おおぞら夢教室

～養護施設園児の体験飛行～

高松(大阪天満橋ロータリークラブ) 現在、我々のクラブに113名のメンバーがおりますが、年度当初、私の社会奉仕の委員長に、うちの会長から「100名なら100名のクラブなりの事業計画や活動をしてもらわなければいけない」と釘を刺されまして、私も非常にプレッシャーを感じました。さあ何をどのようにしたらいいものかと非常に迷いまして考えたのでございます。で、養護施設の坊ちゃんかお嬢ちゃん方を招待するとか何とかの方法はないものかと考えまして、昨年10月29日(日曜日)に八尾空港で、主催は大阪天満橋ロータリークラブ社会奉仕委員会、後援がロータリアンもたくさんいらっしゃいます八尾の自家用航空機操縦士クラブ、協賛を、運輸省大阪航

空局八尾空港事務所と、第5管区海上保安本部八尾航空基地、それから民間の会社で第一航空株式会社さまにご協力をお願いいたしまして、日曜日の朝10時から、おおぞら夢教室を開きました。

問題は、私のロータリーでもちょっと問題があったのですが、体験飛行を坊ちゃん、お嬢ちゃんにやっていたかどうかということです。長老のメンバーさま方から、やはりリスクが伴うからと若干の反対がございましたが、理事会でGOサインが出まして、養護施設さんなどご相談いたしました結果、より健全な方々がお越しくださいませという全員の方に体験飛行をしていただきました。そのあと記念写真と、おおぞら夢教室の修了証書を各自の坊ちゃん、お嬢ちゃん方にさしあげました。最後に坊ちゃん、お嬢ちゃん方から「本当に一生忘れない」という嬉しいお言葉をいただきまして、疲れも吹っ飛んだ次第でございます。

大橋(サブリーダー) たいへんありがとうございました。

続きまして、大阪浪速ロータリークラブでは、葛城山のブナ林の環境調査と清掃をされております。牧野様、よろしく願いいたします。

葛城山ブナ林の調査と清掃

牧野(大阪なにわロータリークラブ) 和泉葛城山のブナ林の保全につきまして、過去7年、いろいろな募金をいたしておりますが、今年は一度、現地を会員家族で見てもみようじゃないかということになりました。行きはケーブルカーで上がりまして、帰りはできるだけ歩いて降りようということでもあったわけでございます。

このブナ林、皆さんご存じの方ばかりかと存じますが、大正12年に天然記念物に指定された、白神山地に次ぐ日本の3箇所にはかない(小さい規模のものはあるようですが)ところでございます。現在700本程度の大木と、そこに400本ぐらいの苗木がございます。苗木については大阪トラスト協会を通じて毎年植樹を繰り返しているのですが、だいたい3割ぐらいが枯れていくようでございます。平均気温が摂氏6度から15度の間が生息条件のようでございます。そこに集まります野鳥類や動植物類は非常に貴重な資料ともなっており、自然の保護地でもございます。現在、この協会では岸和田市や貝塚市の協力も得て現在の保護地区を60haぐらいに広げておられるのでございますが、間隔をあけて植樹しなければなら

いとか、また、それを保護するのにかなりの費用がかかるということでもなかなか大変なようでございます。

われわれ、家族、会員が、まいりまして、そういうところですからあまりゴミはないだろうと思ったのですが、一応清掃も兼ねて袋を持って行きましたところが、やはりかなりハイカーが中に入っておりまして、空き缶だとかいろいろなゴミが落ちておりました。以上です。
大橋(サブリーダー) どうもありがとうございます。

続きまして、豊中南ロータリークラブでは、大震災被災高齢者への巡回健康相談を市内の仮設住宅で実施中でございます。恐れ入ります。上田様、よろしくお願いたします。

高齢被災者への巡回健康相談

上田(豊中南ロータリークラブ) この事業をやってみようと思出したのはちょうど去年のいまごろでしたでしょうか。各新聞で兵庫県内の仮設での孤独死の問題が取り上げられまして、私も内科医という職業柄、こういうことはやはり起こり得るのだなと感じました。それと、私たちの卓話の時間で、豊中市政の面で予算の話の中から豊中市内の被害の実態を知らされました。それで現実に仮設が豊中で900戸、一般の市営住宅、公営住宅に預かったのが960戸という形で、1800戸以上の被災者の方がおられることを聞きました。まして、地区としても阪神大震災の援助が言われておりましたので、やってみようかと。

実際に行ってみますと、もとの主治医の先生のところに通っている方々が多いのですが、やはり遠くに離れたので最近では治療に行っていないという方々もおられました。目的は、顔を見て様子を見て、あるいは血圧をはかるなりして状態を見て、受診勧奨でね、これはどこの病院でもいいから行きなさい、あるいは、この近くにこういう先生がおられますから行きなさいという形の方法でしかできなかったわけです。

4月7日のあの箕面スパーガーデンで行いました“ふれあいとぬくもり”の募集に行ったときにもう一度、表を叩かさせていただきまして、会場に来られた方々のなかに何人か私の顔を覚えていただいておりますので、それだけでも救いだつたなと思っております。以上でございます。

大橋(サブリーダー) ありがとうございます。

もうお一方、枚方くずはロータリークラブでは「障害者施設わらしべ学園を育てる会」を結成し、以来17年間の長きにわたって支援活動を続けておられるそうです。泉谷様、よろしくお願いたします。

「わらしべ学園」を育てる会

泉谷(枚方くずはロータリー) 「わらしべ学園を育てる会」という形で、過去17年間にわたりまして活動を続けておりました、過去の委員長からいろいろその都度、お話しになったので重複するとは思いますが、改めて説明させていただきます。

わらしべ学園と申しますのは、脳性麻痺の子供さんのための「わらしべ学園」と、成人の、重度の身体障害者の厚生設備である「わらしべ園」とになっております。これは、昭和53年に村井正直という医学博士の先生が枚方市の長尾に自費で設立されたもので、その趣旨に基づきまして、枚方くずはロータリークラブの有志が中心になりまして、この援助を進めて行こうという形で「わらしべ学園を育てる会」というのを結成しました。

現在では、当クラブ員は60名でございますが、会員数はぐんぐん多くなりまして2800名という数になっておりますので、枚方くずはロータリーの会ではなく、地域に密着した大きな組織になっているという形です。目的は、やはり資金的な援助が主という形でございます、個人一口千円、法人は1万円という形で、現在、平成6年度の決算書を見ますと350万円ほどのお金を出資している形でございます。

夢をもたせる“わらしべ”の話

言い遅れましたが、「わらしべ学園」の「わらしべ」とはどういうことかといいますと、今昔物語にあります「^{わらしべ}藁長者」の話で、貧乏で希望の持たない人が大和の国の長谷観音さんにお参りして、その帰り道に拾った一本のわらしべがもとになって繁栄していくという話から来ておりました、まず、不自由な方々にとりあえずわらしべを与えよう。そのわらしべを持って進んでいこうじゃないかという形のものでございます。これにつきましては、先般、亡くなられました司馬遼太郎さんが非常に感銘を受けられまして、次のような言葉を書いておられますので、その一部をご紹介します。

「村井さんは長い検討の結果、ハンガリーシステムが

最良のものという結論を得られ、私費で枚方の長尾にわらしべ学園を開かれました。この身体障害者教育の専門家のことをコンダクターといいます。村井さんの熱意と方式に共鳴した若いコンダクターたちがいま長尾の学園で子供たちと、将来、健康な社会生活に参加するため懸命に努めておられます。

子供にとってもいまこの段階は今昔物語の話でいうわらしべを一本持ったに過ぎません。村井ご夫妻もコンダクターたちも、子供の手から、子供たちの手に持ったわらしべを落とさせないために看病を続けておられます。」

毎年1回、総会があるのですが、その総会の決議文を読み上げますと、

「17年間に及ぶ『育てる会』の継続は社会に大きなあかりをともしてきました。これからもしかり目標を見続けながら学園をサポートする役割を果たしていきたい」

このような決議が行われました。

最後に、現在この会の会長は私どものロータリークラブの会長でありました松本会員、副会長には谷本会員、理事には磯田会員、前田会員、駕田会員がそれぞれ就任しておられてこういう活動が続いております。

大橋(サブリーダー) どうもありがとうございました。

ご発表いただきましたクラブの皆さん、たいへんありがとうございました。クラブでの社会奉仕活動、どれをとりにしてもそのクラブの個性と愛情が感じられ、地域とともに歩んでおられるお姿が実感として胸に響いてまいりました。

また、「奉仕するものは行動しなければならない」の言葉どおり、私たちはさらに多くの時間と身体を使い、奉仕する心を大事にし、クラブ活動、地区活動を進めていく必要があると思います。

これで社会奉仕委員会からのご報告を終わります。

大森(リーダー) あと少ししか時間がないのですが、環境保全のほうを少しまとめていただきたいと思います。

環境保全の委員長は大阪本町の桜井さんなのですが、会長なので会長部門に行っておられますので、副委員長の藤江さんからお話を伺いましょう。

環境保全への取り組み

藤江(サブリーダー) 先ほどから事例報告を伺っており

ますと、半分以上の事例につきましては環境保全と重なっております。もうボーダーラインがないんだなという実感を抱きました。

環境保全委員会はいまから6年前に発足いたしました。「われらの天体・地球の保全」という、R.I.のテーマを覚えておられる方もいらっしゃると思いますが、パウロ・コスタR.I.会長の言葉を受けまして、その当時の廣瀬ガバナーが、それまでの緑化推進委員会を発展解消されまして、組織外といいますか、いまの環境保全委員会ができあがったわけでございます。

環境保全とは理解と啓蒙と教育

それ以来、1年目、啓蒙の年度、2年目、廃棄物問題、そして3年目にはロータリーとしてどう取り組むべきかを示すために『ロータリーと環境問題』というガイドラインを冊子として皆様方のクラブに提供させていただきました。その後、リサイクル問題、また、水質汚濁防止問題、水質保全問題と取り組んでまいりました。

最後に近藤会員が提示されました言葉を引用させていただいて、締めくくりにさせていただきたいと思います。

「環境問題を深く理解し、その思想を広く啓蒙し、また、次代の人たちへの教育に協力することにより、健康で豊かな未来の地球づくりに貢献できるのだ」ということとでございます。まず、みんなが理解すること、次にその考えを広めること、そして若い人たちにその教育をすること、それに尽きるのではないかというご意見でございます。なるほどと思ってこれを締めの言葉とさせていただきます。(拍手)

大森(リーダー) 「予算がないから、金がないから、社会奉仕ができない」ことを言うのはウソだと私はいつも思っているのですが、きょうの皆さん方のご発表を聞いておまして、その思いを本当に強くいたしました。

社会奉仕は「本当は金ではなくて、心——つまり熱意——と身体を使ったらできるんだ」と。私は思うのでございます。

各クラブの事例をお聞きいただきまして、これをひとつお持ち帰りいただきまして、次年度でまた活かしていただくようお願い申し上げたいと思います。

司会(疋田) これで社会奉仕部門の懇談会を終ります。休憩時間もとれませんでした、長時間ありがとうございました。

国際奉仕部門

1996年10月、国際ロータリーアジア地域大会がタイのバンコクで開催、2004年には大阪を中心とする京阪神を舞台にRI国際大会を招致しようという話が伝わっている。

国際奉仕は、それぞれのロータリアンが多くの国の人々との間に交流を深めるなかから“お互いに理解し合い、善意を育み、そして世界の平和に貢献すること”が大きな任務であるとされている。本日の発表のなかからその意欲が十分に伝わってくるようだ。

(国際奉仕には多くの名称の委員会がありますので、この機にご理解下さい)

リーダー	古田 敬三(パストガバナー)
	山中 文和(パストガバナー)
サブリーダー	藤井 宏一
	毛利 哲三
	小山 雄三
S.A.A.	倉田 昭
記録	西村 公夫

司会(倉田) ただいまから国際奉仕部門の懇談会を始めさせていただきます。私、S.A.A.を仰せつかりました守口の倉田昭と記録の西村公夫でございます。どうぞよろしく申し上げます。

それではリーダー、サブリーダーをご紹介申し上げます。まずリーダーの古田敬三パストガバナーでございます。同じくリーダーの山中文和パストガバナーでございます。サブリーダーは、地区国際交流平和委員長の小山雄三様、地区青少年交換委員長の毛利哲三様、地区WCS委員長の藤井宏一様でございます。それからもう一方、交換留学生、大阪東南ロータリークラブでお世話してられますミス・キャラガンツさんでございます。それでは古田リーダー、よろしくお願いいたします。

世界大会を大阪に招致しよう

古田(リーダー) 国際ロータリー定款、第4条の綱領、その第4を見ますと「奉仕の理想に結ばれた事業と専門職に携わる人の世界的親交によって、国際間の理解と親善と平和を推進すること」とあります。

そして国際奉仕は概念上、次のような3つの一般的な



分野に分類できます。1つは、**世界社会奉仕活動**(World Community Service)WCSと申しますが、いわゆる社会奉仕の国際版でございます。

2つ目は、**国際レベルの教育および文化交流活動**。国際青少年交換等がその例でございます。

3つ目は、**特別月間等の催し**、そのうち国際奉仕に關しますものは11月のロータリー財団月間、1月の国際理解推進月間、2月の世界理解月間であります。またロータリー創始の1905年2月23日を祝う創立記念日。これは世界理解と平和の日として定められております。各クラブはこの日に国際理解、友好、平和へのロータリーの熱意を特に讃えて強調されることが望まれているわけでありませう。

さらに本地区の具体的な活動を申し上げますと、まず国際青少年交換。これは後ほど毛利委員長から具体的に本地区の活動状況について説明をいただきますけれども、世界いたるところでこの国際理解と親善を推進する意義のある活動として、評価の高いものでございます。次に、世界社会奉仕、これはロータリアンの活動を通じて人々の生活を改善し、人々のニーズに応えるプロジェクトを実施するものでありまして、物質的、技術的、専門的な援助を通じまして、国際理解と親善を推進するものであります。

実は、去る1月に本地区から派遣いたしました東南アジア地区援助使節団に、藤井委員長他4人のロータリアンに私も加わりまして、フィリピン、タイ、インド、バングラディッシュ、この4カ国を訪問してまいりましたが、フィリピンのピナツポ噴火、これは皆さん方もテレビでご覧になったと思いますけれども、あの噴火被災地域での職業訓練所の援助。あるいはインド、カルカッタのスラム街にある「死にゆく人々の家」で、明日にも天へ旅立つ人への幸せを祈っておられますマザーテレサ、それを助けるボランティアの人々。あるいはバングラディッシュのダッカのスラム街にある栄養失調の子供を収容している子供専門病院での、瀕死の幼児の姿、これなどはあまりにも痛ましい現場で、私ども世界社会奉仕活動の大切さを改めて認識させていただいたわけでございます。これらにつきましては、後ほど藤井委員長からご報告があると思ひます。

最後に、国際交流ですけれども、今年度はカナダ、カルガリーで国際大会がございます。また次年度に入りま

すが、今年10月にタイのバンコクのアジア地域大会が控えております。一人でも多くのロータリアンおよびご家族のご参加をお願い申し上げたいと思ひます。

実はいまこれを申し上げるのは、いささか時期尚早でございますけれども、8年先の2004年の国際大会を日本で、しかも大阪を中心とする京阪神を舞台に招致しようという運動がかなり具体化してきております。あれやこれや考えますと、今後、国際理解、国際親善、そして世界平和への私どもロータリアンの責任はいよいよ重きを加えつつあるわけでありませう。

それでは各委員長にバトンタッチをさせていただきます。まず最初に国際青少年交換の毛利委員長、ひとつよろしくお祈りいたします。

今後の活動計画

—青少年交換委員会—

毛利(サブリーダー) ちょうど昨年のいまごろに地区協議会がございました。いまここにお出での皆さま方は、その地区協議会で新しい年度に向けて、国際奉仕部門で各クラブごとの衝に立たれるということでお集まりいただきました。そして新しい年度に入りまして、1996年の各クラブの国際奉仕部門の担当の理事さんがお出でになって、きょうは、それからほぼ1年が経過しております。この1年、各クラブの皆さん方のいろいろなお苦勞を、まずこの席を借りましてお礼を申し上げたいと思ひます。

先ほど古田パストガバナーのほうからお話ございましたように、この地区大会はわれわれのいままでやってきた掉尾を飾る集大成をご報告かたがた、いろいろお話するのが本筋でございます。当初、1996年度からの活動計画につきましては、皆さまのお手元の新年度の活動計画書にそれぞれ詳記しております。これに従って地区の**青少年交換委員会**の活動を続けてまいりました。

項目につきましては、すでに私たちがやっていること、それからスケジュール等はいまさら皆さまに再述することもなからうと思ひますが、私がここでぜひお願いしたいのは、こういう青少年交換委員会がやる仕事でいちばん大切なことは継続でございます。昔の哲学者が「継続は力なり」と言ったわけですが、まさにその通りで、いま、それぞれのクラブをご担当になって、ここにおいてになる方々が、次のご担当の要職につかれる方にぜひ継

続していただきたいということ、まずいちばん大切なこととして申し上げたいと思います。

ご存じのように、次期のテーマは「Build the future : 未来をつくろう」でございます。そういう意味では「With action and vision」ですか、アクションを持って、しかも将来をつくるということでは、この青少年交換プログラムがいちばんびつたりするのではなからうかと自負もし、自分でも信じながらこういう役回りをさせていただいております。

いままでの私の経験では、若い高校生を日本へ受け入れて、また日本から向こうへ出して、その間に異文化に遭遇して、異文化と日本文化の間をいろいろと試行錯誤を加えながら習ってくることこそ、本当にわれわれロータリアンとしての国際的な視野に立った「Build the future」が達成されるのではないかと思ひながら、日常の委員会の仕事をさせていただいております。

そういうことで、個々につきましては、すでに地区の青少年交換委員会のプログラム等は皆さんお持ちでございましょうし、こういうところで逐条的にいろいろお話するよりも、青少年交換の学生として日本にいる学生が、この1年間どういう生活をしてきたか。その経験を本人の口から話すことのほうが、むしろ説得力があると思ひます。

いま現在私どもの地区に来ておりまして、東南クラブさんにホストをしていただいておりますキャラガンツという学生がおりますので呼びまして、皆さんの前で自分の経験をお話したらどうかと、2~3週間前に言いました。もちろん日本語でやるわけですが、この8カ月の間にこれだけ日本語が上手になって、日本の文化、アメリカの文化等を紹介する“大使”として来ているということ、直にお聞きになっていただくことが、いちばん説得力のあるお話ではなからうかと思っております。

それではご紹介します。ミス・キャラガンツです。(拍手)

ミス・キャラガンツの日本体験

キャラガンツ(交換留学生) これらのスライドで、アイダホの私の街と私を紹介します。

(slide・No.1)これは冬のアイダホで、いっぱい雪があります。

(slide・No.2)私の街では雪の祭りをやります。いつも毎



日本での体験談をユーモラスに語る交換留学生
ミス・キャラガンツ

冬は私の街にはいっぱい人が来るので、ちょっと混乱します。

(slide・No.3)私の街は山の近くで、学生は学校が終わってから、いつも山にスキーに行きます。私の街は田舎で、いっぱい木と山があります。

(slide・No.4)これは私の街の夜で、もうすぐクリスマスです。

(slide・No.5)これは私の街のいちばんのホテルで湖の近くで、本当にきれいです。

(slide・No.6)私の家は牧場です。牛がいっぱいいます。

(slide・No.7)これは私の街の湖です。湖が2つあって、これはペークレイクです。

(slide・No.8)これは私の家の近くです。

(slide・No.9)毎夏ロデオがあって、カウボーイがいっぱい来ます。

(slide・No.10)これは私の家です。

(slide・No.11)この家は隣の家で、おじいさんが住んでいます。

(slide・No.12)これは、ロータリーミーティングで、私と、ガバナーと、ガバナーの奥さんと、私の友だち、ブラジルの留学生です。スライドを終わります。(拍手)

皆さん、こんにちは。私はアメリカのアイダホ州から来ましたキャラガンツです。日本に来て8カ月半たちました。すごく早かったです。去年の10月から12月まで、YMCAで日本語を勉強しました。クラブがありましたから、毎日YMCAが終わってから学校へ行きました。いまは学校で、英語の山本先生から日本語を習っています。日本語はとても難しいです。私はひらがなとカタカナはできますが、漢字はたくさん意味がありますから、覚えるのが難しいです。でも本当に面白いです。

きょうは日本での素晴らしい経験を話してみます。私の学校生活はすごく楽しいです。日本語が全然わかりま

せんでしたから、初めの1週間は大変困りました。初めの日、私はお母さんと先生について行きました。先生は私に、ホームルームへ案内しました。アイダホではホームルームがありません。それで私は「ホームルームとは何ですか」と聞きました。女の子は初めて私に会っても恥ずかしがりませんでした。でも、男の子はとても恥ずかしがりました。全然しゃべりませんでした。でも、いま彼らは私に大変よくしゃべります。

語学修得に苦勞

学校では3年生の1組、2組、3組に山本先生と英語を教えに行きます。生徒は私に英語で質問をします。質問が私にはよくわかりませんでした。それでも私の名前を呼ぶときだけは「キャラ、キャラ」と大きな声で言います。でも質問の英語は恥ずかしいのか、自信がないので、いつも小さい声です。山本先生は私が日本文化を理解するために、私の名前を漢字で「華麗良雁都」と書いてくださいました。『日本見聞録』というシリーズでエッセイを書いています。800字ぐらいの英語で書いて、これを生徒が日本語に訳します。いままでにアメリカの卒業式と日本の卒業式。クリスマスとお正月。茶道とお琴クラブ。これは学校の先生と生徒に大変人気があります。

日本の高校はアメリカの高校より厳しいです。金光八尾高校は制服と規則がたくさんあります。びっくりしました。たとえば私はパーマとピアスをして学校へいきました。生徒は私に「キャラ、それはだめです」と言います。制服は私にとって初めてでした。いちばんびっくりしたのは、靴が4足あります。通学用、体育館、運動場、教室用です。アメリカでは1足だけです。

私が通っている金光八尾高校の友だちは、面白くて、明るくて楽しいです。友だちは私に大阪弁を教えてください。いまはペラペラでんねん。大阪弁はほんまにおもしろいでんなあ(笑)

司会(倉田) ただいまヨシダR.I.会長代理がお見えになりましたので、皆さん拍手でお迎えいただきますよう、お願いします。

(ヨシダR.I.会長代理入場)

ヨシダ(R.I.会長代理) 皆さん、こんにちは。私はアラスカから大阪に来ておりますけれども、大阪には非常に楽しい思い出がありまして、私の妻と万博のときにデートして、26年前、平安神宮で結婚式をしました。ですから

非常に深い関係があります。15年ぶりに大阪に来て、大変嬉しいです。

[中略(社会奉仕部門懇談会参照)]

いま、ロシアはどんどんロータリーが増えております。しかし自然に増えるというのではなくて、アメリカからも、カナダからも、シベリアからも、そのサポートが必要です。きょうのシンポジウムは、アジアの話がありましたけれども、例えばシベリアはアジアの一つではないかと思っています。ヨーロッパではないし、アメリカからも遠いですし、周りの国はアジアの国です。これから、その周りの国と仲良く続けたいとどうにもならないと思っています。ですから、よろしくお願いします。(拍手)

(ヨシダR.I.会長代理退場)(拍手)

司会(倉田) それでは続けてお話しいただきます。

日本での楽しい生活

伝統文化の体験

キャラガンツ(交換留学生) 10月に修学旅行で北海道へ行きました。アイダホでは修学旅行がありませんから、この旅行は大変面白かったです。旅行の1日目に日本のホテルで温泉に入りました。温泉は広くて、みなで入りました。たくさんの人とお風呂に入ったのは生まれて初めてでした。とても恥ずかしかったです。

またバスの中でカラオケをして、大変にぎやかでした。びっくりしました。アイダホではバスの中では静かにしていないと先生に叱られます。ここのほうが面白いですね。修学旅行でいつもみなカメラを持って私について来ました。いっぱい写真を撮りました。

いまはお琴とお茶のクラブに入っています。そこで日本の文化を習っています。お琴の楽譜は漢字で書いてありますから、難しいです。でもお琴の先生は、とてもていねいに、熱心に私に教えてくださいました。だからとても早く弾けるようになりました。学校の文化祭で「さくらさくら」を弾きました。11月にプリズムホールで、「エリーゼのために」を弾きました。私はお琴の音色が大好きです。この楽器の音色は日本独特のものです。クラブでお茶を初めて飲んだときは、ちょっと苦かったです。でも、いまはお茶とお菓子がおいしいです。お茶とお琴クラブで、いつも私の足は痺れてビリビリします。

ロータスの友だちと一緒に京都と淡路島へ行きました。京都では金閣寺へ行きました。大変きれいでした。

フェリーで淡路島に行きました。フェリーは私にとって初めてでした。先月に「神峯山寺」で座禅をしました。そこで着物を着て、たくさん写真を撮りました。それは忘れることができない楽しい思い出です。

12月に金光八尾の2人の英語の先生がアイダホへ行きました。私の家で泊まりました。私はアイダホで先生に過ごしていただいて、嬉しかったです。私はスキーも行きました。東南ロータリーの人が私を招待してくださいました。その人の家族と一緒に3日間の旅行で、白馬へ行きました。でもすごく陽焼けしました。私の顔はリンゴのようになりました。

超繁忙…8ヶ月半

最初のホストファミリー、木村さんの家族は大変優しいです。くにひとお兄さんと大阪城と海遊館へ行きました。よしとお兄さんと、毎日夜中まで話しました。私は日本語がわかりませんでしたし、お兄さんは英語ができませんから、大変面白かったです。日本に来て2週間して、九州の宮崎へ行きました。そこでオーシャンドームに入りました。すごかった。プールが海みたい。

次のホストファミリー、仲川さんの家族も優しいです。仲川さんの家族と新幹線で岡山と倉敷へ行きました。3月に仲川お父さんの店で相撲の小錦に会いました。大きかった。小錦と一緒に英語で話しました。仲川お母さんとお姉さんと宝塚を見に行きました。あれは大好きです。言葉はわかりませんでした、演技はわかりました。仲川お姉さんと一緒に文楽を見に行きました。言葉は全然わかりませんでした。でも人形の動作はとても面白かったです。

三宅さんの家族は大変面白いです。お父さんと一緒に奈良公園に行きました。お寺と神社をいっぱい見ました。いちばん楽しかったのは、私とお父さんで人力車に乗ったことです。面白かったのは大仏殿です。とても大きいですね。3月に三宅お母さんと難波の漫才を見に行きました。とても混んでいた、3時間、お母さんと私はずっと立って聞いていました。それにもかかわらず、とても楽しかったです。私ほだいたい全部わかりました。私は笑いが止まりませんでした。

これが私の日本での8ヶ月半の生活でした。このように楽しい、有意義な生活ができたのはロータリーの皆さんのお蔭です。たくさん楽しい機会を与えていただき、

とても嬉しく感謝しています。ありがとうございます。司会(倉田) ミス・キャラ、ありがとうございました。Enjoy your life in Japan.

それでは次に、国際交流平和委員会の小山さんのほうから、ひとつお願いします。

活発な国際交流

—国際交流平和委員会—

小山(サブリーダー) 4月1日から帝国ホテルで例会をやっておりますので、どうぞお越しください。ビジターフィーは4600円でございます。

国際交流平和委員会は、いまの世界社会奉仕や青少年交換委員会と違ひまして、お金を出していろいろな事業をするという委員会ではございません。国際大会と姉妹友好クラブのことや友情交換、あるいは職業別親睦活動、2月にある世界平和月間をPRする会でございます。特に本年はアジア大会が10月25日から3日間、バンコクで開かれることになっております。アジア大会は毎年開かれるものではなくて、4～5年に1回開かれるものでございまして、今回は千宗室さんが非常に乗り気で、日本からは4000人ほど来てほしいとおっしゃっております。

昨年のフランスのニースの大会のときは、ちょうど1月17日に大震災がありましたので、最初アンケートを取りましたときには2660地区で約500名の参加の予定でしたが、実際には243名、そのうち会員が131名、家族が112名に減りました。全世界からは3万3444名が参加されまして、フランスが9815名、米国が6260名、日本からは4586名でした。

今年はカナダのカルガリーで6月23日から26日まで開催されますが、2660地区でアンケートを取りました結果では、最初は234名の参加でしたが、その後、多少増えまして、285名に参加していただける予定です。ポール・ハリスの昼食会にも36名が出席される予定をしております。

来年は英国のスコットランドのグラスゴーでございます。それから98年はアメリカのインディアナ州のインディアナポリス、99年はシンガポールであります。先ほど古田パストガバナーがおっしゃったように、2004年には大阪であるかもわかりませんということです。

特に今回、皆さまにお願いしたいのは、アジア大会が平成8年10月25日～27日の3日間、タイのバンコクで開

催されることが決定しております。アジア大会は日本、インド、スリランカ、パキスタン、バングラディッシュ、マレーシア、ブルネイ、台湾、シンガポール、タイ、インドネシア、香港、マカオ、中国、韓国、フィリピンの各国で地域は2500地区から3870地区ということになります。先ほど、本会議で話がありました6名の方が来ていただいたところ(シンポジウムのパネラー参加国)は全部入っております。

古田(リーダー) 姉妹・友好について少し私から申し添えます。私が非常に親しくしていただいている、韓国のヘンリー・オーさんというパストガバナーの方から手紙がまいりまして、1995年、昨年(1994年)の11月4日に創立された新しいクラブで、名前は釜山金城ロータリークラブですが、そのクラブから、大阪地区のどのクラブでも結構でございますが、あまり大きくない、新しい、自分たちと同じようなクラブとの友好関係、姉妹関係を結ぶクラブを紹介していただけないかという話がございます。まだ結んでいらないクラブで、もしご希望の方は、私のほうにご連絡いただきましたら、あちらのクラブに紹介したいと思いますので、どうかご遠慮なくおっしゃってください。

司会(倉田) ありがとうございます。それでは世界社会奉仕の藤井委員長、お願いします。

社会奉仕の実績

—世界社会奉仕委員会—

藤井(サブリーダー) 昨年8月26日に国際奉仕委員会におきまして、WCS(世界社会奉仕委員会)はこういうことをすると申し上げたと思います。

先ほど古田パストガバナーがちょっとおっしゃいましたように、われわれは毎年、地区で共同でやるというプロジェクトについては、委員の誰かが必ずその国に行つて、どういうことをしたかということをチェックしております。今年は大勢で行きました。フィリピン、インド、バングラディッシュ。非常に貧しい国でございましたので、5人で行ったわけでございますが、これを皆さんに報告しないとイケない。また、このように使いましたということも兼ねてやろうということで、今月の21日にWCS委員長だけにお集まり願いました。これは、われわれが苦勞して撮った写真を修正して、ナレーションも入れたスライドをつくっております。また、やったことを

本にまとめまして、各委員長さんが次の方にかわられても、地区ではこういうことをしているということでご参考になればと考えております。

ただ一つ、なかなかお会いできなかったのですが、先般インドでたまたまマザー・テレサにお会いする機会がありました。非常に体調を崩されていたのですが、ただ写真やテレビで見るのとは違ひまして、やはり崇高というか、ああいう方がこの世の中にいたのだなあ。しかも、われわれ日本人として、戦後経験した貧しさよりもさらに貧しい人たちが大勢います。その中で、どのような病気があるかもわからない人たちの面倒を見ておられる姿に接して、非常に感銘を受けた次第でございます。

古田(リーダー) 最後に私、いま藤井さんがお話しになったマザー・テレサから名刺代わりにいただきましたこのカードを読ませさせていただきます。

「The fruit of silence is prayer. :

沈黙の果実は祈りである。

The fruit of prayer is faith. :

祈りの果実は信仰である。

The fruit of faith is love. :

信仰の果実は愛である。

The fruit of love is service. :

愛の果実は奉仕である。

The fruit of service is peace. :

奉仕の果実は平和である。

Mother Theresa マザー・テレサ」

それではあと財団の山中さんのほうにバトンタッチいたします。

財団からの報告

—ロータリー財団委員会—

山中(リーダー) この1年間、1人当たり140ドルの目標ということで、各クラブ、進んでいただきました。いまのところはまだ10数クラブそれに達しておりませんが、それ以外のところは目標を突破していただいております。本当にありがとうございます。

ただ、恒久基金の一つでベネファクターの募金、募金と言いますか、厳格には違うんですけども、日本の場合はほとんど1000ドル出してベネファクターになれる人が多いのですが、これはぜひとも今年も各クラブお1人ずつお出しただければ大変有り難いと思います。

それから、この1年間に大分質問をいただきました。

まず「財団のお金は一体どれぐらいあるのか。その決算報告はあるのか」ということですが、毎年必ずきっちりございます。それをちょっと申し上げたいと思います。1994年～95年度の寄付総額は6170万ドルでございました。その前の年に比べて11%ほど増加しております。恒久基金への寄付は760万ドル。恒久基金というのはベネファクターその他のものですが、合計で6930万ドルということですよ。

財団の総資産は、1995年6月30日現在で4億2310万ドル。しかし不動産その他を除きまして、いわゆる資金として運用できるものは3億8870万ドルでございます。現実には、3年前に集めたお金を3年後使いますが、年間6400万ドルぐらいです。日本のお金にして64億～65億が使われているということです。

ポリオ撲滅への取り組み

もう一つ、たくさんのご質問をいただきますのは「いまま何故ここでポリオなのか。ポリオは終結宣言が出ているのにまだやるのか」ということです。まずその点について、ちょっとお時間を頂戴したいのですが、端的に言うと、撲滅しようとしているのに絶滅できていないということです。

ただ、ご存じのように身障者として生きていかれるものですから、その間体内にポリオのウィルスは生息しているわけです。亡くなられますと、それとともに無くなるということです。ですから、ワクチンの投与によって、もし全部そういう人が一人もいなくなったら、ほとんど絶滅ということだそうですね。2000年までには何とかしたい。今年のR.I.会長、そして来年のR.I.会長も、いまポリオのことは熱心にしようとなさっておられます。



まず残金の点から申し上げていきますと、ポリオプラスとしての財源は2億4800万ドル集まった。それで終結宣言が出たんですね。何故、終結宣言を出したかというと、決して撲滅できたという終結ではなくて、ポリオのほうばかりに寄付する人が多くて、財団の一般寄付がどんどん減少したんです。人道目的、教育目的、いまは文化交流目的が加わっていますが、内容が変わったわけではなくて、分類が変わっただけですが、この教育目的、皆さんご存じの奨学生、そして3Hプログラムのような、飢餓に苦しんでいる人に同額補助金のような人道目的に使うお金がどんどん減ってしまったんです。これはいかにいうので、ポリオもこのへんまで来たら、予定通り、最初1億3000万ドル集めようということスタートしたのが、2億4800万ドル集まったので、集める意味では大変勝利だということ宣言を出したわけです。ただし、そのお金を使っていまどんどんまだ活躍しているわけです。

ちょうど去年までのR.I.のトラスティ、財団の管理委員をされていた中島さんにお出でいただきましたので、いまだれぐらい残っていますかと聞きましたら、1億2000万ドルぐらいが残高で残っているだろうということです。

何故ここでポリオかということの中に、1985年、もう一つ言うなら、1979年に3Hプログラムで、フィリピンの600万人の子供の命を守ろうということで、ロータリーで2年間なさってポリオを60%無くしたという実例があるんです。それから後、1985年に財団あげてやろうじゃないかという提案ができて、WHOと協力して始めたのが、このポリオの撲滅運動です。

これもご存じかと思いますが、1960年、昭和35年には、北海道で大流行しました。九州、東京にも飛び火をして大変だったんですが、その後25年、ワクチンの投与で日本ではまったくなくなったものですから、ポリオに対する関心が非常に薄かったというのが事実ですが、それにもかかわらず、その時分の日本円で200億ほど集めようということだったんです。

それは計算がちゃんと立っているわけなんです、それは1回分のワクチンが4セント、それを年間6回、それを5年間ぐらい続けなければいけない。人数としては0～3歳までの子の1億人ぐらいに投与しなければいけないだろう。合計しますと1億2000万ドルくらいになる

※ 3Hプログラム：〔Health Hunger and Humanity〕
健康と飢餓救済と人間の社会的向上発展をはかるのが目的

ので、1億3000万ドルぐらい集めよう。

ところが、昭和35年時代200億の2割を日本が受けてほしいということで、40億という話になったんですが、お蔭さまで全世界で予定より大変多く集まりました。これはもちろん、アメリカが多くされているんですが、日本も40億の予定が48億集まりました。これも、それぞれ皆さんのお蔭で、感謝いたしております。

今度いよいよ、いまやりかけているアジア地区の話です。西太平洋地区に移ってきたという感じですが、人口を多く抱えている中国が大変だったんです。

しかし、これは中島さんの旗振りで、日本全部で相当中国へ援助されました。お蔭で、1カ所に集めて1日でバツと飲ませる一斉投与が非常に効果があることがわかって、それを何回なされたのか知りませんが、全国一斉になさって、昨年の中国の報告では、1人しか出なかったということですよ。

効果をあげるポリオ抑制

山中(リーダー) ですから、大変な効果が生じております。今年は、インドでやろうということですよ。50万人の人が撲滅運動に加わりまして、25万カ所へ約9200万の0～3歳の子供たちを集めて、一斉にワクチンを与えようと。薬その他の重要なものは全部R.I.のほうから行きますが、脇役的に日本も援助してくれないかということですよ。それは50万人に着せるお医者さんの白衣、これは紙でこしらえたもので70セント、50万人で35万ドル。そのうちの1割ほどが東京、大阪でもってくれということだったんです。

京都地区、2650地区はいまモンゴルの撲滅にかかっております。2640地区はいまベトナムでなさっておられます。われわれもベトナムに大いに協力しましょうということで、そのうちの一部を出させていただく予定で、ポリオの委員会でいま相談いたしております。「子供たちを集めるのにはお菓子がいいんですか」と言うと「いやいや、ゴム風船がいちばんよく集まってくるんや」ということです。それで「ゴム風船を何万個か何百万個か知りませんが、お出ししましょう。それから薬を運ぶアイスボックスも何千箱か何万箱、どれだけ要するのか知りませんが、それもどうぞ言ってください」といま言っております。

きょう中島さんに新しく聞いたのは、世界じゅうから

ポリオに関してこんなに要望があると。いろいろな国から随分要望があります。その中で、いちばん新しく要望を受けているのがネパールです。山の中に薬を持って行くのがとても無理なので、1台救急車みたいな車を寄付していただけないかというのが、いちばん新しい要望だそうです。ベトナムの協力で残りでしたら、このネパールに車を寄付したらどうだろうと。これはまだ委員会で諮っておりますので、近々にポリオの委員会にお諮りしてそう決めていきたいと思っております。

そんなことで、このまま残したら、ちょっと残ったためにまた蔓延していく可能性があります。どうかここまで来たことですから、絶滅したい。2000年ぐらいまでに絶滅させて、2005年の100周年のときには、本当の意味での勝利宣言ができればということでございます。今度、中島さんに代わられて、鎌倉の蔵並さんというパストガバナリーに、やはりR.I.の財団のトラスティとして日本から加わっていただいております。

古田(リーダー) ありがとうございます。

最後に私から一言だけお願い申し上げておきます。昨年1月の阪神大震災には、皆さん方から大変な援助をいただいております。また海外からも多額の援助金をいただいております。ご存じのとおり、大正12年の関東大震災のときには、大変な金額の援助、物資を外国からいただいたわけでありまして。そういうことも考えまして、今後ポリオも大変でございますが、同時に外国で天災地変が起きましたときには、できるだけのご援助をあらかじめお願い申し上げておきたいと思っております。

そして、さっき国際大会のことを少し申し上げましたが、これは京阪神が、2004年の大会の候補地の1つになっているとご理解いただきたいと思っております。

それから、マザーテレサの件でもう一つ。確かノーベル平和賞をいただかれたと思いますが、来年のカルガリーの国際大会では、84歳というご高齢であります。記念講演をしていただくことになっております。それだけ申し上げておきます。

司会(倉田) これをもちまして国際奉仕の部門別懇談会を終わります。

『人・街・夢』

講師 浜村 淳

テレビで見たり聞いたりとは一味違う、日本文学研究者としての浜村 淳氏は、また別の興味がある。

映画史上でも国際親善と相互理解には大いに役立っているところであろう。その立役者チャップリンの4つの人生哲学、平等と慈愛と平和を願い、パントマイムで世界中を笑いと感動の渦に巻き込んだ喜劇王。そこには人間チャップリンの4つの人生哲学があった。

これを浜村氏の名調子により語って頂くとき、人の心をとらえて離さない“愛の真髄”に触れていただいた。

古代の国際交流

浜村(和歌山大学経済学部講師) 私の専門は、同志社大学におきまして、川端康成さんの文学と、源氏物語と、飛鳥時代の歴史でございました。従いまして、一昨年『源氏物語・花は紫』という本を出版いたしましたら、お蔭さまでこれがベストセラーになりまして、大変ありがたいことだと思っております。

きょうは、その飛鳥時代の歴史と映画とをない混ぜにして、そんなに長いことおしゃべりはいたしません。時間にしましてほんの8時間半ほどしゃべりまして(笑)おいとまを頂戴することいたします。

先ほどのシンポジウムを拝見して、つくづく感じましたことは、東南アジアからお招きしたお客様方が、まず日本語がうまい。それと同時に、何と日本をよく理解し

てくださっているか。感動すら覚えます。反対にわれわれ日本人も、お隣の国、お向かいの国、遠い北の国、南の国、東の国、西の国、もっともっと外国を理解する必要がありますね。そこに初めて真の国際化、国際交流が生まれるわけです。

でも、日本の国際化は最近に始まったことではございません。私の専門の分野の飛鳥の歴史を繙けば、すでに千数百年の昔、ただし飛鳥の都に限られておりましたが、国際化しておりました。どんどん外国から人が、文化が来しました。そういう人々は中国から来る、シルクロードを通して西域と呼ばれる国々から来る、果ては遠くヨーロッパから来た。そういった人々、文明がすべて日本へやってくる玄関口は一つ、朝鮮半島だったわけです。ですから昔、飛鳥時代の日本人はこういう外国から来る人



を、飛んで渡ってくる鳥にたとえた。だから「飛ぶ鳥の飛鳥の里を起きていなば、君があたりは見えずかもあらん」と、万葉集に歌われた通り、「飛ぶ鳥」と書いて「あすか」と読みます。それだけ外国から、飛ぶ鳥のごとく来たお客さまが多かった証拠です。

今日、飛鳥の都はなくなって、奈良県明日香村になっておりますが、ここは「明日香」という字を当てております。だから「飛鳥」は「明日香」の枕詞であったわけですね。ヨーロッパの人も、西域の人も、中国の人も、所詮、日本へ渡ってくる最後の出発地は朝鮮半島であった。だから、朝鮮半島から渡ってきた人々がいちばん多かったんです。これらの人々が飛鳥に着いた。日本の第一印象を次のように語りました。

日本、大和、飛鳥はどんなところだろうか。どんな変わった顔の人間がいて、どんな変わった景色があるのだろうかと思って来たら、何と私たち朝鮮半島の故郷と変わらないではないか。水清らかに、風爽やかに、人情豊か。私たちの国とちっとも変わりはない。あの丘、あの山、あの松林。私たちの町、故郷と一緒にだというので、人々は一斉に「ウリ・ナラ(ここは私たちの故郷だ)」と言ったんです。だから大和を奈良県と言うようになったのです。

国際交流のメッカ、アンスク(明日香)

さらに外国から来た人々、特に朝鮮半島のお客さまは言いました。ここなら私たちが遠い外国とは思わずに、安らげるではないか。ここは安らげる宿なんだ。ここに生涯落ちこころ。「安宿」と書いて、朝鮮半島の言葉で「アンスク」と発音いたします。これが今日の「アスカ」という言葉の起こりでございます。そしてたくさんの人々が飛ぶ鳥のごとくやってまいりました。

実は、そのまま日本が今日に至れば、日本はもっとも早くに国際化していたのです。しかし、ご存じの通り、徳川時代300年の鎖国の歴史がありましたために、プツリと外国とのお付き合いが途絶えた。このことが随分長く尾を引いたわけですね。今日に至って、やっと日本は本格的な国際化を迎えた。

しかし皆さん、もう一つ私の専門の分野から言いますと、日本人が外国というものに目覚めた。東京だけじゃない、大阪だけじゃない、日本じゅうが外国というものに目覚めたきっかけは映画です。

無声映画の時代

皆さん、昔は全国津々浦々、どんな小さな町でも映画館があったのです。そのことによって、やっと人々は、ああ外国とはこういうところか、外国人とはこういう人かということを知り始めたんです。

ロータリークラブは91年の歴史だそうですが、映画もほぼその歴史に近いんです。明治25年、アメリカにおりましたエジソンという発明王が今日の映画の原型を考えました。これをキネマトスコープと呼びまして、一人々々が小さな穴を覗いて、これくらいのこんな小さな動く写真を見た。これがキネマトスコープです。それから3年たちまして明治28年、フランスに住んでおりましたリュミエールという兄弟が、今日われわれが見る映画、大勢一緒に大画面を見るあの映画を発明したのです。そのリュミエール兄弟の発明をもって、去年で100年です。そしてエジソンがつくった、一つの穴を覗いて小さな動く写真を見るキネマトスコープが日本の神戸で初めて上映されて、今年で100年を数えております。まさに、ロータリークラブも映画もほぼ同じ歴史を持って、国際化に大いに貢献してきたわけですね。

映画は国際化に貢献 五七調で名調子 ~活弁~

さて、ここから大変くだけた話になりますけれども、笑い話として聞いてください。映画というものは、長い間音を出さなかったのです。では、どうやって人々は映画のストーリーを知ったか。活動弁士、略しまして活弁、またの名前を映画説明者というおっさんがスクリーンの側に立ちまして一人で何もかも説明をしました。これに2~3人か5人の楽団が音を付けていったんです。

ところが日本語というものは、五七調または七五調でしゃべりますと耳にたいへん快く響きます。従って歌舞伎の台詞が五七調です。和歌、俳句、川柳も五七調です。ですから映画の説明者、活動弁士も全部五七調でやりました。「空に紫紺の星の乱れ飛び、道には緑の池の花吹雪。千秋万楽、春たけて春や春、春南方のローマンス」と。こういう調子でやるんです。「泣くなスザンナ、愛しのアオよ、馬車は西部へオレゴンへ」。

ところが中にはいいかげんなやつがおりまして、五七調でしゃべればいだろうというので、まるで意味のわ

からんでたらめをしゃべったやつがいるんです。「月は泣いたかロンドンの、花のパリーに雪が降る」何のことかわからんでしょ。それでも聞いている人はうまいなあ后感心をいたしました。

ところが昭和6年、当時の人気大女優、マレーネ・ディートリッヒと当時水もしたたる美青年、後に世界一の大スターになったゲーリー・クーパー、この2人が主演した「モロッコ」という映画がやって来た。これが日本人が初めて見た本格的に音を出す映画だったんです。アフリカのモロッコの迷路のごとき犯罪の街カスバ、そのキャバレーで歌を歌い、煙草とリンゴを売っている女がマレーネ・ディートリッヒ。そこへ一晩外人部隊が泊まります。その外人部隊の中で一際爽やかな美青年がゲーリー・クーパー、この2人が一夜の恋に燃えた。明るる朝、マレーネ・ディートリッヒがベッドで目覚めてみると、ゲーリー・クーパーの外人部隊の兵士の姿がない。鏡に口紅で「I love you」と書いてある。耳をすますと、砂漠の果てを行進していく外人部隊の太鼓の音が聞こえてくる。タタタン、タタタン、タタタンタンタン——。

これが実際に映画から聞こえてきたわけなんです。みんな感動したそうですよ。ディートリッヒは後を追いかける。砂漠を走る、走る。熱砂の砂漠ですからハイヒールが邪魔になる。裸足になって走る、走る。外人部隊の後を追いかけていく。「貴方も私も買われた命、燃えてみたって一夜の花、明日はチュニジアかモロッコか。泣いて手を振る後ろ影、外人部隊の白い服」と。この映画が無声であったら活弁はこういう説明をつけたでしょうが、これは音を出したんですね。

夢声登場 ～昭和初期～

活動弁士が五七調でしゃべっていた時代に、東京赤坂の葵館の専属弁士でありました福原駿雄という男一人が五七調でしゃべらなかつた。この男だけ普通にしゃべったんです。「いまや、かのプラーグの大学生は、胸に一物を秘めて下宿を出たのであります。あの男の行く先はどこでありますか。おそらく金貸しの老人の元だろろうと思われます」と。この男一人が普通にしゃべったから、客が腰を抜かすほど驚いた。何という頼りない男だろろうか。あんな頼りない男の声は聞きたくもない。あいつの声はまるで夢の中で聞いている声みたいに頼りないとい

うので、「夢声」という芸名がついた。勤めていた映画館が赤坂の葵館、葵は徳川将軍家の紋章であるところから、福原駿雄改め「徳川夢声」という芸名がついた。

何故この人は普通にしゃべっていたのかというと、先を読んでいたんです。何ごとにおいても時代の先を読むことは大事です。福原駿雄・徳川夢声は考えた。映画はいつまでも沈黙であるわけがない。遠からず音を出すであらう。そんなときに肩肘張って「風雲急なる京洛の桜花を散らす血の雨が今宵も降るぞ三条河原」。こんなことをやっている弁士は全部失業する。失業したら次に何の仕事がありますか。だから自分はいまのうちから普通にしゃべっておこうと考えたんです。だから夢声は映画が音を出すようになってからも、朗読、司会、漫談、役者、随筆家として、亡くなるまで第一線で活躍を続けたんですね。

吉川英治作「宮本武蔵」を朗読する夢声のテープがただいまも残っております。話術の神様と呼ばれた徳川夢声の語り、どこがうまいかという間を置くのがうまいんです。言葉と言葉の間にきっちり十分に間を取り、ときには声を大きくし、ときには声を小さくして、言葉に抑揚をつけるのがうまい。「生涯、再びこのような敵に会えるかどうか。それを考えると武蔵の背筋には冷たいものが走るのであった。えーっ！裂帛の気合が飛んだかと思うと、小次郎が背中に差した長剣・物干し竿がキラッ。陽に光ったかと思うと、武蔵が額に締めた柿色の鉢巻きがプワッ。真っ二つに切れて飛んだ」。こういうしゃべりですからね。ぐいぐい引き込まれます。

チャップリンのメッセージ

かくして、映画というものは無声時代、沈黙の時代から、昭和6年『モロッコ』昭和7年、田中絹代さんが主演しました『マダムと女房』、外国映画も日本映画もオールトーキーと言って音を出すようになってから、たくさんの活弁の人が失業した。そんな中に頑固に台詞をしゃべらなかつた役者が一人いた。その人の名前をチャーリー・チャップリンと言います。古今東西を通じてこれほどの名優はなかろうかと思われます。チャップリンという人は考えたんです。台詞を英語でしゃべれば英語がわかる国でないと通用しない。フランス語をしゃべればフランス語が通じる国の人しか喜んでくれない。私は世界中の人に見てもらいたいと思うから、終生、と言いまし



でも昭和16年について台詞をしゃべりましたが、それまでパントマイムで通しましたね。

パントマイムの天才的な名人チャップリン。指一本動かしても、瞬き一つしても、いまチャップリンが何を言いたいかが人々に手に取るようにわかる。笑わせて、笑わせて、笑わせて、最後にドッと泣かせる涙と笑いの天才芸人。しかし、これだけならチャップリンは単にうまい役者として終わってでしょう。そうじゃない、チャップリンの映画には必ずテーマがあります。そのテーマは何か。ここにロータリークラブと共通するものがあります。「みんな揃って幸せになりましょう。少しでも自分に余裕があれば、他の人々のために尽くしてあげましょう」これがチャップリンの映画の最大のテーマです。それを全然台詞でしゃべらない。全部名人芸のパントマイムで語っていく。しかも笑い、笑い、笑い、最後に涙です。

チャップリン4つのコース

～ヒトラーとの出会い～

みんな一緒に幸せになるためには、4つのことに生きがいを見つけましょう。1つ「一生懸命働くこと」2つ「ものをおいしく食べること」3つ「見知らぬ他人をも愛すること」4つ「明日はもっとよくなるという夢を持つこと」だからチャップリンの映画は、どれを見てもこの4つの場面に力を込めて描かれております。

チャップリンは1889年4月16日にイギリスのロンドンで生まれました。それから4日後の4月20日にドイツとオーストリアの国境にヒトラーという男が生まれております。この2人はもちろん初めは知らない者同士ですが、後に、一人は世界的な笑いと涙の天才芸人になり、一人

は狂気の独裁者と言われてナチスドイツを率いて諸国を侵略していった。昭和16年、この二人は一本の映画をめぐって火の噴くような対決をすることになるんです。

チャップリンはお父さんは人気役者、お母さんは人気女優。とても恵まれた家に生まれてシドニーというお兄ちゃんが一人います。ところが、チャーリー・チャップリンが幼いころ、お父さんが愛人をつくって家を出た。お母さんは女優です。人気があったけれどもショックのあまりに声が出なくなって女優の仕事を失った。幼い男の子二人を抱えて貧しいロンドンの下町の屋根裏部屋で細々と暮らしていかねばならないお母さんは、ついにノイローゼになりまして度々、市立の無料の病院へ運ばれていった。このお母さんの名前をちょっと皆さん、記憶にとどめておいてください。ハンナ・チャップリンと言います。このハンナという名前を記憶の隅にとどめておいていただきたいと思います。

やがてお兄ちゃんのシドニーが8歳になったとき「ママ、僕ねアフリカ行きの船のボーイを募集しているから、あれに応募して、少しでもお金を稼ぐために家を出ていくよ」と言った。8歳ですよ。お兄ちゃんシドニーが出て行った後、屋根裏部屋には母親ハンナと5つ6つのチャーリーの2人だけ。しかし、ママは機嫌のいいとき気分のいいときは、幼いわが子チャーリーをたった一人の客として踊ってくれた。歌ってくれた。芝居をやってみせてくれた。「ママはとても人気があったの。こんな踊りを踊ったのよ。こんな歌を歌ったのよ。こんなパントマイムをやったのよ」。これがすべてチャップリンの天才芸と言われたあの芸の原点となっていたのです。

折しもきょうは12月25日クリスマス。ロンドンの街に真っ白な牡丹雪が吹雪いていた。ママはこんこんとベッドに眠っており暖炉に燃やす薪もない。ベッドの足元で幼いチャーリーはポロポロの半ズボンに靴もなく、燃やす薪もないから寒さに震えて座っていました。表を救世軍が叫んで通ります。「皆さん、救世軍がスープをプレゼントしますから、お鍋を持って街の広場に集まっていますわ、お鍋を持って広場に走って行きなさい」

チャーリーが答えます。「ママ、窓の外を見てごらん。あんなに雪が降っているんだ。僕ね、靴を持ってないん

だよ」ママの目にポロツと涙が浮かぶ。「ごめんね、チャーリー。ママに働きがないものだからお前に靴の一足も買ってやれない。でも戸棚の奥をかき探ってごらん。ママのお古があるかもよ」それを聞いてチャーリー坊やは戸棚の奥をかき探ったらママのお古、こんな大きなドタ靴が出てきた。チャーリー・チャップリンはこんなに小さな素足に、ママのお古のドタ靴を足に引っかけ、お鍋を持って雪の中を走って行ったのです。

チャップリンのイメージづくり完了

後年、チャップリンはアメリカに渡って映画の世界に入った。監督が言います。「チャーリー、君は喜劇役者だからね。普通の服を着て出てきても誰も笑わないよ。なにか、お客が一目見ただけでワッと笑う扮装で来たまえ」と言われて、撮影所の衣装部屋に入ったんです。山高帽をチョンと乗せてみた、ちよび髭をつけてみた、小さな上着を着て、ダブダブのズボンを履いた、竹のステッキをひょいと腕にかけた。

まだ何かないと、そのへんの箱をかき探してみると、底のほうからこんなに大きな古いドタ靴がゴロンと出てきたんです。それを見たとき、チャップリンの目に涙が浮かびました。「ああ、ママの靴だ」。ママの靴そのものじゃありませんが、幼い雪の日にママのお古の靴を履いて、救世軍のスープをもらいに行った思い出がくっきりと蘇ってきた。ママの靴だ、そう思ったチャップリンはためらわずその靴を履いて撮影に出かけたんです。チャップリンのこの扮装は世界中に有名になった。チャップリンが人気者になりますと、世界中からファンレターが届く。チャップリンの住所を知っている人が少ない。そういう人は封筒の表に、山高帽とちよび髭と竹のステッキとドタ靴の絵を描いて、ポストに放り込んだら、そのファンレターは世界の隅々から、まちがいにチャップリンの元に届いたと言われます。

チャップリンは昭和11年『モダンタイムス』という映画を撮り上げた。この中で初めて声を出しておりますが、台詞じゃない。「ティティナ」という歌を歌っています。これは英語でも、フランス語でも、ドイツ語でもない。でたらめ語で歌っています。そして神戸へ新婚旅行にポーレット・ゴダードという女優さんを連れてやって来た。そのときにインタビューをした淀川長治さんに語っております。「私ね、もう映画は撮りません。これからは

制作、監督、脚本、音楽だけに回ります。そしてこの新妻・ポーレット・ゴダードを主役にして映画を撮ります。私はもう役者はやりません」と言ってアメリカに帰っていった。

独裁者と天才艺人

そのころから、自分より4日遅れてドイツとオーストリアの国境に生まれたヒトラーという男がナチスドイツをつくり上げまして、諸国を侵略していく。「世界を征服するのに相応しいのはドイツ民族だ」と叫び続け、ポーランドへ流れ込み、パリへ進駐した。このやり方がチャップリンには許せなかったんですね。「みんな揃って一緒に幸せになりましょう」がチャップリンのテーマです。何故ドイツ民族だけが世界を征服しなければならないのか。たまりかねたチャップリンは、今後映画に出ないと宣言したのをひるがえして、やっぱり俺は映画に出るぞ。脚本も書く、監督もやる、プロデューサーもやる、音楽もつける。そしてやっぱり主演する。今度撮る映画は『独裁者』というタイトルだ。

ヒトラーそっくり。「ヒンケル」という名前ですが、ヒトラーなんです。そして一人二役、もう一役は、ヒトラーを初め、ナチスドイツによっていじめ抜かれるユダヤ人の散髪屋さんの役をやるんです。この散髪屋さんとヒンケル、つまりヒトラーが瓜二つというほど似ているという設定です。そして「おい、ヒトラーよ。いま思い上がっているけれども、お前の末路は哀れだぞ、ということを徹底的に笑いと涙で描いてやる」と世界に発表した。

さあ、ヒトラーが怒りました。「チャップリンにその映画を撮ることをやめさせろ。そうでないと今後一切ドイツはアメリカ映画を買わない。そしてわれわれはチャップリンの命を奪う」と宣言したんです。さあ、チャップリンのもとへ山のような手紙が来ました。「そんな映画、やめたほうがいいよ」と。でもチャップリンはつくったんです。あんな思い上がった、自分さえよければいいという人間の存在を許すことができない。みんな揃って幸せになるのが世界の理想。あんな狂気の独裁者を許してなるものかと、ついに『独裁者』という映画を撮ってしまったんです。

映画「独裁者」を撮る

しかし、この映画で初めてチャップリンは、ラストシーン6分間にわたる演説をやります。まず、この映画でユダヤ人の散髪屋さんの恋人役をやるユダヤの少女、女優はポーレット・ゴダードという名前ですが、映画の中で「ハンナ」という名前を付けた。すでに昭和5年にロサンゼルスで亡くなったお母さん・ハンナの名前を、この『独裁者』という映画を撮るにあたって、自分が扮するユダヤ人の散髪屋さんの恋人の名前に付けたんです。それはどうしてでしょうか。山のような脅迫状を目の前にしてチャップリンが、おそらくこの映画で自分は殺されるだろう。すでに身辺危うく、殺し屋が次から次へと窺っている。これで自分の命は終わるだろう。ならば自分に歌を教え、芸を教え、そして踊りを教えてくれたママの名前を、最後の映画に女の主人公の役名として付けておこう。

映画の中でいじめられて、いじめられて、ユダヤの人々は諸国へ逃げていく。あるいは収容所へ送られる。ハンナは無事に逃げまして国境を越えてオーストリアへ行った。一方、ユダヤ人の散髪屋さんは、いろんな事情があって、ドイツの軍服を着たらヒトラーと間違えられて、「総統、大勢の軍勢が集まっておりますところで、一席演説をぶってください」と言われて、「いや、私はヒンケル総統とは違うんです」とは言えない。おずおずと怯えながら壇上に上がると、目の前には何万人というドイツの軍隊。そして数10本のマイクが机の上に並んでいて、これから始まるヒンケル総統の演説は全世界に生放送されるわけです。

そこでユダヤ人の散髪屋さんが、おどおどしながらしゃべり始めるんですが、しゃべっているうちにだんだん熱がこもってくる。最後の言葉は有名です。「たとえ目の色、髪の色、肌の色は違っても、世界じゅう人間はすべて平等なのです。ところがいま平等ではない。一部の狂気の独裁者が世界じゅうを暗い雲で覆っているが、やがて風によって雲は吹き払われ、バラ色の夜明けが来るのです。皆さん、そのことを信じましょう。ハンナ、聞こえるかい！」と叫ぶんです。

「ハンナ、聞こえるかい」これは何なんです？ 実は国境を越えてオーストリアへ逃げていった恋人ハンナに向かって、全世界生放送ですから、おそらく彼女も聞いているに違いない。「いまは苦しい、辛いだろうが、もう



すぐ明るい未来がやって来るから、それを信じてもうひと頑張ろうじゃないか。ハンナ、聞こえるかい！」と映画の中で言うんです。ところがチャップリンは、映画の中では恋人ハンナに呼びかけた体にしてはいますが、何度も言いますが、このハンナというのは亡くなったお母さん、大好きな大好きなママの名前なんです。

あのときチャップリンは心の中ではこう叫んだんです。「お母さん、聞こえますか。私、この『独裁者』という映画をつくったことによって、絶えず命を狙われているんです。だからもうすぐ殺されるでしょう。現に朝晩、殺し屋が私の家の周りをうろついているんです。もうすぐ殺されます。死んだらお母さんの待つ天国に行きます。そのときに私のことを褒めてやってください。"チャーリー、よくやったね。お前があの映画を撮ったことは、とてもすばらしいことなんだよ。しかも私がお前に教えた歌と踊りと芝居のすべてをあの映画に叩き込んで、見事な作品をつくってくれたね"。お母さん、そう言って私を褒めてくださいね。もうすぐあなたの側に行きます。天国へ行きます。ハンナ、聞こえるかい！」と言ったのは、心の中で「お母さん、聞こえますか。私の魂の叫びが聞こえますか」と、そういう意味で言ったんですね。

幸せなことに、チャップリンはヒトラーに殺されずに、ドイツのほうが減びてしまいました。そしてチャップリンは命長らえて1977年12月25日、クリスマスの朝、天国に召されて旅立って行きました。

『街の灯』～慈悲の明り～

チャップリンが昭和5年に撮りました『街の灯』という名作があります。いかにこの人がすごい演技と演出をしたか。ちょっと聞いていただきたいと思います。街角

に一人の花売り娘が立っていた。「お花を買ってください。お花はいかがですか」。通りかかったチャップリンが、あまりにも花売り娘が美しいのを見て感動して、ポケットからコイン一枚を出して花一輪を買ってやった。

「ありがとう」。花売り娘が差し出す手と、受け取るチャップリンの手と、手と手がぶつかって花が一輪ポトンと地面に落ちた。チャップリンはしゃがんでサッと拾ったのに、花売り娘はいつまでたってもこうやっているんです。これを見たときチャップリンも、われわれお客も気がついた。この花売り娘はこんなにつぶらな瞳を見開いているのに実は見えていないんだ。

そこでチャップリンは可哀相に思いまして、もう一度ポケットへ手をつっ込んで、ありったけのお金を手に握らせてやって、お花を全部買ってやります。そのとき二人の側を、一人の金持ちがコツコツと靴音を響かせ、そこに止めてあった車に乗って、ボタンとドアを閉めて、ブーッと走り去った。花売り娘は目が見えないから勘違いをします。花を全部買ってくれた人は金持ちに違いない。金持ちは車に乗っている。するといま立ち去った人が花を全部買ってくれた人に違いないと思うから、そっちへ手を振るんですね。「ありがとうございます。お蔭様でみんな売れました。でもお釣りがありますのに」と、手を振っている側で、チャップリンが花束を抱えてポーンと立っているんです。

これ、本来ならどうしますか。「花売り娘さん、勘違いしたらだめですよ。花を買ったのは僕です。触ればわかるでしょう」と手を引っ張ればすぐにわかることですが、チャップリンはそれをしない。チャップリンの映画のもう一つのテーマは「無償の愛」です。親切にしてあげたからお返しを求める、それは無償の愛じゃない。いくら愛しても、親切にしても、一切お返しを期待しないのが無償の愛です。チャップリンは黙っていた。立ち去ろうとしたときに、花が全部売れたからバケツがカラになった。花売り娘がそのバケツを手を持って、中の水で十分バケツをゆすいでバツとぶちまけた。その水がチャップリンの頭にザバーッとかかるんです。それでもチャップリンは黙って、足音を忍ばせてその場を立ち去っていきます。

それからチャップリンは働いた、働いた。街のお掃除、ボクシングの試合、あらゆることをやって働いて、少しでもお金がたまると街角へ行って、花売り娘の手に握ら

せてやった。ある日花売り娘のアパートの下を通りかかると、窓から花売り娘とおばあちゃんの声が聞こえる。おばあちゃんが言うんです。「お前一人に働かせてすまないけれど、きょうまた家主さんがお見えになったんだよ。もう半年も家賃がたまって、今度払えなかったら出ていけとおっしゃるんだよ」。花売り娘が言います、「ごめんね、おばあちゃん。私に働かがないものだから、おばあちゃんにまで辛い思いをさせるわね。もう少し頑張って花を売ってみせるわ」。それがチャップリンの耳に入った。また、後で新聞を開いてみますと「世界一の眼のお医者さんがこの町に来る」とも書いてある。

そこでチャップリンは、日ごろお酒の飲み友だち、大金持ちのおっさんに「1000ドル貸してくれ」と頼みます。このおっさんはいつでも酔っているんです。「1000ドル貸してくれて、お前水臭いこと言うなよ。1000ドルぐらいやるから持っていけ」。これをチャップリンが受け取った途端に、物陰から強盗が踊り出て、金持ちの親父の頭をガンとピストルで殴って逃げた。チャップリンがすぐに警察へ電話をした。警官が走ってくるころ、金持ちのおっさんは気がつくんです。「ああ、痛かった。きつう殴りよったわ」「失礼します。被害は何かありませんか」「被害？あ、ポケットに入れといた1000ドルがないですわ」と言いながら、ヒョイと見ると、その1000ドルをチャップリンが持って立っているんです。「あ、お巡りさん、こいつです。こいつが強盗です」。

実に勝手なものです。警察官がパッと飛び掛かるのを、逃げて逃げて、走って走って、花売り娘のアパートに走り込んで、「これで目を治すんですよ。世界一のお医者さんが来ますからね」と言って、その手に1000ドルを握らせてやって、表へ出た。手錠がかかった。無実の罪で刑務所につながれること6年。やっときょう出所してきました。服もズボンもボロボロです。北風の吹く寒い町を襟を立ててとぼとぼと歩くチャップリン。

セリフ

感動の3枚の台詞

街角まで来てみて驚いた。そこに総ガラス張り、真っ白な屋根を持ったお洒落な花屋の店がある。ショーウィンドー越しに中を覗いてみると、あの花売り娘がいまは目もすっかり治って、生き生きと花束をつくりながら、おばあちゃんに話しかけている。「ねえ、おばあちゃん。私が目が見えなくて街角に立って「お花はいかがですか。

お花を買ってください”と哀れな声を出していたころ、度々私の手にお金を握らせて花を買ってくれた人がいたわね。最後に1000ドルという大金を握らせて、そのまま来なくなった人がいたわね。会いたい。会ってお礼がしたいわ。さぞかし大金持ちなんでしょうね。でもいま会ってもわからない。あのころ私、目が見えなかったから。でも会ってお礼が言いたいよ」と言いながら、ひよっと顔を上げると、ショーウィンドー越しにチャップリンがじーっと覗いている。

「よかったなあ。俺が渡してやった1000ドルで、あの娘の目が見えるようになった。こんなに立派な花屋の店も持てた。よかった、よかった」。立ち去ろうとしたときに花売り娘が、「おばあちゃん、汚い男が覗いているわ。花ばかり見ているから花を一輪やりましょうか。カーネーションの花一輪と、あまりにも彼の姿が可哀相なので、銀貨を1枚添えて表へ出てくるんです。

「あ、さっきからうちの店を覗いているわね。花が好きなんでしょう。これをあげますから持って行きなさいな」。カーネーションの花を差し出したのでチャップリンはそれを受け取った。「お金もあげますから持って行きなさいな」と銀貨を渡そうとする。これを受け取ると、あまりにも自分が惨めです。チャップリンは「要りません。それは結構です」というふうに後ろに下がったのを、遠慮と勘違いした花売り娘は「このお金、持って行きなさいな」と、チャップリンの手をぐっとこっちへ引き寄せ、その手の中に銀貨をギュッと握らせてやったとき、花売り娘の顔色が変わった。

「あ！ この人のこの手の温もりを私は覚えている。誰だったかしら。この人と同じ手の温もりを持った人を知っている。あ、そうだ。私がまだ盲目だったころ、私の手に度々お金を握らせて花を買ってくれた人がいた。最後には1000ドルという大金を私のこの手に握らせて、それから後ぶつりとやってこなくなった。あの人の手の温もりと、いま目の前にいるこの見すばらしい手の温もりが、ああ、同じなんだ」。

昭和5年、無声映画ですから、台詞は全部字幕に出ます。映画史上、有名な3枚の台詞が字幕に出て、この映画は終わるんです。花売り娘が言います。「ああ、貴方でしたか」。チャップリンが言います。「もう見えるようになったんですね」と言ったとき、カメラはチャップリンの上半身を撮る。手に持ったカーネーションの花の花び

らがハラハラと散る。花売り娘が言います。「はい、お蔭さまで」「終わり」と出るんです。この映画は泣いている暇がない。映画を見た人は帰りの電車の中で、思い出して泣いたと言われております。

映画が教える夫婦の仲

きょうは、奥様方も多うございますので、一昨年上映されました『幸福の条件』という映画を、まだテレビに一回しか出ていませんので、短く紹介しまして、夫婦のあり方ということ、ちょっと一緒に考えてみましょう。言っておきますが、しょうもない話ですよ。夫婦問題を大上段に振りかざした話じゃない。世界で一、二と言われる出演料の高い女優、デミー・ムーア、高校時代の同級生と結婚した。夫は建築の会社に勤めておりましたが、リストラに遇いましてクビになった。あらかじめ二人の戸建ての家を建てようと、銀行から借金して土地を買っておいたにもかかわらず、仕事を失ったからこの土地は銀行に取られるかもしれない。どうしたらいいだろうかと相談したとき、この若き夫が実につまらないことを考えた。

ロサンゼルスから飛行機に乗りまして1時間。ラスベガスという街があります。私もついこの間行ってまいりましたが、24時間、賭博の街です。ここへ行って金を増やそうとする。元手がない。5000ドル人から借りまして、これを持って夫婦でラスベガスへ行くんです。博打、ギャンブルというものは余った金で遊ぶものです。切羽つまった金でやるものじゃない。負けて負けてどうしようもない。

一方、嫁のデミー・ムーアは、女の人は割に神経が強いものですから、あまり切羽つまらない。サイコロをやったり、ルーレットをやったり、あるいはスロットマシンをやったりして「ワーツ、勝ったわ。あー、負けた」と、いたって天真爛漫に振る舞っているのを、物陰からじっと見ておりましたのが、大金持ちの役をやるロバート・レッドフォード。いま、アメリカ映画界において最高の美男と言われ、また18日から、彼が主演した『アンカー・ウーマン』という映画が上映されます。ロバート・レッドフォード。若き日の私にそっくりだと言われております(笑)大金持ちです、チップ1枚100万円でやっているんです。この金持ちがデミー・ムーアに一目惚れした。そしてデミー・ムーアの夫に言うんです。

皆さん、これはおとぎ話と思って聞いてください。「私は貴方の奥様に惚れました。あんな可愛い女性に会ったことがない。腹が立ったら殴ってください。私は貴方にあえて失礼なことを願う。貴方の奥様を一晚だけ私のところへ寄越してくださいませんか。1億円のお礼を差し上げます」と言うんです。一晚で。夫は男ですから、嘘でも見栄を張ります。「馬鹿なことを言うな。どこの世界に金に目が眩んで、自分の嫁さんを他人に貸す、そんな奴がいるか」と言うんですが、博打ですってしまって、今晚のホテル代も払えないんです。

女の人は度胸が座っていますから、デミー・ムーアは言うんです。「私、行きます。でも条件があります。一晚だけ。しかも私が明日帰ってきて、このことは夫婦二人が死ぬまで触れないという約束してくれるなら、私は行きます。そうでないとこのホテルから出られないでしょう。支払いもできない。行きます」と言うんです。

そして金持ちのロバート・レッドフォードの部屋へOKの返事をする。「屋上へ上がってください」と言う。何のためかと思つて、屋上へ上がると、遠くの空からヘリコプターがパタパタパタと飛んできて舞い降りる。これに乗りますと、また舞い上がったヘリコプターは、沖合はるかに浮かんでおります豪華客船の甲板へ下りた。デミー・ムーア一人を下ろしてヘリコプターは飛び去った。船の甲板に沿ってバーがあります。そこから甘い音楽が聞こえてくる。デミー・ムーアが誘われるようにしてそのバーへ入りますと、あの世界一の美男俳優と言われたロバート・レッドフォードがいる。いまはもう60歳近くなりましたが、相変わらず男前です。足をこういうふうに組んで、こういう感じてね。ちょっと私は短いんですが、こんな恰好で待っているんです(笑)何かおかしいんです、そんなに――。



「よく来てくれましたね」音楽に合わせて、どちらからともなく寄り添ってダンスを踊り始める。一晚が過ぎた。デミー・ムーアは夫のもとへ帰ってきた。夫のところへ1億円の小切手が送られてまいります。夫は後悔の連続で、男はだめですね、ついに言うてはいけないことを言うてしまうんです。そしてデミー・ムーアは泣いて家を飛び出して、金持ちのロバート・レッドフォードの屋敷に飛び込んでしまうんです。夫は送られてきた1億円を、とても自分のものにする気にならないから、動物愛護協会に寄付してしまいます。

思いがけなく屋敷へ飛び込んできたデミー・ムーアにわざと聞こえるように、ロバート・レッドフォードは秘書と話をします。「金持ちというのは結構なものだ。これと思つて、金で手に入らないものはなかった。人妻でさえ1億円でもものになるんだから。金持ちというものは有り難いなあ。俺は度々この手で、何人もの人妻をものにしてきたな」と。そんなことはないんですよ。そんなことはないんですけれども、わざとデミー・ムーアに聞こえるように言う。それを聞いて、デミー・ムーアは泣いて夫のもとへ帰っていくんですね。これが『幸福の条件』です。

そういう話が本当にあるだろうか。「あつたとすれば、皆さんはどうお思いになりますか」と、私の番組で試写会をやつてアンケート調査をした。ほとんどは「けしからん。人の道に外れている。何という馬鹿なことをやるのか」と、この映画のテーマを非難するお答えが多かつたが、中にお若い女性のお答えで目立ったのは「相手がロバート・レッドフォードならタダでもいいわ」やて(笑)そしてまた、この映画の試写会にいらしたご主人のお答えで目立ったものは「うちの嫁さんが一晚で1億。そんなことなら一晚と言わず三年ほど預かってほしい」(笑)

映画は生きる力の源

映画って面白いでしょう？ 映画はいろんなことを考えさせてくれるんです。さっき言いましたように、私は昭和10年1月10日の生まれですから、満61歳です。でも多少若く見えるのは、人によっては、私は38歳だと言うと本気になる方がございますが、やはり映画でいろんな知識を得たり、あるいはいろんな刺激を受けているから

なんです。日本が300年徳川鎖国の時代を経て、やっと外国というものに目覚めたのは、庶民の場合は映画、活動写真だったわけです。

そして、それは未だに国際化に役に立っておりますので、折りに触れて映画もご覧いただきたい。心によい刺激を受けます。それが自然と老化防止、ボケ防止、ノイローゼ防止につながっていくと思いますので、よいという評判の映画を月に2本ご覧いただければ、大変結構かと思えます。そのことによって国際化の目を開いていたければ一層幸せでございます。

一応、私に与えられました時間が来たようでございますので、ここで終わらせていただきます。(拍手)

尚、家族のつどいの開会にあたり、仲井大会副委員長より歓迎のご挨拶、R.I. 会長代理夫人 脩子様からご挨拶を頂きました事、並びに100名を超えるご参加を頂き盛会裡に行われましたことをご報告申し上げます。

講師プロフィール

浜村 淳

司会、DJ、映画解説者。

京都生まれの京都市育ち。同志社大学文学部卒業。タレントとしては初めて国立和歌山大学の経済学部講師として話題となった。

その後平成6年には、追手門学院大学文学部講師として再び教壇に立った。

【現在の出演番組】

MBS 『ありがとう浜村淳です』

月～金曜日 8：00～10：00

土曜日 8：00～11：30(ラジオ)

KTV 『浜村淳の人・街・夢』

月曜日 10：45～11：00

ABC 『ワイドABCDE～す』

月～木曜日 16：00～18：00

TVO 『健康手帖』 金曜日 16：45～17：00

TVO 『関西元気のダシ』 土曜日 15：00～16：00

MBS 『フライデーシネマナイト』 金曜日 深夜

【著書】

『源氏物語 花はむらさき』

『しゃべり死にものぐるい』

『話上手で心をつかめ』『星影の飛鳥』

『淳ちゃんの名作映画をありがとう』

R.I. 会長代理ご夫妻歓迎晩餐会

大会第1日 ロイヤルホテル(光琳の間)

和やかにオープニング

昼間の熱気さめやらぬ中、これから催されるR.I. 会長代理ご夫妻歓迎の宴を待つ周辺は静かであった。

6:15入場、ロイヤルホテル最大の光琳の間に約400名が整然と着席、満席となった。モーツァルトの「アイネ クライネ ナハトムジーク」を6名が“箏”で優雅に奏でる中、スティーブ・K. ヨシダR.I. 会長代理ご夫妻のご入場を万雷の拍手でお迎えした。

副S.A.A.、岡村晃明、アシスタント円城寺美希さんの司会進行は明るく軽やかに隔々まで響きわたる。先程までの静けさを打ち破るかのように、声高らかに熊澤ガバナーの歓迎挨拶でスタートした。



邦楽に親しむ

エンターテイメントでは、やはり日本の伝統音楽、箏曲が演奏される。宮城道雄師の高弟である須山知行氏が中島警子氏と共に主宰する「桐絃社」社中が日頃の腕をいかんなく発揮せんと揃いの衣装で大合奏を演じた。

曲は「祝典箏協奏曲」(宮城道雄作曲)を胡弓、尺八、笙、フルート、打ち物が用いられ、厚みと奥行きのある楽器編成となっている。雅楽とオーケストラの2つの趣をもつ荘重なる曲で神武の昔と昭和の時代を緩急の対比で表現されている。私たちにあってまたとない格調の高い演奏をお聞かせいただいた。

私たちはとかく、このような本格邦楽を聞く機会にめぐまれることの少ない日常なので今後も意識に留めておきたいものだ。



R.I. 会長代理は満面笑みを浮かべ、挨拶されたが、特に今回の目標でもある“東ロシア地域の拡大に協力を”との要請には心を打つものがあり力強さが感じられた。またロマンスの芽生えた大阪を心から懐かしむ喜びを語られ、体一杯に親しさを表れていた。

横尾大会委員長の乾杯のご発声により、いよいよ宴の幕は切っておとされた。

ロイヤルホテルの粋を極めたスペシャルディナーに舌づつみしながら、それぞれのテーブルで歓談の花が満開、和やかムードがいやが上にも盛り上がりを見せていった。

式次第

オープニング 歓迎演奏	
モーツァルト「アイネ・クライネ・ナハトムジーク」	桐絃社
開宴告知挨拶	司会者 岡村 晃 明 円城寺 美 希
歓迎挨拶	ガバナー 熊 澤 忠 躬
R.I. 会長代理ご夫妻挨拶	R.I. 会長代理 スティーブ・K. ヨシダ様 令夫人 侑 子 様
乾 杯	地区大会大会委員長 横 尾 定 美
食事・歓談	
エンターテイメント	祝典箏協奏曲 須 山 知 行 氏 中 島 警 子 氏 池 田 静 子 氏 桐 絃 社 「曲 独 奏」 桂 米 八 夫
閉宴挨拶	晩餐会委員長 坂 本 茂 夫



古典芸能曲独楽を継承

米朝一門の桂 米八。落語も伝統だが落語から曲芸がでるとは、と思ったが、これも寄り道ではない本格的古典芸能を継承する希少な価値がある。私たちは今後より一層の修行と生半可でない芸道錬磨の達成に期待するところである。

舞台上では見事な集中力とサバキが披露され、明るく楽しませながらの至難の芸は、我々の心をとらえきる。次々に繰り広げられる芸は満場の拍手喝采の連続であった。時の経つのもわすれるうちに、もう定刻がやってきた。いよいよ終宴である。



相撲甚句であいさつ代行

坂本晩餐会委員長は盛り上がった雰囲気の中で小西地区代表幹事にあいさつの代行を要請、一瞬とまどいをみせていた様子であったが、そこは多芸の代表幹事ムードを大切にすべく快諾した。イザ壇上にてあいさつ、と思いきや「相撲甚句」でもって、R.I.会長代理ご夫妻を初め、ご出席の皆様方へ即興で、すばらしいあいさつを唄いあげていただいた。満場の喝采はいうまでもない。

予定時刻も若干過ぎてしまった。それぞれの顔には興奮のあかしか、やや紅潮気味であったのは誰の目からも伺えた。

このような最後まで興趣のつきない晩餐会を行うことができたことに深く感謝しております。R.I.会長代理ご夫妻もさぞお楽しみいただけたのではないかと思います。

大きな余韻を残しながら、場内の灯は少しずつ消えていった。

(M・S 記)



須山 知行

箏を宮城道雄に師事、演奏も師の面影を最もよく伝えている。1947年桐絃社設立、毎年「宮城道雄をしのぶ箏の夕べ」に出演、海外での活動もめざましい。現宮城会理事、大阪音楽大学名誉教授、関西芸術文化協会理事、桐絃社主宰。



中島 警子

箏を宮城道雄・須山知行に師事、関西で宮城道雄を広める重要な役割を担っている。「グランド箏コンサート」「桐絃社シリーズ演奏会」他多数を開催、現宮城会評議員、大阪音楽大学教授、大阪女子大学講師、桐絃社主宰。



池田 静山

初代池田静山に都山流尺八を学ぶ。都山流屈指の演奏家、ウィーンでの国際民族楽器コンクールで、管楽器部門第1位金賞受賞。レコード・リサイタル等多数発表。都山流尺八楽会相談役。

モーツァルト作曲 アイネ・クライネ・ナハトムジーク

4楽章からなるセレナードの弦楽四重奏曲で最もポピュラーなモーツァルトの作品である。この度、邦楽楽器の代表「箏」に関して造詣の深い角田圭伊吾の編曲で箏1、2、3、4パート、17弦1、2パートの編成で、全体としては力強さと、やさしさの対称、そして箏ならではの優美でリッチな感じがよく出ている。

宮城道雄作曲・祝典箏協奏曲

新日本音楽の創始者宮城道雄の作品で、単なる祝儀曲に留まらず優れた芸術性を秘め、楽器編成は箏、胡弓、十七絃、尺八、笙、フルート、打楽器が用いられた大合奏曲である。箏独奏部のテクニックも誠に至難なものがある。

曲独楽

日本の古典芸能の曲芸の一種で奈良時代に中国より伝来した。江戸時代には曲棊、大神楽、皿廻し、居合抜き等他の曲芸と共に盛んに行われていた。今日では特技としても稀少性が高い。

出演者		
<input type="checkbox"/> 胡弓	須山 知行	
<input type="checkbox"/> 箏独奏	中島 警子	
<input type="checkbox"/> 尺八	池田 静山	
<input type="checkbox"/> 第一箏	横田二三子	小牧万須美
	森 祥子	片岡 リサ
<input type="checkbox"/> 第二箏	武田 邦子	山口たきこ
	橋本 伸子	橋本 嘉子
	久野 静子	
<input type="checkbox"/> 十七絃	村上 洋子	
<input type="checkbox"/> フルート	柴田孝治郎	
<input type="checkbox"/> 笙	林 絹代	
<input type="checkbox"/> 打物	北野 徹	

プログラム

5月11日(土)

大会第2日(フェスティバルホール)

地区大会・本会議

12:00 登録・受付

演奏 ザ・ベリーグッドマンズ

13:00 開会

大会役員紹介 <大会SAA> 平井秀興
<アシスタント> 円城寺美希

R.I.会長代理ご夫妻紹介

開会点鐘 <ガバナー> 熊澤忠躬

国歌「君が代」斉唱

ロータリーソング「奉仕の理想」斉唱 <ソングリーダー> 中島警子
<ピアノ伴奏> 浅井かづみ

13:05 開会宣言 <大会委員長> 横尾定美

13:07 来賓紹介 <ガバナー> 熊澤忠躬

13:13 来賓祝辞 <大阪府知事> 横山ノック(山田 勇)
<大阪市長> 磯村隆文
<代理 大阪市助役> 佐々木 伸

13:19 参加クラブ紹介

13:27 参加姉妹クラブ代表挨拶 バコロドR.C.(フィリピン)代表

13:32 物故会員に黙禱 <ガバナー> 熊澤忠躬

13:37 ガバナー挨拶及び地区現況報告 <ガバナー> 熊澤忠躬

13:57 R.I.会長代理挨拶及びR.I.現況報告 <R.I.会長代理> スティーブ K.ヨシダ

休憩(約10分)

14:27 表彰

14:40 登録委員会報告 <登録委員長> 高士 修

15:05 信任状委員会報告 <信任状委員長> 菅生 浩三

選挙委員会報告 <選挙委員長> 大森 慈祥

大会決議案上程 <決議委員長> 中野 董夫

大会決議案採択 <ガバナー> 熊澤忠躬

- 15:20 R.I.会長代理講評 <R.I.会長代理> スティーブ K.ヨシダ
- 15:30 記念品贈呈
- R.I.会長代理ご夫妻 <ガバナー> 熊澤 忠 躬
- 15:32 ガバナーノミニー紹介 <ガバナー> 熊澤 忠 躬
- 1996~1997年度ガバナーノミニー挨拶 <ガバナーノミニー> 中川 章 三
- 15:36 次年度ホストクラブ発表 <ガバナー> 熊澤 忠 躬
- 次年度ホストクラブ会長挨拶 <大阪城南> 石 浜 雪 大
- 15:40 高知県知事特別講演 講師 <高知県知事> 橋 本 大 二 郎
- 16:55 エンターテイメント「JAZZ」 特別編成バンド オオサカ・イイジイ・ジャズバンド
- 関西トップクラスのプレイヤー・OB(18名)によりロータリー地区大会のための夢のサミットビッグバンドを編成。馴染みの曲、楽しい曲、大阪の曲、ロータリーソングを編曲して15曲。
他にダンス、ヴォーカル
- 17:55 閉会挨拶 <ホストクラブ会長> 井 上 幾 之 進
- 17:57 ロータリーソング
- 「手に手つないで」斉唱 <ソングリーダー> 佐 治 信 隆
- <ピアノ伴奏> 浅 井 か づ み
- 17:59 閉会点鐘 <ガバナー> 熊澤 忠 躬
- 18:00 閉会

ガバナー挨拶

「真心の行動、慈愛の奉仕、平和の挺身」
に向けて

ガバナー
熊澤 忠躬



開会にあたりまして一言ご挨拶申し上げます。スティーブ・K・ヨシダR.I. 会長代理ご夫妻をはじめ、多数のご来賓の方々、および地区内外から約2,500名のロータリアンのご臨席をいただきまして、ここ大阪においてR.I.第2660地区の地区大会が本日開催されますことをたいへん嬉しく存じております。約5,600名の会員一同、一層の感動を込めてR.I.会長代理を歓迎申し上げます。

今年のR.I.のテーマは、「真心の行動、慈愛の奉仕、平和の挺身」の3つはロータリーの永遠の理想でございまして、この一年間、私どもはこのテーマの実践について地区の皆さんとともに考え、語り合ってきました。81クラブの公式訪問に際しましては、会員の皆さまの理想に燃えた真剣な行動を目の前にして一層に勇気づけられましたことを深く御礼申し上げます。

地区大会の目的は、会員相互の交歓と感銘深い講演と、地区内クラブ、R.I.全般に関する問題を討議することによりまして、ロータリーのプログラムを推進することにあります。この大会におきましてその実が上がりますことを期待してやみません。

そしてこの大会の目的達成のために、日夜献身的な努力を尽くしていただきまして今日をむかえました守口ロータリークラブ、コ・ホスト門真ロータリークラブの皆さまのご尽力に対して心から感謝申し上げます、私のご挨拶といたします。

R.I. 会長代理挨拶

「ロシアにロータリークラブ」を

R.I. 会長代理
スティーブ・K・ヨシダ



こんにちは。これから日本語で挨拶したいと思います。下手な日本語ですが、まず私の家内を忘れないように紹介します。脩子です。(笑)

大阪の地区大会に会長代理として来ることができ、非常に嬉しく思っております。家内とは26年前に大阪の万博の仕事の関係で会いまして、15年ぶりの大阪であります。2回目のハネムーンの感じがしてなりません。

さて、私はパスト会長じゃないし、パスト理事でもないのに、どうして大阪のこんな立派な地区大会に来ることができたかと考えました。

そこで思いついたのは現在私は、ロシアのロータリーを中心に活動しているからではないかという点です。われわれの地区は5010地区で、アラスカ、カナダ、東ロシアが入っているわけですが、大阪とも近く、互いに多く影響しあう立場にあるからではないかということです。このことはロータリーにとって非常に大事なことです。特にロシアにロータリーを広めることは大切なことです。その機会をこの立派な地区大会の後でやりたいと思います。

われわれは大阪に来て、この大会に参加されている人の中にも知っている人がたくさんいます。もっといろんな友達をつくれると思いますし、非常に楽しみにしたいとも思っています。今後ともよろしく願います。

来賓祝辞



大阪府知事 山田 勇
(横山ノック)

国際ロータリー第2660地区の今年度地区大会のご盛会をお喜び申し上げます。ロータリークラブの皆さまには「真心の行動、慈愛の奉仕、平和に挺身」の精神をもって、日ごろから国際親善や明るい社会づくりのため、幅広い奉仕活動を展開されますとともに、府政に対しましても温かいご理解とご協力をいただいております。

とりわけ、来年の「なみはや国体」の開催にあたりましては、なみはや国体募金推進委員会の委員をガバナーの熊澤さんをお願いをしており、またこの基金につきましても地域をあげて取り組んでいただいているところでございます。こうした皆さまのご活躍に対し、この場をお借りいたしまして深く敬意を表しますとともに、心から厚く御礼を申し上げます。

さて、大阪府では地域の助け合いや家族の支え合いを大切にしながら互いのことを思いやられる心豊かな社会の実現に取り組んでおります。こうした中、ロータリークラブの皆さまが日ごろから地元に着した奉仕活動を通して、地域の助け合いを実践していただいておりますことは、私どもにとりましてもまことに心強い限りでございます。どうか、皆さまには今後とも、だれもが住み慣れた地域で安心して暮らすことのできる明るい大阪づくりのため、一層のご尽力をいただきますとともに、関西国際空港の順調な成長、昨年のAPEC大阪会議の開催などを、はずみとして世界都市として大きく飛躍しようとする大阪の発展のために温かいお力添えをお願い申し上げます。

最後に、国際ロータリー第2660地区の各クラブの限りないご発展と、お集まりの皆さまがご健勝で今後ますますご活躍されますことをお祈りをいたしまして、お祝いの言葉いたします。

来賓祝辞



大阪市長 磯村 隆文
[代理 大阪市助役] 佐々木 伸

本日、この席に大阪市長・磯村をお呼びいただいていたのですが、あいにく本日まで外国出張中ですので、私、磯村の祝辞を代読させていただきたいと思っております。

「国際ロータリー第2660地区の1995～96年度地区大会」が「真心・慈愛・平和」をテーマに盛大に開催されましたことを心からお喜び申し上げますとともに、ロータリーの皆さま方には常日ごろから大阪市政について格別のご協力をいただき厚くお礼申し上げます。

皆さま方には会員相互の交流と親睦を深めるとともに、崇高なロータリアンの精神に基づいて、地域社会の発展と福祉の増進のために様々な奉仕活動を展開され、大きな成果を上げておられます。そのご熱意とご尽力に深く敬意を表する次第であります。

関西国際空港が開港いたしまして、昨年、秋に開催されましたAPEC大阪会議もお蔭をもちまして成功のうちに終了いたしました。本格的な国際化時代を迎え、大きく飛躍を遂げようとしているこの大阪において、来年には「なみはや国体」「ふれ愛びっく大阪」が開かれ、2001年には東アジア競技大会の大阪市における開催が決定しております。さらに、大阪市では平和の祭典・オリンピックの2008年おおさか招致に全力をあげて取り組んでおります。

大阪市では、来たるべき21世紀の地球社会を展望いたし多くの人々が集まり、にぎわう「創造性と活力にあふれ、世界にはばたく大阪」、快適で豊かな生活を楽しめる「だれもがあこがれ、住みたいと願う大阪」を目指すとともに、地方自治の原点に立って積極的に市政を進め「市民の皆さまが誇れる大阪」の実現に努めております。どうか皆さま方の一層のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

国際ロータリー第2660地区のますますのご発展と、皆さま方のご健勝、ご多幸を心からお祈りを申し上げて、お祝いの言葉といたします。

大阪市長・磯村隆文(代読)

ガバナー挨拶及び地区現況報告



ガバナー 熊澤忠躬

2500名以上のご来場の皆さま、よくおいでいただきました。ありがとうございます。

私は、この地区大会に際しまして2つのお願いをいたしました。その1つは、R.I.会長代理にスティーブ・K・ヨシダさまご夫妻を迎えたいと願ったことであります。今年度のR.I.のテーマは「真心、慈愛、平和」というロータリー永遠の理想を全世界に広げようという広大な夢を追ってこの一年間、地区の5600名のロータリアンとともに考えまして、そして語り合ってきました。

特に大阪におきましては、関西空港の開港、APECの主催などがありまして、各国から熱いまなごしを強く感じております。この意味におきまして私の念願は、現在、世界中で最も活躍なさっておられます日系のアメリカロータリアンであるスティーブ・K・ヨシダさまをお

迎えいたしたく、再度にわたりましてブラウン会長に要請しまして本日、実現されたわけでございます。非常な幸運と喜んでおります。心からご歓迎申し上げます。

もう1つの念願は、潔癖な行政に真剣に取り組んでおられます橋本大二郎高知県知事にぜひ記念講演をお願いしたいということでありました。われわれが当面しております現在の政治・経済・宗教の乱れは、私たちを失望に追いやっております。橋本知事の志の高さ、信念の強さは灯台の光のように私どもの心を魅了してくれます。ご多忙中のところ喜んで了解いただきましたこと、嬉しい限りであります。

この私の2つの念願をかなえてくださいますように、日夜、献身的な努力を尽くしてくださいましたホストの守口ロータリークラブ、コ・ホストの門真ロータリークラブの皆さまに深く感謝の意を捧げまして、まずご挨拶といたします。

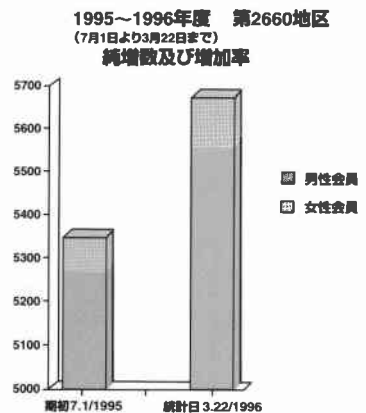
続きまして地区現況報告をさせていただきます。

2クラブの加入で会員増強率は日本一

現在、われわれの地区は、81クラブで維持しておりますが、昨年10月11日に、大阪咲洲ロータリークラブが、大阪住之江ロータリークラブをスポンサーとして、また、今年3月14日に大東中央ロータリークラブが、大東ロータリークラブをスポンサーとされ、それぞれ創立されました。

また、改名が1つ。大阪阪和ロータリークラブが大阪イブニングロータリークラブと称されることになりました。

3月22日現在の会員総数は、5675名でございます。予算は1億円でもかかっております。



(1996. 3. 22現在)

は結婚なさるときにはクラブの方が、仲人になったり、親代わりを努めるというものです。お金だけをあげるというのではなく、気が長いけれども先を見越した、気持ちを伝えるという、これこそブラウン会長がおっしゃる「慈愛の奉仕」を実現してみようではありませんか、の呼びかけに共鳴いただきました結果、実現したプロジェクトでございます。

仮設住宅で生活するお年寄りを ふれあい、ぬくもりの奉仕でお迎え

北摂地区には今も仮設住宅にお住まいのお年寄りが、ざっと600名はおられます。

私たちは「ふれあいとぬくもりの奉仕」として、200名のお年寄りの方を箕面スパーガーデンにお招きして、まずお風呂に入っていたいただき、われわれと一緒に食事をしてカラオケ大会なども楽しんでいただきました。

お招きしたお年寄りから、非常に喜んでいただき、われわれといたしましても、お世話をさせていただいて本当によかった、と心から満足しております。

大阪城のクリーンアップにボランティア

大阪でAPECが開催される直前のことでしたが、わが地区のロータリアンがこぞってボランティア活動を実施しました。

大阪城のクリーンアップがそれで、山中パストガバナーや岡本ボランティア委員長、毛利青少年国際交換委員長とご相談いたしまして行いました大阪城の清掃奉仕です。大阪府の山岳倶楽部と一緒に城壁をきれいにいたしました。どうぞ一度ご覧になってください。

医療ボランティアでは知事から表彰

ボランティア活動のひとつとしては、ロータリー財団の奨学生で英語の堪能な方、あるいは米山奨学生のOBの方やロータリアンの中で語学の達人な方に来ていただいて、同時通訳をお願いしたり、また、ロータリーのドクターをお願いして医療班をつくりまして、もしもの病気のときに診察、治療にあたっていただくことも実施いたしました。

このボランティア行動に対しましては、大阪府知事から表彰されたことをご報告しておきたいと思っております。

R.I.財団の活動実績は2位

続きましてR.I.財団の活動実績についてでございますが、世界の5015地区の中でわれわれ2660地区は2番目でございます。トップは第2650地区の京都で、3番目は2640地区となっております。5015地区の中で、この3つの地区が毎年のように1、2、3位を争っておりますが、その金額は75万ドルに達しております。

奨学生は95～96年の間、派遣19名、受入れ7名の26名でございます。

青少年交換は派遣17名、受入れ13名、計30名となっております。GSEは今年サンパウロ4430地区と行いまして、本日皆さんにご紹介申し上げます。

R.I.財団の寄付額について一人当たりの金額はどうかの点では現在すべて目標額を達成しております。

クラブ別の成績では、トップは今回の大会でコ・ホストをなさっていたいる門真ロータリークラブが断然、高額の貢献をなさっております。

米山奨学会の寄付について、当地区は9130万円でございます。大阪東ロータリークラブの622万円がトップでございます。米山奨学金におきましても、当地区とお隣の京都、そして2640地区（堺、和歌山）が国内ではトップ争いをしている状況です。

R.I.財団の活動と同じように米山奨学金も素晴らしい貢献をなさっているということも、R.I.会長代理にぜひお知らせしておきたいと存じます。

国際奉仕の活動でございますが、今年2月、古田パストガバナー、藤井宏一委員長をはじめ5名で、過去4年間で援助いたしましたWCSの場所を視察に行かれました。

フィリピン、タイ、インド、バングラディッシュなどがその視察先でございます。インドでは、粗末な家に住んでおられる方々をたくさん眼のあたりにしますと、われわれはこういう方に手を差し延べたいと言う気持ちを、そしていささかでもお役に立っていただければと願っている次第でございます。

この他、社会奉仕、職業奉仕、青少年交換、そして新設されました親睦委員会などのすべてが、まことにめざましい活躍をなさっておりますが、時間の関係上割愛させていただきますことをご容赦いただき、地区現況報告とさせていただきます。

R. I. 会長代理挨拶及びR. I. 現況報告



R. I. 会長代理
ステイブ・K・ヨシダ

これから日本語でしゃべりたいと思います。私は日本語が下手ですから妻は非常に心配しましたがけれども、私のメッセージは日本語がわかりやすいのではないかとおもいまして、フィーリングでいきますことを失礼いたします。

2カ月前、ブラウンさんから「大阪地区大会に行ってください」という手紙をいただきました。それは熊澤ガバナーのお力であったと思いますが、非常に光栄に思っています。去年の会長代理、ウィルキンスさんからいつも大阪のことを、どんな立派な地区かと聞いています。しかし、ガバナー・熊澤のレポートを見まして、聞いていたこと、思っていたこと以上の立派な地区だと思いました。世界で1番から3番のファンデーション・ギビングとか、6.7%メンバーシップ、もちろんブラウン会長に報告しますが、彼は非常に喜ぶと思います。特にブラウンさんの奥さんは女性のロータリアンに対して非常に頑張らないといけないと思っていますから、日本で2660地区の女の人が1番で、去年が82人、今年は119人に増加したということを非常に喜ぶと思います。立派なものだと思います。

注目に値するロシアのロータリークラブ

実は、初めての日本の女性の会長とナホトカで会いました。皆さんご存じの中西さんです。そこでナホトカの新しいロシアのクラブをチャーターしたところで、チャーターナイトに参加しておられました。われわれのパストガバナーと130人の根室クラブの日本人が来て、オリガ・ワシントンの会長、スポンサークラブの会長がたく

さん来ておられました。その中に女性の会長もいまして、日本で初めての会長としてみんな写真を撮ったりして大歓迎でした。

しかし、私はロータリーの中で偉い者じゃないし、パスト会長じゃないし、パスト理事じゃないし、昔そんな偉い方がこの地区に代理できておりますけれども、どうしてブラウンさんが私を選んだのかと考えましたら、いままでやっている仕事じゃないかと思えます。というのは、去年、5010地区のガバナーでありまして、4つの新しいクラブがロシアでできました。今年、6つの新しいクラブができました。おそらく来年は10のクラブができると思えます。それは、われわれの地区にあるシベリア、アラスカの10倍の広いところに新しいロータリークラブをどんどんつくっております。アラスカは日本の4倍、シベリアはアラスカの10倍ございます。訪問でも2日、ジェット機で行かないといけないところがありました。

ロシアのロータリーの拡大は 2660地区の協力を

そのクラブがどんどん増えるということは、アメリカとカナダのロータリアンたちが一生懸命、頑張っているという意味であります。しかし、日本からもサポートがあります。たとえば、昔から新潟クラブがハバロスクに対してロシアに入る前でもロータリーのことをハバロスクの連中を一生懸命、訓練していました。おそらく新潟の方は最初のロータリアンじゃないかと思えます。われわれがシベリア・アラスカ地区に入ったのは3年前ですから、その5年、6年前からになります。

いま、おっしゃったとおり、130名チャーターで出雲クラブのメンバーがナホトカからもスポンサーとして新しいクラブをつくりました。その前はカムチャッカのクラブをチャーターしまして、根室と根室東クラブの二つがカムチャッカのクラブのスポンサーでした。

一人の日本人は10日間かかってわざわざカムチャッカに来て、5日間、通訳を探して、ユジノサハリンスクに、そのあと2日間、天気が悪くて飛行機が飛ばなくて、そのあと5日間かかってやっとカムチャッカに来てチャーターナイトに参加しました。その例を見て、日本人も非常に熱心だと思えます。そのうえ、奨学を5つも日本からロシアに対していただきました。2660地区からも奨学

をいただきまして非常に有り難いと思っています。

しかし、ロシアに対して非常に誤解があると思います。ロータリアンたちは上流階級の間人ですから、そんな人はマフィアじゃないかと。アメリカのロータリアンも思っています。シベリアを回っていますけれども、われわれの12クラブの中に本当にロータリーの考え方、4つのテスト、いろんなロータリーの基本ステータスを守っています。言うだけでなく、1つのロータリークラブを紹介したいと思っています。

ロシア・マガダンクラブ

〔上映されたビデオ＝ロシア・マガダンクラブ制作＝のコメントを収録したものです〕

「皆さまに、われわれの地区の一部、ロシアのクラブをご紹介します。これはマガダンという町で、1939年に悪名高い収容所で始まった町で、現在、産業としては金、地下資源、漁業があります。クラブメンバーの紹介をいたしましょう。

大学の英語の先生です。マガダン市副市長で、彼女は極東特別代表です。生物学者でクラブの幹事です。

地質学者でリサーチをしています。彼ら2人の子どもは青少年交換学生になり、ロータリーのメンバーとなりました。

たいへん優秀な小学校の英語の先生です。彼女は、またローターアクトを大学で始めた人です。技術学校でコンピューターを教えてクラブの会計をしています。

市のソーシャルワーカーとして働いています。

タデノフシは彫刻家で、この地域で強制労働のため亡くなった多くの人々のために巨大な記念碑を作成中です。

彼はマガダンの会長で調停委員です。

ミナさんはテレビの会社を経営していて、ロータリーのプログラムを月一度テレビで流しています。

クラブ・プロジェクトとしては、コンピューターを国際奉仕活動でロータリー財団とアラスカのロータリークラブで高校に寄付しました。

クラブメンバーは政府より援助されない身体障害者のために、ロータリー財団より家を寄付したり、休日と一緒に過ごしたり、子どもたちのためにパーティーをします。

身体障害者のためのリサーチをし、それに必要な器具を寄付しています。

マガダンクラブは貧しい身体障害者のために衣類や毛布を寄付したり、食事やパーティーを主催しています。

年金生活者である退役軍人を助けたり、インフレーションが高いため恩給や貯金の価値が少なくなった人を助けています。

貧しいお年寄りや子どもたちのために、クリスマスパーティーをしています。

マガダンにはローターアクトがあり、25名の大学のメンバーからなっています。

パップ夫人はロシアで初めてポール・ハリスフェローになりました。

マガダンロータリークラブのメンバーは、この歌を自分たちで作詩・作曲しました。

(マガダンロータリークラブの歌・演奏)

このマガダンロータリーの歌は「われわれのロータリー」という音楽です。

いまご紹介したマガダンロータリークラブだけでなく、こんなロータリースピリッツをもっているクラブがたくさんあります。

最近共産党が強くなってきていますので、いろいろ心配があります。この6月に選挙がありまして、ロータリーたちに「共産党が勝ったらどうしますか」と聞きますと、われわれはこのロータリーで死ぬまで頑張りますということでした。すばらしいと思って、私は涙が出ました。いま、思い出しただけでも涙が出ます。

いままで日本のクラブにいろいろ手伝ってもらって、シベリアのクラブが感謝しております。これからもっとロシアに対してはたいへんな仕事があると思います。アメリカとカナダのクラブは非常に熱心にやっています。

これから日本、アメリカ・カナダと一緒に頑張ろうという気持ちがあります。ロシアにロータリーのインパクトをつくるためにはおそらく1000クラブが必要じゃないかと思っています。いまの12クラブから、その1000クラブをつくるためには15～20年ぐらいかかると思いますが、世界の協力がないとだめだと思います。

しかし、その力は主にアメリカ、日本にあると思います。ロータリアンたちが一生懸命協力して頑張りましたら、ロシアも戦争とか共産主義には戻らないと思います。このことが大事です。これからお願いするのではなく、一緒に頑張りましょうという気持ちであります。ありがとうございました。

委員会報告



登録委員会報告

登録委員長 高士 修

登録委員会より、本大会登録状況を報告させていただきます。

ご来賓32名、ご家族20名、地区外会員および第2660地区会員、当日登録を含めまして3,266名、そのご家族85名、その他青少年交換、財団学友、米山奨学生、ライラ、研究グループ交換、インターアクト、ローターアクトを含めまして50名、登録者総数は3,453名でございます。

このように多数の方々にご参加頂きまして、誠にありがとうございました。

心からお礼を申し上げてご報告に代えさせていただきます。



信任状委員会報告

信任状委員長 菅生 浩三

信任状委員会からご報告申し上げます。

当委員会は、大阪阪南クラブの松本 恵さん、枚方クラブの宮田 久嘉さん、大阪堂島クラブの増山 博さん、大阪城北クラブの西 正中さん、豊中クラブの末村 斉さんと、委員長の私によって構成されております。

昨日午後ロイヤルホテルにおいて委員会を開催し、地区内80クラブから提出された219名の信任状の証明書を審査いたしました。その結果、選挙人の全員が国際ロータリー細則第15条第5節の想定に照らし、いずれも適格であることを確認いたしました。なお、このことは、昨日開催されました選挙人会議で報告いたしました。

また、選挙人名簿は、大森慈祥選挙委員長にお渡ししております。

以上ご報告申し上げます。



選挙委員会報告

選挙委員長 大森 慈祥

選挙委員会からご報告いたします。

昨日午後3時40分から、ロイヤルホテルで、信任状委員会により適格であると証明されたクラブ選挙人が出席して「選挙人会議」が開催され、「地区ガバナー指名委員会規約」の改正案が審議されたことを、ご報告申し上げます。

参加姉妹クラブ代表挨拶



バコドロータークラブ(フィリピン)

団 長 プリモ・エスリエール

R. I. 第2660地区地区大会にご招待いただき、ありがとうございます。そして当地区の守口ロータリークラブがバコドロで15年もの間、途切れることなく毎年続けてこられた医療奉仕に対してもこの席をお借りして厚く御礼申し上げます。また、この度ははからずも水野文雄さまと再会できましたことをたいへん嬉しく思います。彼は、フィリピンが共産ゲリラの暗躍で混乱していた時期にオイスカの一員として農業の技術指導にこられ、災難に遭われました。彼の解放のため、活躍した人たちのなかに二人のロータリアンがおりました。ともにバコドロロータリークラブのメンバーで、その一人ビスラット・アントニオは現在、名誉会員となっておりますし、一方のバトリシオ・タンは地区ガバナーを努めました。

この事件は、偶然にもふたつの国の真の友情を試す絶好の機会を与えてくれました。そして、われわれは見事にそれを実証しました。

守口クラブとバコドロクラブは、15年にも及ぶ幾多の試練を乗り越えて、いままさに真の友情で結ばれ、その関係はますます強固なものとなりつつあります。そして、この関係が今後も末永く発展していくことを信じて疑いません。何故なら、二つのクラブの関係はロータリーのモットーである「Service above self」に基づいて培われているからです。

大会決議案上程

パストガバナー 中野 董夫

決議第1号

国際ロータリー会長代理
スティーブ・K・ヨシダ氏に対する感謝の件

国際ロータリー元役員スティーブ・K・ヨシダ氏は、国際ロータリー会長ハーバート・グラハム・ブラウン氏の代理として、公私にご多用の中、令夫人とともに遠路遙々本大会へご臨席賜り、国際ロータリーのテーマ「真心の行動・慈愛の奉仕・平和に挺身」を推進するために、極めて格調の高いメッセージと豊富なロータリー情報により、参加者全員に深い感銘を与えてくださいました。

よって本大会は、国際ロータリー会長代理スティーブ・K・ヨシダ氏に対し、深甚な謝意を表することを決議します。

決議第2号

国際ロータリー第2660地区直前ガバナー
中野董夫氏に対する感謝の件

直前ガバナー中野董夫氏は、真摯な学究の徒として地区内外の信望を得られ、1994～95年度の国際ロータリーのテーマ「BE A FRIEND」を身をもって垂範されました。とくに1月17日の阪神大震災直後にアドホック援助プロジェクトをつくり、地区全員を指導して素晴らしい奉仕活動を行われました。卓越したご見識と優れた指導力によるこれら幾多のご業績は、地区ロータリアン一同の深く感銘するところであります。

よって、本大会は直前ガバナー中野董夫氏に対し、そのご功績を称えるとともに、深甚の念を捧げることを決議します。

決議第3号

研究グループ交換実施の件

本大会は、国際ロータリー第9980地区(ニュージーランド)と当地区との間に合意されている1996～97年度の研究グループ交換プログラムに賛同し、地区内全クラブ

がその実施に積極的に協力して、国際理解増進の成果を挙げることを決議します。

決議第4号

1994～95年度収支決算表(監査報告付き)を承認する件

本大会は、国際ロータリー第2660地区1994～95年度収支決算表(監査報告付き)を承認することを決議します。

決議第5号

1995～96年度カルガリー国際大会の推進に協力する件

1996年6月23日から26日まで4日間、カナダのカルガリーにて開催される国際大会に、国際ロータリー会長ハーバート・グラハム・ブラウン氏は多数のロータリアンとその家族が参加することを要請されています。

よって本大会は、これを受けて多数の会員および家族の参加推進を決議します。

決議第6号

1996年アジア地域大会の推進に協力する件

1996年10月25日から27日までの3日間、タイのバンコクにおいて開催される地域大会に、国際ロータリー会長エレクトのルイスV. ジアイ氏は、多数のロータリアンとその家族が参加することを要請されております。

よって本大会は、これを受けて多数の会員および家族の参加推進を決議します。

決議第7号

地区大会のホストクラブ、コ・ホストクラブおよび協力諸団体に対する感謝の件

今回開催されました1995～96年度国際ロータリー第2660地区の地区大会が、地区内外のロータリアン多数の輝かしい成果のうちを終了できます事は、ひとえにホストクラブである守口ロータリークラブ、コ・ホストクラブである門真ロータリークラブの会員、ご家族および関係の皆様のご長期間にわたる周到なご準備と献身的なご奉

仕ならびに関係諸団体の絶大なご協力の賜であります。

よって本大会はホストクラブである守口ロータリークラブ、コ・ホストクラブである門真ロータリークラブの会員、ご家族および関係の皆様ならびに関係協力団体の各位に対し、深甚の謝意を表することを決議します。

決議第8号

次年度地区大会開催に関する件

本大会は、国際ロータリー第2660地区1996～97年度の地区大会を大阪城南ロータリークラブをホストクラブおよび大阪東南ロータリークラブをコ・ホストクラブとして、1997年4月18日および19日の両日、大阪市において開催することを決議します。

大会決議案採択

ガバナー 熊澤 忠躬

ただいま中野董夫委員長から大会決議案が上程されました。

ただいまの大会決議案について採決をお願いしたいと思います。ご承認いただきましたならば拍手をお願いいたします。

(拍手)

それでは、大会決議案を採択することにいたします。ありがとうございました。

R.I.会長代理講評

R.I.会長代理 スティーブ・K・ヨシダ

このような立派な地区大会に来ることができて非常に感謝しております。

会長代理としての仕事はいろいろあるわけですが、会長に対して、どんな地区大会であったかレポートするのも仕事であるわけです。

この地区大会につきましては簡単なレポートができると思います。褒めるだけです。悪いところは全然ないものですから、素晴らしいと思っています。

昨日のシンポジウムでは、初めてアジアの各国の人たちが集まって、リハーサルも少しだけだったとお聞きしましたが、それでも2時間の立派なシンポジウムができたということは素晴らしいことだと思います。

ホストクラブである守口ロータリークラブからの参加が100%といわれておりますけれど、非常に熱心な方々によって運営され、感謝しておりますし、81クラブの温かいエネルギーが見えて、非常に素晴らしいことだと思っております。

ゆうべお招きいただいたレセプションでも、500人が参加という私たちが生まれて初めての経験をさせていただきました。わたしたちの一生の思い出になります。さらに大阪に15年ぶりに来ることができ、友達に会えたこと、新しい友達をたくさんつくったことをたいへん嬉しく思っています。ありがとうございました。

私の妻が一言申し上げたいそうです。妻は正式な日本語でしゃべります。

のぶこ
脩子夫人ご挨拶

ご来席の皆様、ロータリーの皆様、本日はこのようなたいへん素晴らしい地区大会に出席できましたことをたいへん喜んでおります。私、30年前に日本を去りましてアラスカの方に嫁ぎましたが、そのときにはフェスティバルホールにもたびたびまいりまして、皆様がお座りになっているところから、いろんなミュージックとかパレーを見たものでございます。

けれども、まさか自分がこの席から皆様にご挨拶できるとは夢にも思っていませんでした。

私どもは、世界のどこに旅行しましても、ロータリアンというだけで、昨日まで知らない方々がとても親切にしてくださいまし、信用してくださいまして、自分の家を開けてくださいます。こうして皆様にお会いできたのも何かのご縁としますので、今後ともどうぞよろしくお願いたします。

1996～1997年度ガバナーノミニー挨拶



1996～1997年度ガバナーノミニー
中川章三

私は大阪城南ロータリークラブに所属しております。

こうして皆さんの前で挨拶申し上げますときに思い出されますのは、昨年5月12日、13日の中野パストガバナーの地区大会の日でございました。いまは亡くなりました大山ガバナーノミニーが当時の中野ガバナーノミニーのご紹介のときに、先刻私が来賓の席から手を振って挨拶したように、大山ガバナーノミニーも挨拶されました。それから、この席上でまた挨拶されたのを、私たち大阪城南ロータリークラブ会員一同、手をたたきながら熱い尊敬のまなざしをもって見上げたものでございました。

それから2週間たった5月30日、あっという間に急逝されまして、私たち大阪城南クラブ会員一同「寝耳に水」で非常に驚きました。大山ノミニーの亡きあとで、私たち大阪城南ロータリークラブはどうなるんだ、どうするんだという喧々諤々のやりとりがありまして、幸か不幸か、私にとりましては不幸かも知れませんが、次期ノミニーに指名されまして、昨年7月よりノミニー修行を始めることになりました。幸いにして、現熊澤ガバナーをはじめ、各担当パストガバナーの方々、並びに各地区委員長の皆さん方の温かいお励ましとご指導によりまして今日まで無事に過ぎてまいりました。

この2月18日から一週間、米国アナハイムにおきまして国際協議会にも無事出席できまして、4月6日に次期委員長会議および次期会長研修セミナーも済ませることができました。これもひとえに皆さんのご指導、ご鞭撻のお蔭と厚く感謝する次第でございます。この地区大会もあとは地区協議会を残すのみとなっておりますので今後、皆さんの一層のご協力のほどをよろしくお願い申し

上げます。

次年度地区委員長会議ならびに次期会長セミナーで申し上げましたが、次年度R.I.のテーマは「築け未来を行動力と先見の眼で」でございます。また、R.I.会長エレクトはルイス・ギセンチ・ジアイさんでございます。

ジアイ会長のエレクトのメッセージにはたくさんありますが、やはりR.I.のテーマにのっとりまして、輝かしい未来を築いていくためには次代の指導者たるべき青少年をいかにして導いていったらいいのか。また、新世代を育成するためにどうしたらいいのか、を考えようということです。

それから来年の1997年1月27日は、われわれの先達、ポール・ハリスの没後50年目にあたります。

ご承知の通り、ポール・ハリスは1905年に初めてロータリーをつくった人ですが、「奉仕と親睦」というビジョンを通して、いまやほとんど全世界に広がり、クラブ数は2万7000余りとなり、118万人余りのメンバーが奉仕活動を行っております。ロータリーができました91年にもなり、ポール・ハリス自身も「私たちは変化しつつある世界に住んでいるのですから、ロータリーもそれとともに変化しなければなりません」と言っておられますが、何十年たちましても、ロータリーの原点には変わりはないと思います。

われわれは、これまでのロータリーの歴史を振り返り、そのうえで21世紀に向け、皆さんとともに奉仕活動を活発に展開していくわけでございますが、行動を伴わない奉仕はございませんので、先見の眼でもって奉仕活動をいたしましょう。会長エレクトもおっしゃっているように、先見の眼のない奉仕活動であれば骨折りに終わります。

私自身にとりましては、次年度におきまして本年度にまさる奉仕活動を続けていきたいと思っておりますが、熊澤ガバナーと同じように会員増強を皆様方へお願いいたします。

そして新しく入会された方々にはロータリーとは何か、奉仕とは何か、などから新しい情報までを皆さん方に提供したい。そして今後の奉仕活動に役立てていただくと思っております。

最後に、熊澤ガバナーをはじめ各パストガバナーのみならず会員の皆さん方のご指導、ご鞭撻をお願い申し上げます。次年度一年、無事に務めさせていただきたいと思っております。なにとぞよろしくお願い申し上げます。

「21世紀へ向けての国づくり」

高知県知事 橋本 大二郎

率先して官官接待の廃止を宣言し、県内の安寧を期し行革行政の踏み台として果敢に実行。素肌の旗手と誰もがその潜在の手腕に惹かれているところである。

放送界出身の異色の知事として高知県より改革の発信基地たらんと、努力しておられる。特に高速道路の発達と情報社会の変化は都市も地方も共に栄える方法があるとの構想を熱弁された。



講師プロフィール

昭和22年生まれ。49歳。

昭和45年3月、慶応義塾大学製材学部卒業。同47年3月、慶応義塾大学法学部を卒業の後、同年4月に日本放送協会入局、福岡放送局報道部、大阪放送局報道部のそれぞれ記者、56年8月から報道局社会部記者として活躍。56年7月にはデスク、平成元年に副部長を経て、平成36年6月報道局科学文化部次長に就任の後、8月に退局、平成3年12月高知県知事に当選、同7年12月に再選。

代表的な役職として、国土計画基本問題懇談会委員、健康文化都市推進会議議長、中核工業団地開発推進協議会議長、全国高速自動車国道建設期成会副会長を努める。

主な著書に「破天荒、大二郎がゆく」(講談社)「対談 知事として」共著(毎日新聞社)「政治無用論」(講談社)等がある。

大都市と田舎との思いのズレ

高知県知事の橋本でございます。きょうは国際ロータリーの地区大会にお招きをいただきまして、まことにありがとうございました。早いもので、知事に就任をしてもう5年目を迎えることとなりますが、東奔西走という少し大袈裟ですけども、毎日あちこち飛び回るといった日々を送っております。

ですから、このような講演のお誘いを受けても、なるべくご遠慮をするようにしておりました。が、きょうは高知県の県立病院の経営改善の面で大変お力添いをいただきました熊澤先生——きょうは熊澤ガバナーと言ったほうがとおりがよいと思いますが——のお誘いだったので、喜んでお引き受けをしてこちらに飛んでまいりました。

地域連携軸は経済発展を促進する

～5全総で体力強化～

大都市の方々に聞いていただきたい思いということで一例申し上げますと、私などが東京や大阪へ行きますと、必ずといっていいほど「ようこそ遠いところからいらっしやいました」と挨拶をされたり、また「はるばる高知からお見えになった知事の橋本さんです」というご紹介を受けたりします。きょうも早速、言われました。が、私はそういう声をかけられたときには、なるべく「高知はそんなに遠いところじゃありませんよ」という反論をすることにしています。

いま週4便、高知-札幌の直行便が飛んでいます。そして残る週3日は札幌と鳥取の米子を結ぶ直行便が同時に開通いたしました。

なぜ高知のパートナーに鳥取の米子が選ばれたかとい

うのには、一つ大きな意味がございます。それは何かと言いますと、いま国では21世紀の国づくりの基本になります第5次の全国総合開発計画を検討中ですが、この5全総の検討の中で、目玉商品の一つとして出ている地域連携軸という構想に関係があるからでございます。

人間の体にたとえれば背骨一本で体を支えるという構造でございました。これに対して太平洋と日本海を結ぶ軸をいっぱい作る。人の体にたとえれば、肋骨のようなものをいっぱい作ることによって体力を、日本の国土をもっと強くしようという発想が、この地域連携軸でございます。

いま、全国で十数ルートが検討をされていますけれども、その中でも最も実現性が高いのは高知から香川、岡山を抜けて鳥取、米子に抜けるラインでございます。といいますのは、いま岡山県内で南北に抜ける最後の高速道路の建設が進んでいます。これが今年じゅうに完成いたしますと、高知から香川、岡山を抜けて鳥取の米子までが車で3時間余りで結ばれるということになります。そうなりますと、たとえ話をすれば、朝、鳥取で温泉につかりながら松葉ガニで朝飯を食い、昼は瀬戸内でタイで昼飯を食い、夜は高知に来てカツオのたたきで一杯やるということも可能になります。

高知では高知新港という新しい港をつくっています。そして鳥取の側は環日本海をターゲットにした貿易圏を、また高知の側は環太平洋をターゲットにした貿易圏を目指して仕事をしていくということになれば、この2つが3時間余りの連携軸で結ばれば、また大きな経済的な動きが出てくるのではないかとというのが地方から見た期待でございます。

そこでこの大都会と地方との思いのずれというたとして、2つほどの例をあげてお話をしております。その1つは高速道路の料金の値上げをめぐる議論でございました。もう1つはGATT、ウルグアイラウンドの農業合意、その後の政府の出しました農業・農村対策をめぐる議論でございます。

都会と田舎の意識革命

今、高速道路の料金の値上げの話が出ておりますが、都市部の方々からいろんな批判や不満が出ました。それはどういう不満かと言え、もうこれ以上、人もあんまりいなくなって採算性もとれないような地域で高速道路

を新しくつくっていくぐらいならば、高速道路とは名ばかりでノロノロ運転ばかりの都市部の渋滞を解消することが先ではないかというご不満であったらうと思えます。このことはこのことで一理あるご不満でありますけれども、地方の側から見るとまた別の思いがあります。

大都市部の方々は何度かの値上げに耐えながら料金を納め続けておられるわけですが、その反面、高速道路ができたことによって、近くに産業が立地をし、雇用の場も開けた、また様々なものが手に入るようになったというような形で、高速道路による利益も受けておられることとなります。

つまり、これを保険にたとえてみれば掛け捨ての保険ではなくて、一定保険料に見合った配当を受けておられるということが言えるんじゃないかと思えます。これに対して地方の側は、いまは需要もない、効率性も悪いからしばらく待ってなさいよと言って、そのうち20年、30年がたつてしまいました。そして、いまになって、もうお金にも限りがあるから、まだ計画が50%しかいってないけれども、残りの計画は御破算にしましょうねと言われたのでは、なかなか納得できないというのが地方の思いでございます。

もう一つ、GATT、ウルグアイラウンド後の農業合意をめぐる政府の農業・農村対策は6兆100億円という議論を振り返ってみますと、それに対する大新聞やテレビの論調、つまりそれは大都市部の論調ということになります。すべてが批判的でございます。

また、農業に携わる方々も、従来の補助金浸けの農業に慣れるのではなくて、経営者としての経営責任を自覚をしていかなければいけない時代でございます。

もちろん、農林業も産業の一つですから経済性、効率性という尺度で測れるような、そういう強い農林業を育てていかなければいけないという命題は片方にあります。しかし、中山間など非常に地理的に不利な条件で頑張っておられる農林業を見えますと、とてもそういう物差しだけでは、いま測りきれないという時代になっています。

では、その物差しから漏れる農林業はすべて意味がないのか、価値がないのかといいますと、地方から見る限りそうではありません。

治療型社会から予防型社会へ

そんなことを考えているうちと言ってももう一昨年のことになるのですが、ヨーロッパに出張する機会があって、そのときスイスの連邦議会の議員、つまり日本でいえば国会議員の方とお話をするチャンスがありました。

スイスは山国です。平地の少ない国です。そして、平地の部分はベルンとかチューリッヒ、ジュネーブという都市としても開発し尽くされて、人口的にも飽和状態にある。そこに、また農村から農業や酪農をやめて人が降りてきたら、ますます都市の環境が悪化してしまう。そして、その悪化した環境をさらに元通りに改善しようとしたら莫大な新しい社会投資が、治療代が必要になる。だとすれば、その治療代の一部を予防注射代として農村の人が農村を離れないように直接補償という形で税金を使うことに、都市部の方からも何の批判も不平も出ないんだというご説明でございました。

さっき途中までお話をしましたように、もうお金がなくなったから、いままでの計画は御破算にして、残る50%の地方の高速道路の建設はやめましょうということになったとしますと、そうした地方では今後の生産基盤の整備だけではなくて、生活基盤の整備の見通しもなかなか現実的には立てにくくなりますので、そういう地域から再び人が流出し始めて大都市にまた人が集中することになりかねません。

そうすると、いまでも大都市部では住宅の問題、また通勤ラッシュの問題、さらに交通渋滞、それに基づく排気ガスの公害、そしてもっと問題なのはゴミ処理の問題というように都市環境の悪化という課題を抱えておられます。ここに、さらに多くの人たちが流入してくることになれば、いま申し上げたような土地環境が悪化して、その改善のためにまた莫大な社会資本(治療代)が必要になるということになります。

だとすれば、こうした莫大な治療代の一部を予防注射代として中山間の森林や田畑の維持管理にあてていくということは、決して社会全体の長期的なスパンで見たお金の使い方としては不合理なことではないんじゃないかというのが、先ほど申し上げました「治療型社会から予防型社会への転換」という理屈でございました。

新田舎主義で都市と役割分担

ということで、これまで大都会と地方の間にある思い

のずれということについてお話をいたしました。大都会と地方の間には思いのずれだけではなくて、様々な生活レベル、また便利さ、不便さの格差というずれもございいます。この点についていま高知県内で、これからはひとつ新しい田舎をつくっていったらどうだろうか。「新田舎主義」ということを旗に掲げて県づくりに取り組んでいったらどうだろうかということと呼びかけています。

その思いは何かと言いますと、これまでの地方というのは都会に依存をし、都会の背中を追い続けるという存在でございました。が、これからはそうした都会の富に依存をし、都会の背中を追い続けるだけではなくて、地方のよさ、田舎のよさを生かして、都会と役割分担、住みわけのできるような田舎をつくっていかねばいけません。そういう地方を目指そうよ、という思いを込めております。

そのような新田舎をつくっていくためには、私は2つの条件整備が必要ではないかと思っております。その1つは、地方でも田舎でも大都市に比べて、それほど不利益ではない、不便ではないというような条件をつくっていくということ。そして、もう1つは、田舎には大都会にはないよさがある。そのよさに気づき、それを磨くことによって大都市、大都会と役割分担、住みわけのできる地方をつくっていくということでございます。

きょう、この場ではその第1の条件、つまり地方でも田舎でも大都市に比べそれほど不便ではない、不利益ではない条件づくりについてお話をしてみたいと思いますが、実際には様々な不利益、不便さがあるために、大都会への憧れがやまない。また、地域へ、故郷へのあきらめがやまずに、多くの若い人たちが大都市部へ大都会へ出ていくという現象が続いています。そこで、地方にあってはそうした不利益、不便さを少しでも格差是正をしていくということが必要になりますが、できることからそういう取り組みを進めてみたいと思っております。

公設民営大学の設立

まず、私が知事になってから一つ取り組みましたことは、高知県には工業系の大学がありませんので公の信頼性と私の機動性を生かした公設民営の工科大学をつくりました。来年4月より開校します。また全国に先駆けたいろんな試みのできる大学ができたと思っております。

れども、実際には新しくできる大学ですので、初年度である来年度の受験生の募集には苦勞するんじゃないかと思っています。ですから「高知工科大学」という名前を、きょうの機会にぜひ頭の片隅に入れていただいて、そういうやる気のある、有名大学ではなくても新しい時代を切り拓いていくというパイオニア精神をもった子供たちがいたら、ぜひ高知工科大学という名前を紹介していただきたいと思います。

ルール違反の宣伝までさせていただきましたけれども、次に格差是正ということでぜひ考えていかななくてはいけないことは、公共交通の足の不便さということでございます。わが高知県の高知市、人口が32万人でございますが、その32万人の地方の中小都市であっても、朝のラッシュ時は大変な混み合いになります。県庁のある中心部まで6～7kmの距離に40～50分もかかってしまうということもしばしばでございます。

環境の定期券

いまヨーロッパの国々では、むしろ路面電車が見直されてきているということを聞きました。フランスではパリの郊外で新しい路面電車が新設されましたし、またドイツでは各都市で路面電車の拡充が行われているということでございます。

きょうは、ドイツのフランス国境にも近いフライブルクという都市の話をととしてご紹介してみたいと思います。

人口19万程度の大学都市でございます。そこには路面電車がありますが、今回「レギオ環境定期券」という物を始めました。これを利用しますと公共の乗物は全部に利用でき、たとえばフライブルクの市内から40km離れた町から通勤をしていた人が、それまでは1ヵ月の定期の料金が200マルク(1万5000～6000円)だったものが、先ほど言いましたように55マルク(4000円ほど)になった。4分の1になったというような実例がいっぱい出てきたということでございます。

といっても、もちろんいい話ばかりではなくて、そういうシステムを取れば赤字が出ますので、その赤字を行政が支援をする、補填をしなければいけません。が、そこで注目すべきことは、そういうシステムを取る前も当然、赤字の補填を行政がしておりました。そのシステム以前の赤字の補填額と新しいレギオの定期券ができたあ



と、その後の赤字の補填額がほとんど変わらないということでございます。

まだ高知県として具体的に取組もうということではないのですが、大都市ではそういうことをすぐにはモデル実験できないのではないか。むしろ地方の中小の都市だからこそ取組めるのではないかと思って、ぜひそんなことも検討を進めてみたいと思っています。

格差の是正は情報機器(キヤド)で

もう一つ格差の是正ということで、これからの時代、忘れてはいけないのは、情報化への対応ではないかと思っています。情報化のもたらす最大のメリットは何かといえば、距離の壁をなくしてしまう。地理的に不利な、距離の条件というものをゼロにしてしまうところにあります。

情報産業の商品はビデオの映像にしろ、またキヤドなどでつくった設計図や、データ処理のソフトや、コンピューターのソフトなど、トラックなどに乗せて運ばなくても電話の回線なり、光ファイバーなり、また通信衛星の回線なりに乗せれば、たちどころに相手の注文先に届くということになります。もちろん料金の格差の問題はございますけれども、距離的には全くどんなに離れたところでも問題がないという時代になってきました。

実際に高知の山の中で造船の設計の仕事をしておられる方がいらっしゃいます。これも、昔のように紙に設計図を書いて届けるという時代であれば、やはり高知市にいたほうが便利がよかった。ところが、いまはさっきも触れましたように、コンピューターのキヤドを使って設計図をつくっていけば、その製品は電話回線などを使ってどこにでもすぐ送れるということになります。ですか

ら、ライフスタイルとして自然の中で釣りでもしながら暮らすほうがいいというその会社の社長さんは、山の中に住んでそういう造船設計の仕事を始められました。

このように、情報化というのは産業の面でもいろんな大きな変化をもたらすと思いますが、生活の面でも様々な格差の是正に役立つ。医療とか教育、先ほど言いました交通の問題、またショッピング、文化、教養、様々な面の地方の格差の是正に役立つのではないかと思っています。

従来のように、需要のあるところから、効率性の高いところからという発想で情報通信の基盤整備が進んでいくとすれば、先ほど触れました高速道路と同じように、通信情報の基盤整備も大都市から始まり、だんだん地方に行って高知に来るころにはもうお金がなくなったからそろそろやめようかという話になりかねません。そうすると、先ほど言った理屈でもおわかりのように、本当に地方というのは人の住みにくい場所になって、大都市にばかり人が集中して莫大な“治療代”が必要だという社会をつくってしまうこととなります。

都市と地方の格差の是正は 通信の基盤整備から

そうならないためには、効率性、需要のあるところという、これまでの高度経済成長の基準、物差しを一たん捨てて、これからはどの地方でもその地方が独自の知恵で競い合っていける、自立できる、その基盤だけはまずきちっとつくっていきましょうという公正の原則に立って、いま申し上げたような通信情報の基盤整備等をしていくことが必要ではないか。そういうことに、ぜひ大都市の方々にご理解いただきたいということを申し上げたいと思いました。

ということで、きょうは「大都市と地方の思いのずれ」また「様々な生活の格差のずれ」ということをテーマにお話をさせていただきました。その中で触れました中山間地域というか、地方の森林、田畑をどのように維持していくかということは、これから21世紀以降、私たちの子孫の時代の国づくり、国土のあり方という面から見るとたいへん大きな課題ではないかと思っています。

このことは、国や地方自治体ももちろん考えていかなければいけません。民間の皆さま方にも、たとえば地域々々でリーダー役を務めておられますロータリアンの

皆さま方にも、ぜひ何かそういう視点で都市部から地方に向けて発信ができないだろうかということをお考えをいただきたい。そんなことを、いまちようど緑化月間ですので付け加えさせていただいて、私からの話をしめくくらせていただきます。本日はご静聴ありがとうございました。(拍手)

次年度ホストクラブ会長挨拶



1996～97年度地区大会
ホストクラブ会長 石浜雪大(大阪城南ロータリークラブ)

次年度地区大会ホストクラブのご指名をいただきまして、たいへん光栄に存ずる次第でございます。同時に責任の重大さを痛感いたしております。中川章三次年度ガバナーのご指示に従いまして、大阪城南ロータリークラブのメンバー全員、一致団結いたしましてこの大任を果たしたいと考えております。

ただいまのところ、次年度地区大会は来年の4月18、19日の2日間、上六大阪都ホテルおよびフェスティバルホールで開催予定をいたしております。多くのロータリアン、並びにご家族の皆様にご参集いただきまして、一年一度の楽しい意義ある大会を開きたいと準備にとりかかりたいと思います。

今年度、このように立派な内容の充実した地区大会を挙行されました熊澤ガバナー、並びにホストを務められました守口ロータリークラブ、コ・ホストクラブの皆様方に対しまして、深甚なる敬意と感謝を申し上げますと同時に、来年度の大会にも種々ご指導賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

閉会挨拶



1995～96年度地区大会
ホストクラブ会長 井上幾之進

R. I. 会長代理、スティーブ・K・ヨシダさまご夫妻をお迎えいたしまして、昨日午後閉会されました第2660地区の地区大会もいよいよ閉会を迎えることになりました。ここでホストクラブの守口ロータリークラブ、コ・ホストクラブの門真ロータリークラブの会員一同を代表いたしまして一言お礼を述べさせていただきます。

スティーブ・K・ヨシダさまご夫妻には、ハードなスケジュールのところをご臨席賜りまして、まことにありがとうございました。また、地区内のガバナー、パストガバナー、ガバナーノミニーのご臨席を賜り、かくも盛大な地区大会を開催できましたことは、われわれにとりましてたいへんな喜びでございます。厚くお礼申し上げます。

殊に守口WCSの事業でたいへんお世話になりましたオイスカ現地農業指導員の水野文雄さま、また毎年お世話になっておりますバコロドロータリークラブのオクソン・パストガバナーをはじめとして、ロータリアンの皆様方にはビザの取りにくいところをご出席いただきまして、この大会に花を添えていただきました。まことにありがとうございました。

本大会を開催するにあたりましては、地区内外の約3500人の会員さまの登録をいただき、皆様の熱き友情に深く感謝いたしております。

また、われわれホストクラブ、コ・ホストクラブ会員全員が一年がかりで準備いたしてまいりましたが、何分にも不慣れでございまして、多々不備な点もあったかと思っておりますが、皆様方には、これもロータリーの寛容の精神でお許しをいただきたいと思っております。

最後に、本大会を開催するにあたりまして、お世話いただきました皆様方、また最後の最後までお付き合いいただきましたロータリアンの皆様方に心から御礼申し上げます。閉会の言葉にさせていただきます。

ありがとうございました。

エンターテインメントの記

大会第2日 フェスティバルホール

大会2日目、最終プログラムは、
やすらぎと寛ぎをもっていただけるようはからいました。

そこで“大阪の役割”の側面から
「エンターテインメントは大阪らしさを…」との考えで、
最終的にはジャズオーケストラ(ビッグバンド)のサウンドで
楽しんでいただくことにしました。

聴きなれた曲、口ずさんだ曲、親しみのある曲、
などをお楽しみいただき、懐かしい青春のひとときに思いを馳せていただければと。



リーダー格 白井克治氏もリラックス



日本一のサウンド!を演奏するサミットの方々

超豪華メンバーでビッグバンド編成

かつて私たちが聴いていたビッグバンドの殆どが解散していますが、皆さんのご助力により、往年のスタープレイヤーが参集、ここに夢のようなメンバー編成が実現できたのです。メンバー名は別に掲げておりますが、このメンバー構成は関西一の“夢のサミットバンド”と申せましょう。これにヴォーカル・ダンスを加えました。



楽しいお話を混えて…



ダンスで躍動感満喫



ビッグバンドとロータリアンとのセッション

日本一でっせ!

この度ビッグバンドの編成にあたり、元ニューソニックのリーダーでトランペットの名手白井克治氏のお世話で、かつてないゴージャスなサウンドをお聴かせすることができました。出演者の多くの方がご自分でバンドをもつて活躍中のリーダーですが、打合せや練習日には、ひとりも欠けることなく、たっぷり時間をかけていただきました。

当日の楽屋でのメンバーのひとりが自信にあふれて発言。「これだけのサウンドを出せるバンドは他にはありませんよ。日本一でっせ!」「こんなすばらしいメンバーとできてうれしかった」

タメ息のステージ

ベニーグットマン、カウントベーシー、グレンミラーなどスイングジャズの名曲にロータリーソングを編曲したり、日本の民謡をジャズ風にアレンジしたり、またロータリアン(大川氏と秋沢氏)との「シング・シング・シング」のセッションなど、ちょっと欲張りな構成の1時間。

昼間の疲れが解けてホットした気持ちとお祭り気分を味わいつつ、あつという間のひとときでしたが、フィナーレを飾るにふさわしいステージではなかったかと思えます。(M・S 記)

■曲 目

- ① 1 Moon Light Serenade
- ② 2 Begin The Beguine
- ③ 3 Twilight Time
- ④ 4 April in Paris
- ⑤ 5 スイングしなけりゃ意味が無い
- ⑥ 6 ソーラン節
- ⑦ 7 ー それでこそロータリー [Tp Solo 白井]
 └─ 手に手をつないで
- ⑧ 8 Sing! Sing! Sing! [CI 大川&秋沢]
- ⑨ 9 センチメンタルジャーニー [2Cho-Vo 滝エリ子]
- ⑩ 10 Night and Day [Vo 滝エリ子]
- ⑪ 11 Unforgettable [Vo 古谷充&滝エリ子]
- ⑫ 12 Star Dust
- ⑬ 13 Tuxedo Junction [Dance 女性 3P]
- ⑭ 14 君住む街角 [Dance 男性 3P(Tap)]
- ⑮ 15 Shiny Stocking
- ⑯ 16 Summer Timet
- ⑰ 17 Good Bye [Dance 有り]

1996.5.11(土)

OSAKA EASY JAZZ BAND

《いりっふ》

■メンバー

- アルトサクソ
- アルトサクソ
- テナーサクソ
- テナーサクソ
- バリサクソ
- トランペット
- トランペット
- トランペット
- トランペット
- トランペット
- トロンボーン
- トロンボーン
- トロンボーン
- トロンボーン
- ギター
- ピアノ
- バス
- ドラムス

フルケ 古谷	フルケ 長谷川	フルケ 津田	フルケ 古谷	フルケ 滝本	フルケ 奥田	フルケ 宮岡	フルケ 大内	フルケ 大垣	フルケ 白井	フルケ 折戸	フルケ 大迫	フルケ 中嶋	フルケ 寺井	フルケ 田中	フルケ 村松	フルケ 中嶋	
充	元伸	清	光広	孝男	章三	信夫	正好	公光	克治	洋	富夫	明	徹	豊	謙二	泰治	俊夫

- ヴォーカル

滝 エリ子

- ダンサー

辻村 功
小澤 周三
泉 五十四郎 他

名簿

来賓

R. I. 会長代理	スティーブ K. ヨシダ／脩子夫人
大阪府知事	横山ノック (山田 勇)
大阪市長	磯村 隆文
第2790地区ガバナー	石井亮太郎・石井富貴子(松戸 東)
第2580地区ガバナー	橋立 昭 (東京東大和)
第2610地区ガバナー	湯尻清一郎・湯尻千鶴子(加 賀)
第2640地区ガバナー	楠 公延・楠 康子(橋 本)
第2650地区ガバナー夫人	坂部 郁子 (京都洛中)
第2680地区ガバナー	松岡 通夫 (神 戸)
第2710地区ガバナー	山田 宏 (徳 山 東)
第2550地区パストガバナー	板橋 敏雄・板橋 律子(足利 東)
第2640地区パストガバナー	飯沼 剛 (堺)
第2640地区パストガバナー	東條 仁進 (泉 佐 野)
第2640地区パストガバナー	中島治一郎・中島 隆子(泉大津)
第2640地区パストガバナー	嶋 良宗 (和歌山東)
第2640地区パストガバナー	平岡 正己・平岡 隆子(高 石)
第2640地区パストガバナー	榎本 長平 (田 辺)
第2640地区パストガバナー	大丸 昌讓 (堺 南)
第2640地区パストガバナー	大澤 徳平・大澤 康子(堺)
第2640地区パストガバナー	才門 三郎・才門 和子(岸和田)
第2640地区ガバナーノミニ	中村 幸吉・中村 順子(富田林)
ロータリーの友事務所	別所 直實 (東京みなと)
第2660地区パストガバナー	伊瀬 芳吉 (池 田)
第2660地区パストガバナー	種田 憲次・種田 恵子(大阪住吉)
第2660地区パストガバナー	戸田 孝・戸田 操(八 尾)
第2660地区パストガバナー	中村 俊一 (東 大 阪)
第2660地区パストガバナー	坂東 宏・坂東 翠子(吹 田)
第2660地区パストガバナー	松本 良諄・松本史都代(大 阪 東)
第2660地区パストガバナー	古田 敬三・古田 昌子(大 阪)
第2660地区パストガバナー	武尾敬之助 (大阪西北)
第2660地区パストガバナー	廣瀬勲一郎・廣瀬ヨシ子(大阪西南)
第2660地区パストガバナー	菅生 浩三・菅生 和代(大 阪 北)
第2660地区パストガバナー	山中 文和・山中 延子(大 阪 南)
第2660地区パストガバナー	大森 慈祥・大森 保延(茨 木)
第2660地区パストガバナー	中野 董夫・中野ルツコ(大阪阪南)
第2660地区ガバナーノミニ	中川 章三・中川 桂子(大阪城南)
ガバナー夫人	熊澤巴津子

招待者

研究グループ交換

Group Study Exchange

(D-4430ブラジル)

団長 男性 酒井 清一

(さかい・せいいち SEITI SACAY)

(サンパウロ・リベルダーデRC)

団員 女性 アリッセ・シゲコ・ヒラノ

(ALICE SHIGEKO HIRANO)

(日伯援護協会社会福祉部・部長)

団員 男性 ルイス・フジオ・サトウ

(LUIZ FUJIO SATO)

(協和EXEO・部長)

団員 女性 ソランジェ・ド・カルモ・ペレイラ

(SOLANGE DO CARMO PEREIRA)

(高校教師・科学生物／観光ガイド)

団員 女性 ジョルジア・アンドラーデ・ジューアス

(GEOGIA ANDRADE DIAS)

(サンパウロ州血液センター研究室・製造責任者)

青少年交換学生

(枚方くずは)

Paul, Jessica

(大阪城南)

Lemieux Anne Marie

(大阪東南)

Gantz, Kara Michelle

(大阪うつぼ)

Hirsch David Leigh

(高槻西)

Frichlinger, Christoph Nikolaus

ロータリー財団学友

藤本 亮

米山奨学生

(東大阪中)

陳 婉 萍

(門 真)

バカンブラ・ジャン・ロジャー

(大阪そねぎき)

李 玉 軍

(大阪住吉)

ベリンガー・フランク

(吹田西)

李 虎

(高槻)

張 隆

ローターアクト

地区役員

(寝屋川)

萱野 孝惠

(大阪北)

米倉 寛美

(大阪西南)

若山宇一郎

(守口)

神原 健

クラブ代表

(東大阪東)

寺田 裕彦

(大阪)

湯木 尚二

(大阪西南)

松本 鉄也

(大阪天満橋)

山本 文雄

(吹田)

永田 英雄

(豊中-大阪国際空港)

道満 隆二

(守口)

石川 順子

(守口)

泉 富弓

(守口)

森本 陽子

インターアクト

浪速高等学校

<顧問>

本間 靖彦

<会員>

島田 康平 小林 一樹

大阪教育大学教育学部付属高等学校平野校舎

<顧問>

木村 茂樹

<会員>

磯野 尚子 金子 摩紀

明浄学院高等学校

<顧問>

山川 義昭

<会員>

杉山 由佳 山根 絢子

大谷中・高等学校

<顧問>

西田 哲也

<会員>

成山 智江 中島 淳子

R. Y. L. A.

<大阪府青少年活動財団>

吉水 泰彦

<大阪府立青少年海洋センター>

松林 寛

<大阪府立総合青少年野外活動センター>

谷川 俊一

ロータリー財団功労表彰〔1名〕

村上 実(池 田 R. C.)

意義ある業績賞(1994~95年度)〔1クラブ〕

大阪鶴見 R. C.

R. I. 会長賞(1994~1995年度)〔9クラブ〕

(社会への思いやりに対する会長賞)

箕 面 R. C. 大阪中央 R. C.

大阪堂島 R. C. 大阪東 R. C.

大阪本町 R. C. 大阪南 R. C.

大阪うつぼ R. C. 高槻西 R. C.

八 尾 R. C.

ロータリー財団地区奉仕賞〔8名〕

(寄付累計6000ドル以上のマルチプル・ボール・ハリス・フェロー)

西村 一夫(池 田) 古田 敬三(大 阪)

倉林育四郎(大 阪) 丸橋 博行(大 阪)

高橋 忠介(大 阪) 増山 博(大阪堂島)

中嶋 政郎(大阪柏原) 吉村 茂夫(大阪難波)

上記以外 故・伊藤 恭一氏(大 阪)

故・森藤 鉄治氏(大 阪 東)

新居 克治氏(豊中-大阪国際空港)退会

ロータリー財団寄付優秀クラブ I

(年間・人あたり平均寄付額上位3クラブ)

1位 寝屋川 R. C. 492ドル

2位 東大阪東 R. C. 404ドル

3位 大阪堂島 R. C. 353ドル

ロータリー財団寄付優秀クラブ II

〔5クラブ〕

(年間ベネファクター認定者数優秀クラブ)

大阪東淀 R. C.

東大阪西 R. C. 大阪平野 R. C.

大阪柏原 R. C. 八 尾 R. C.

米山奨学会寄付5000万円達成クラブ

(1994~95年度)

大阪西南 R. C.

米山奨学会寄付3000万円達成クラブ

(1994~95年度)

大阪天満橋 R. C. 守 口 R. C.

八 尾 R. C.

米山奨学会寄付2000万円達成クラブ

(1994~95年度)

東大阪中 R. C. 茨 木 R. C.

寝屋川 R. C.

米山奨学会寄付1000万円達成クラブ

(1994~95年度)

交 野 R. C. 大阪本町 R. C.

大阪天王寺 R. C. 大阪東南 R. C.

特別ガバナー賞(1995・7・1~1996・3・1)

1) 会員増強賞

a) 最優秀クラブ〔1クラブ〕

吹 田 R. C.

b) 優秀クラブ〔上位7クラブ〕

大阪イブニング R. C.

大阪御堂筋 R. C.

大 阪 北 R. C.

大阪大淀 R. C.

大 阪 R. C.

大阪城南 R. C.

大 阪 中 央 R. C.

2) 年長会員(90歳以上)22名

鎌中喜代松 90歳 東 大 阪

多屋 良三 90歳 東 大 阪

倉内 勇吉 90歳 枚 方

伊瀬 芳吉 90歳 池 田

山口 次郎 92歳 寝屋川

土井 正治 101歳 大 阪

江藤 順蔵 95歳 大 阪

芦原 義重 95歳 大 阪

湯木 貞一 94歳 大 阪

藤阪 修美 94歳 大 阪

東畑 謙三 93歳 大 阪

表 敬 状

あなたは卒寿を過ぎて尚
赫灼とされておられ地区ロ
ータリアンにとって輝か
しい目標であります。
これ偏にあなたが健康で
あり且つ事業の発展とロ
ータリー精神の発露の賜
であります。茲に深甚な
る感謝と敬意を表する
次第であります。
願わくば益々お健やかで
後進のご指導を賜ります
ようお願い申し上げます。
意を表します。

岡田 実 91歳 大 阪
 津田 久 91歳 大 阪
 井狩彌治郎 91歳 大 阪
 井上 徳治 90歳 大 阪
 今里 英三 90歳 大 阪
 渡部 善信 90歳 大 阪
 柴田喜三郎 94歳 大阪淀川
 上田 忠 90歳 大阪城北
 城野和三郎 93歳 大阪阪南
 小島 秋 94歳 高 槻
 歌川 照夫 90歳 大阪心斎橋

橋野 雅彦 38歳 大阪中之島
 安部 潤一 38歳 大阪御堂筋
 川崎 二郎 36歳 大阪御堂筋
 前田 陽義 36歳 大阪御堂筋
 宮岸 隆 38歳 大阪御堂筋
 澤田 祐幸 36歳 大阪御堂筋
 高嶋 秀行 35歳 大阪御堂筋
 清水 康市 36歳 大阪御堂筋
 藤原 亮 35歳 大阪御堂筋
 垣内 康弘 39歳 大阪みなと
 井原 悦司 39歳 大阪大淀
 山村 哲也 38歳 大阪咲洲
 昼馬洋一郎 38歳 大阪心斎橋
 芦邊 康徳 37歳 大阪心斎橋
 西尾 昌也 39歳 大阪大手前
 濱田 智志 36歳 大阪城北
 片山 一步 32歳 大阪住之江
 西 雅章 37歳 大阪住之江
 大代 光芳 36歳 大阪住之江
 平山 博史 35歳 大阪梅田
 野口 秀夫 38歳 大阪梅田
 土田 喜和 35歳 大阪梅田
 村上 正巳 39歳 高 槻
 木本 亮介 38歳 豊中-大阪国際空港
 中村 富也 38歳 大 阪 北
 尾近 正幸 39歳 大阪西南
 亀井 築美 34歳 大阪西南
 高澤 俊也 34歳 大阪西南
 木村 雅彦 34歳 大阪西南

3) 青年会員(30歳代)57名

木田 真敏 37歳 大 東
 真鍋 司 39歳 池 田
 金子 真二 38歳 東大阪東
 川島 吉博 34歳 枚方くずは
 片桐 公秀 36歳 枚方くずは
 中村 雄策 39歳 枚方くずは
 高岡 賢弘 39歳 茨 木 東
 瀧川 理也 37歳 茨 木 東
 秋田 典俊 38歳 茨 木 西
 吉岡宜史朗 38歳 茨 木 西
 棚原 稔 30歳 寝屋川東
 甲田 将典 35歳 守 口
 早嶋 茂 39歳 大 阪
 VERDIER, Frederic 38歳 大 阪
 木船 貴由 39歳 大阪阿倍野
 佐田 博之 39歳 大阪ちややまち
 米田 秀美 39歳 大阪ちややまち
 前田要之助 36歳 大阪ちややまち
 菱川 大造 30歳 大阪ちややまち
 古谷 裕子 36歳 大阪中央
 原田 司 33歳 大阪イブニング
 山田 雅浩 36歳 大阪イブニング
 山西 美明 38歳 大阪イブニング
 米田 勝彦 37歳 大阪イブニング
 吉田 雄 38歳 大阪イブニング
 山本 英樹 36歳 大阪城南
 西谷 雅之 35歳 大阪城南
 村居 恒司 30歳 大阪北淀

顕彰状

あなたは青年ロータリアンとして選ばれて入会后一貫専心實ロータリークラブの活動に尽力されクラブの活性に大いに寄与されておられますことは正にロータリーの発展の希望の星であり、本日を一つの節目とされ更なる精神を希いつつ茲に顕彰いたします。

4) 広報活動賞〔8クラブ〕

及び大阪市内全クラブ

- a. 大阪鶴見 R. C. 第2回留学生による日本語作文コンクール
 実施 1995・10・3
 掲載 1995・10・4 朝日新聞朝刊
- b. 大阪梅田 R. C. この町・花の街・作戦
 実施 1995年秋
 掲載 1995・11・18 高知新聞夕刊
 掲載 1995・12・26 長崎新聞朝刊

- c. 守 口R.C. ネグロス島WC S事業
 実施 1995・11・16～20
 掲載 1995・12・14 産経新聞
 掲載 1995・12・14 Daily Star
 (フィリピン)
- d. 東 大 阪R.C. ラジオ・トーク番組でのR.C.活動
 実施 1995・2・4、11、25
 1996・3・17、24 ラジオ大阪
- e. 大阪難波R.C. 第3回福祉ふれあい広場
 実施 1996・2・10 ちらし配布
- f. 高 槻R.C. 第1回福祉・文化基金の表彰並びに
 助成金授与式
 実施 1995・11・22
 掲載 1995・12・10 北大阪新聞他
 1996・3・22
 ワイワイユウ・シティライフ
- g. 大阪心斎橋R.C. 東南アジア留学生に奨学金支給
 実施 1995・10・20
 創立25周年記念事業及び
 社会奉仕委員会活動
 実施 1995・11・24
 掲載 1995・11・25 朝日新聞
- h. 大阪市内全R.C. シルバー・ボイスへの協賛
 実施 1995・9・12
 掲載 1995・9・22 読売新聞朝刊
- 3) 里親クラブ賞〔1クラブ〕
 大阪中央R.C. 大阪大手前R.C.
 八尾東R.C. 大阪北淀R.C.
 吹田西R.C. 守 口R.C.
 大阪中之島R.C.

ポール・ハリスフェロー

(※印はマルチプル・ポール・ハリスフェロー ㊦はベネファクター)

- 大 東 東村 博 恩地 進 田中 祥介
 加藤 敏明 橋本 忠男 北村 正汎
 金田 讓 高田 亨 谷中 清孝
 川上 隼宏 *大川進一郎
- 東 大 阪 地引 啓 河野 照秋 井上 和夫
 坂井 孝彦 寺村 定雄 上山 欣秀
 森 彰朗 清水 浩一 *阪本 義樹
 *岩佐 英雄
- 東 大 阪 東 吉川登史江 貴島 正彦 小林 一成
 伊藤英太郎 村上 雅治 梶原 孝彦
 *春田 武光 *沢村 正勝 *川口 淳三
 *福田 亨 *吉川 忠章
- 東 大 阪 中 八木 利幸 切石 博之 原口 隆夫
 *安藤 二郎 *野村 喜一 *安達 直祐
 ㊦岡田早苗三
- 東 大 阪 西 四宮 良弘 松尾 治 吉江 慶晃
 *竹内 剛治 *大井 勝利 *樋口 貞治
 ㊦高田富三男
- 枚 方 三村雄太郎 松木 康 三好 國司
 *宮田 久嘉 *高木 一郎 *大野 順造
 ㊦宮田 久嘉
- 枚方くずは 平尾 公介 井口 清剛 野田 賢一
 北村 隆 長村 治 河村 裕司
 宮田 明 ㊦松浦 甫 ㊦徳田 功
- 茨 木 菊山 逸夫 山根 信七 上野 力
 *清野 耕作 *小池 明 *野田 征夫
 *大森 慈祥 *坂井 正純 *寺野 福男
- 茨 木 東 *水田 勉 *上田 英雄 *川越 喜平
 *樋田 之宏 *沖原 徹 *岡市 正
- 茨 木 西 橋本 善治 馬場 孝志 中竹 正
 小嶋 陽光 ㊦野地 龍夫 ㊦小路 三郎
- 池 田 東山 三郎
- 池田くれは 宮下 博史 太田 均 石田 明正
 福田 公二 中堂 武賢 *加藤 隆司
 *押尾 清 *檀 信義 ㊦加藤 隆司
- 門 真 柴田 眞治 瀬越 旻 大野 敏次
 丸山 安雄 堀内 司朗 宇治 正孝
 中塚 一郎 吉村 光弘

交野石田俊夫 森光雄 *溝辺 明夫
 *木下 久則 *生内 良男
 箕面林喜英 松本勉 森岡健
 小田幸弘 庄司修三郎 吉川 闊
 伊原昭雄 水本隆平 村田勝彦
 黄堂慶雲 福井重一 古河潤一
 阪口三身 *宮田純夫 *為永清吾
 *吉龍資雄 *原正己 *片山三郎
 *神内紘典 *相原正雄 *長井伸一
 ⑧庄司修三郎
 箕面中央植田豊實 斉藤貞夫 *川村智一
 *黒木義典 *浅井敬一
 守口小野山攻 *井上幾之進 *倉田昭
 *坂本茂夫 ⑧芦谷光 ⑧井上幾之進
 寝屋川紅露政利 高木二郎 奥野喜好
 穂積幸男 *河瀬弥寿夫
 大阪松本圭史 東野一彌 藤阪利為
 土井洋三 湯木正徳 水野明人
 山田一郎 寺田和之 柴田弘文
 村井正守 森井清二 豊島久真男
 木川田誠 *藤阪修美 *黒川義春
 *竹中統一 *木村直樹 *稲畑勝雄
 *谷川正 ⑧原井龍一郎 ⑧島田清隆
 大阪阿倍野立石泰教 *山下義一 *山口昭雄
 ⑧北畠嘉弥雄
 大阪ちゃやまち葛尾都志樹 林誠一 飯村佳夫
 井上喬雄 石崎好洋 木岡良郎
 水野昭典 西埜伊宜 尾崎健太郎
 佐田博之 新谷守 高橋定郎
 田中豊造 戸嶋秀明 吉村修
 *前田嗣吉 *山根達雄 *大槻峽史
 大阪中央楊井傳枝 古渡正記 田中富加資
 麦谷実 *柴谷一慶 *新田久治
 *足立陽一 *笹木秀雄 *野村英雄
 *和田高明 *高木義輝 *植村甚久
 *高橋昭男 *中西一郎 *大堀舜久
 ⑧鎌倉利行
 大阪堂島藤田勝康 *福光道太 *植出明雄
 *藤井磯二郎 *片岡亥一郎 *梨本幸男
 *梅本弘 *海原旦 ⑧西尾恒太
 大阪阪南畑良隆 岡田平一 中野董夫

酒井偉雄 ⑧中谷龍石
 大阪イブニング石村伸人 加藤勝 *古谷登士光
 *庄野昇 *北耕一 ⑧松浦純男
 大阪東⑧小松陽一郎 ⑧小崎照夫
 河内多喜和 若林紀男 中西滉
 大森富夫 池田良雄 本田良光
 片桐松薫 三門通世 *村田吉弘
 大阪東淀*崎一男 *山縣平蔵 *藤井邦夫
 真下豊一 *細江重 ⑧飯田常俊
 大阪平野⑧中田八朗 ⑧城村幸治
 尾川雅清 瓦野良幸 中庭寿朗
 須戸弘昭 三原展 川上善司
 大阪本町*東西田和夫
 池田敬子 河野廣利 西岡猛
 岡本米藏 小野一郎 瀬川正明
 杉江良三 杉田順一 津田憲治
 大阪城南*長澤亨 *首藤雄二郎 ⑧長澤亨
 北恭一 山口寛 柳生佳洋
 向井秀文 片山勝彦 津和章雅
 坂本幸雄 *岡倉三郎 *渡邊邦雄
 大阪城東*光信昌明 ⑧石浜雪大
 城戸宏敏 牛山淳一郎 大島二郎
 後谷栄 水間美佐子 中谷菊子
 大島宣子 照屋育子 *大島進
 大阪柏原*水間義雄 *中谷治 ⑧辻谷弘
 山西建夫 松原貞一 岩井田洋
 壇野隆一 寺田信正 柏元勲
 *隅谷尚典 *水上兼三 *竹田幹雄
 *岡村国継 *吉村源逸 *田中義男
 大阪北*植田勤
 松本進也 黒田恭年 田中一郎
 丸山雅祥 井上亮一 薩摩卯一
 木岡良平 福光尚次 犬飼保介
 窪田讓 古野清賢 山本公平
 *呉美憲 *武田恭一 *古市実
 *埜田孝文 *山口照雄 *荒井敬一郎
 大阪北梅田*遠藤源太郎 *飯田正弥 ⑧後藤二郎
 ⑧松本進也
 中條雅嗣 門脇義房 神田章太郎
 大阪御堂筋加藤慶二 木下正二郎 水野哲次
 中神秀明 中川良夫 大西久晴

大阪梅田 和田 達也 土田 喜和 *佐野千代造
 *古澤 和三 *野口 清隆 *寶田 重幸
 *葛原 忠知 *塚本伊久男 ⑤梶谷 健二
 ⑤仲庭 成和

大阪梅田東 木岡 良介 中瀬 令造

大阪うつぼ 橋本 逸郎 中山 重積 野上 俊二
 大川 篤美 押村 良三 島田 洋一
 *川橋 豊 *大森 治 *山田 和義

大阪淀川 大社富佐子 平田 眞司 *青山 昭雄
 千 里 池口金太郎 松田 治和 中谷 良恭
 新原 健市 松岡 俊治 葛原 寛
 *川瀬甲子雄

摂津 岩城 邦廣 西本 勝 吉岡二三男
 四条 巖 畑 正廣

吹田 安封 嘉一 佐藤 庄治 羽間 勝昌
 光吉 聖 小島 義平 和田 弘毅
 *川上 浩邦 *稲本 英治 ⑤羽間 勝昌

吹田江坂 ⑤頭根 敏雄 ⑤澤田 敏明

吹田西 栢木 義臣 平野 善次 仲辻 章
 河邊 哲郎 澤井 正寛 田中 忠正
 郷上 勲 *宮川 定吉 *藤田 明
 *青木 郁二

高槻 矢野精太郎 大関 道麿 *今堀 幸
 *山口 誠 *米田 誠宏 *羽賀 孝
 *服部 良治

高槻東 杉岡 宗雄 石井 清隆 根岸 宏邦
 小阪 謙造 北浦 信行 岡本 昌夫
 *谷村 新平

高槻西 東 富美雄 古澤 照清 坂本 信人
 豊中 勝本 保 *木村 実 *木村 高子
 ⑤一瓢 利男 ⑤森山 貞信

豊中南 *柏木 義文 *昆 健一郎

豊中大阪国際空港 小田 泰義 笹部 義平 *本間 治夫
 *下平 健 *杉本 博己 *羽瀧 一司

豊中千里 荒木 勲 奥田 旭 *西島 修藏
 ⑤小竹 正男 ⑤西島 修藏

八尾 高橋 一郎 *居相 英機 *板倉與兵衛
 *松本新太郎 *中西 啓詞 *仲谷 常次
 *大槻美佐夫 *坂本 憲治 *高木 優一
 *田中 昌之 *吉田 八郎 ⑤平野大太郎
 ⑤中西 啓詞 ⑤中谷 武男 ⑤西海 元樹

⑤柴田 英一 ⑤小倉 九藏

八尾中央 時野 猛 福家 克彦 柳 雄二
 *溝田 伍兵 *瀧澤建之助 ⑤時野 猛
 ⑤吉村 清明 ⑤小林 達夫

八尾東 筒井 重之 *池本 繁喜 *福本 昭三
 *松井 謙之 *八木清三郎 *木村 久一
 *杉本 正義 *辻 吉和 *森 昌
 ⑤藤田 勇

米山功労者(1995・2・1～1996・1・31)

大 東 石丸 康一

東大阪 藤田 孝之 山中 政夫

東大阪東 加納 真治 田中 邦夫

東大阪中 安達 直祐 近藤 力 森田 和子
 湯谷登来男

東大阪西 大井 勝利 龍田 宇内 吉江 慶晃

枚方 喜多幅知郎 大矢 尚史

枚方くずは 浜野 庄作 土井 志郎

茨木 橋本 陽二 河原崎 篤

池田くれは 藤井 保雄 石田 明正

交野 谷島 淳郎

箕面 原 正巳 稲治 清 高島 照夫

箕面中央 石田 博和 奥山 淳三

大 阪 森井 清二 阪本 穰 桜井 良文
 植田 義明

大阪阿倍野 藤田誠一郎 盛本 孝司 立石 泰教
 山下 義一

大阪ちゃやまち 大槻 映史 山根 達雄

大阪中央 藤田 義人

大阪堂島 梨本 幸男 高宮 栄一

大阪阪南 能口 武雄

大阪イブニング 小松陽一郎 松浦 純男 小崎 照夫

大 阪 東 松本 良諄 大島 長造 張 哲彦

大阪東淀 飯田 常俊

大阪城 岡田 秀一

大阪城南 中川 章三 杉原 茂

大阪城東 辻谷 弘 若松 潔 山本 博
 吉田 禮

大阪柏原 前川 良雄 高萩弥太郎

大阪北 江崎 正道 菊井 正三 中尾 善宜

大阪北梅田 岩田 淳一

大 阪 南 花田 峰堂 中川 清 高田 卓郎
 高木 慶一
 大阪みなと 外上 孝
 大阪難波 伊永 一郎 駒井 敏彦 大地 庸元
 大阪なにわ 恵美奈博光
 大阪南西 藤川健一郎 服部 勇治 小西 克彦
 中村 正二 西田 忠平 佐々 進一
 戸高 秀明
 大阪西 細谷 明 大倉 昊
 大阪大手前 浅桐 紀元 井澤 正光 宮竹 昭
 田中 敏雄 八木 誠
 大阪大淀 長谷川英一 井原 巖 箕浦 浩
 中島 仁作
 大阪西北 平林 武昭 川上 伸一 森 恕
 十河 元生 柳野 隆生
 大阪西南 神島喜與一 岡田 吉弘
 大阪心斎橋 松村 勉
 大阪城北 細川 喜信 川村 一郎 村瀬 泰司
 大阪住吉 土居 進 原野 圭司 村上憲一郎
 下川 淑子
 大阪天満橋 小澤 満 徳永 篤順
 大阪東南 田中 敬一
 大阪鶴見 発 剛士 内田 廣
 大阪梅田 古澤 和三 日向 昭 飯田 正夫
 宇佐美善雄
 大阪梅田東 谷澤 保
 大阪うつぼ 藤井 健蔵 橋本 逸郎 奥山 泰弘
 大阪淀川 平田 達男 水田 茂 岡田 義昭
 千 里 羽田 祐三 近藤 雅臣 沼田 尚
 奥野 善彦
 四 条 畷 木村慎一郎
 吹 田 羽間 勝昌 伊藤徳次郎 木村 俊之
 吹 田 西 橋本 保次 橋本 治 毛利征一郎
 高 槻 西村 忠雄
 豊 中 南 今堀 幸 入野 敏夫
 古澤 照男 平山 稔 西川 治男
 豊中-大阪国際空港 上田 卓也 吉田日士光
 羽瀨 一司 尾形 理一
 豊 中 千 里 西島 修蔵
 八 尾 今井 博 松本新太郎 仲谷 常次
 小川 寛 力石 恒夫 山畑 雅裕

八尾中央 浅井 定和 岩本 昌造 野中 志郎
 杉本久仁一
 八 尾 東 杉本 正義

米山功労クラブ(1994~95年度)

大 東 東 大 阪 東 大阪 東 東 大阪 中
 東 大阪 西 枚 方 枚方くずは 茨 木
 茨 木 西 交 野 箕 面 箕面中央
 守 口 寝 屋 川 大 阪 大阪阿倍野
 大阪ちやま 大阪中央 大阪堂島 大阪阪南
 大阪イブニング 大 阪 東 大阪東淀 大阪平野
 大阪本町 大阪城南 大阪城東 大阪柏原
 大 阪 北 大阪北梅田 大阪北淀 大阪御堂筋
 大 阪 南 大阪みなと 大阪中之島 大阪なにわ
 大阪南西 大 阪 西 大阪大手前 大阪大淀
 大阪西北 大阪西南 大阪船場 大阪心斎橋
 大阪城北 大阪住之江 大阪住吉 大阪天満橋
 大阪天王寺 大阪東南 大阪鶴見 大阪梅田
 大阪梅田東 大阪うつぼ 大阪淀川 千 里
 摂 津 吹 田 吹田江坂 吹 田 西
 高 槻 高 槻 東 高 槻 西 豊 中
 豊 中 南 豊中-大阪国際空港 豊中千里 八 尾
 八尾中央 大阪難波

米山特別功労法人

大阪北梅田 一富士ケータリング(株)

大会役員

大会役員(1995~96年度)

ガバナー	熊澤 忠躬
大会委員長	横尾 定美
大会副委員長	中村 勲
大会副委員長	高士 修
大会副委員長	西原 房三
大会副委員長	仲井 光夫(門真)
大会幹事	横山 正憲
大会副幹事	三浦 俊造
大会副幹事	疋田 茂雄
大会副幹事	仲井 守
大会副幹事	秋山 哲夫(門真)
大会S.A.A.	平井 秀興
大会副S.A.A.	岡村 晃明
大会副S.A.A.	吉川 憲男
大会会計	仲井 守
大会副会計	多田 正司
ホストクラブ会長	井上幾之進
コ・ホストクラブ会長	仲井 光夫(門真)
地区代表幹事	小西 豊和
同補佐	常盤 泰弘

大会委員会

プログラム委員会

委員長	三浦 俊造(守 口)
委員	楠神 壽(守 口) 藤原 明弘(守 口)
	永井 博之(門 真) 田村 弘(大阪阪南)
	西村 五郎(大阪城南)

信任状委員会

委員長	菅生 浩三(大 阪 北)
委員	松本 恵(大阪阪南) 宮田 久嘉(枚 方)
	増山 博(大阪堂島) 西 正中(大阪城北)
	末村 斉(豊 中)

決議委員会

委員長	中野 董夫(大阪阪南)
委員	中川 章三(大阪城南) 倉田 昭(守 口)
	松本 孝(大 阪 西)

選挙委員会

委員長	山中 文和(大 阪 南)
委員	品川 潔(大阪西南) 荒井敬一郎(大 阪 北)
	鴻野真太郎(大 阪 西) 北村 嘉宏(大阪天満橋)
	長澤 亨(大阪本町)

登録委員会

委員長	高士 修(守 口)
委員	橋本 泰明(守 口) 白川 元昭(守 口)
	南野久米二(守 口) 末田 正(門 真)

大会実行委員会

大会委員長	横尾 定美
大会副委員長	中村 勲
大会副委員長	高士 修
大会副委員長	西原 房三
大会副委員長	仲井 光夫(門真)
大会幹事	横山 正憲
大会副幹事	三浦 俊造
大会副幹事	正田 茂雄
大会副幹事	仲井 守
大会副幹事	秋山 哲夫(門真)

総務委員会

委員長	西原 房三
副委員長	中西 徹 玉井 満司 宮内 勝夫
委員	倉田 昭 喜多 洋三 西宮 重和
	多田 正司

プログラム委員会

委員長	三浦 俊造
副委員長	楠神 壽 藤原 明弘 永井 博之(門真)
委員	宮内 勝夫 里田 百子 伊藤 宜史
	江端 将哲 石井 賢治 田村 弘(大阪南)
	西村 五郎(大阪城南)

登録委員会

委員長	高士 修
副委員長	橋本 泰明 白川 元昭 南野久米二
	末田 正(門真)
委員	吉延 文夫 小島 晟吉 芳滝 直樹
	松本 皓 篠原 秀男 大西 晃夫
	他谷富美子 芦谷 光 今井 勇
	山地 安夫 小浜 道夫 岡村 晃明
	石井 賢治 伊藤 宜史 岸 健次郎
	井上 正男 甲田 将典 石山 芳和
	松尾 安彦 田代 精作

広報担当

田中 修二
(門真)羽生 文武 日紫喜基久
斎藤 正己 村田 敏秋

接待委員会

委員長	中村 勲
副委員長	家村 武秀 北村 正彦 中園 直樹
	中塚 一郎(門真)
委員	三国 義雄 宮下 稔 伊藤 廉
	池永 道彦 高橋 敏朗 辻村 弘
	木崎 正 川端 義孝 久田 正一
	小野山 攻 山田多津子 土井池幸彦
	里田 百子 阪口 明 佐谷戸安好
	西村 公夫 坂井 賢二
(門真)中塚 一郎 吉井 茂雄 丸山 安雄	
宇治 正孝 須藤 直廣	

S. A. A.

平井 秀興
副 岡村 晃明 吉川 憲男

会計

仲井 守
副 多田 正司 石谷 隆一

会場委員会

委員長	常盤 泰弘
副委員長	坂本 茂夫 大西 弘 中道 均
	勝田 和行(門真)
委員	中村 保生 中谷 隆三 佐治 信隆
	北風 重夫 境 克己 石谷 隆一
	駒村 忠一 須山 知行 辻本 啓次
	江端 将哲 坂元 克行 伊藤 博
	石橋 高夫 正木 一光 葭川良太郎
	西口 勇

晚餐会担当

坂本 茂夫 中道 均
(門真)今村 洋二 大野 敏次 高橋 英雄
片桐 昌夫

ソング

中島 警子
佐治 信隆

記録委員会

委員長 吉中 光雄
副委員長 秋山 憲敏
委員 江端 将哲

救護委員会

委員長 舟橋 透
委員 秋山 憲敏 看護婦 1名

家族のつどい

(門真R.C.) 瀬越 旻
豊田 峻 堀内 司朗
吉村 光弘 角 董雄
(守R.C.) 他谷富美子

部門別懇談会

委員長 深田 清
(S.A.A.) (記 録)
会長・幹事・増強 深田 清一 藤原 明弘 伊藤 宜史
職業奉仕部門 楠神 壽 佐谷戸安好
社会奉仕部門 疋田 茂雄 秋山 憲敏
国際奉仕部門 倉田 昭 西村 公夫

表彰委員会

委員長 倉田 昭
委員 深田 清一 疋田 茂雄 右田 堯雄
玉井 満司 宮内 勝夫 伊藤 宜史
阪口 明 西村 公夫 田中 修二

地区外

バコロドR.C. 松戸東R.C. 福井南R.C.
三田R.C. 奈良西R.C.

地区内

大東R.C. 大東中央R.C. 東大阪R.C.
東大阪東R.C. 東大阪中R.C. 東大阪西R.C.
枚方R.C. 枚方くずはR.C. 茨木R.C.
茨木東R.C. 茨木西R.C. 池田R.C.
池田くれはR.C. 門真R.C. 交野R.C.
箕面R.C. 箕面中央R.C. 守口R.C.
寝屋川R.C. 寝屋川東R.C. 大阪R.C.
大阪阿倍野R.C. 大阪ちやまちR.C. 大阪中央R.C.
大阪堂島R.C. 大阪阪南R.C. 大阪イブニングR.C.
大阪東R.C. 大阪東淀R.C. 大阪平野R.C.
大阪本町R.C. 大阪城R.C. 大阪城南R.C.
大阪城東R.C. 大阪柏原R.C. 大阪北R.C.
大阪北梅田R.C. 大阪北淀R.C. 大阪御堂筋R.C.
大阪南R.C. 大阪みなとR.C. 大阪中之島R.C.
大阪難波R.C. 大阪なにわR.C. 大阪南西R.C.
大阪西R.C. 大阪大手前R.C. 大阪大淀R.C.
大阪咲洲R.C. 大阪西北R.C. 大阪西南R.C.
大阪船場R.C. 大阪心斎橋R.C. 大阪城北R.C.
大阪そねざきR.C. 大阪住之江R.C. 大阪住吉R.C.
大阪天満橋R.C. 大阪天王寺R.C. 大阪東南R.C.
大阪鶴見R.C. 大阪梅田R.C. 大阪梅田東R.C.
大阪うつぼR.C. 大阪淀川R.C. 千里R.C.
摂津R.C. 四條畷R.C. 吹田R.C.
吹田江坂R.C. 吹田西R.C. 高槻R.C.
高槻東R.C. 高槻西R.C. 豊中R.C.
豊中南R.C. 豊中-大阪国際空港R.C. 豊中千里R.C.
八尾R.C. 八尾中央R.C. 八尾東R.C.

大会登録者名簿

大 東

榎本 光博	福井 寛	藤本 和俊	橋本喜八郎
橋本 忠男	東村 博	樋口 秀和	樋口 平和
樋口 茂	池田 實	井上 忠信	石田 和清
石丸 康一	伊藤 秀哉	角井 吉彦	加藤 敏明
川上 隼一	河村 孝正	木田 真敏	北井 清文
松下 昭	見浪 光夫	宮本 善史	森山 信一
永田 崇	中原 毅	西村 弘美	中村 隆一
中尾 等	西川 常一	西村 完	奥田 保幸
大川進一郎	大西 寛治	長田 定彦	鷲森 董
三田 眞作	佐藤勝次郎	重森 正三	清水 修
杉井 清秀	高岡 政一	田中 祥介	谷中 清孝
上田 陽造	上野山昌秀	山中 政治	山崎 繁則
米沢 貞夫	米沢 三吾	吉田 昭己	

大 東 中 央

浅野総一郎	大東 禮子	橋本 康夫	樋口 栄二
伊泊 規子	今村 茂	糸川千恵子	岩本 静江
柿木 清司	木村 博子	三ツ川卓生	森川恵美子
中島 勤	西田 富美	西垣 文雄	岡本 俊徳
斉藤 基司	竹内 滋	辻川 覚志	上野 千秋
内田 健彦	和氣 英夫	渡辺 勝也	山本 育男

東 大 阪

青木 嘉男	浅田 恒博	浅井 典夫	朝野 博文
東 司	千種 恒宏	藤田 孝之	古谷 勝紀
火伏 義純	本多 博	井上 和夫	岩佐 英雄
泉 昭三郎	地引 啓	櫻根敬太郎	川口 暢彦
河北 勝彦	川添 堯彬	木室 清一	河野 栄
河野 照秋	国宗 範彰	町野 英一	松田 重夫
松本 駿二	松村 昌美	松下 一治	南 勝喜
三宅 辰一	宮田 清士	三善 康平	水野 昌幸
森本 一	森脇 一弘	向井 伸太	中易善四郎
中村 俊一	織田 宗輔	大島 康弘	小崎 正雄
坂井 孝彦	阪本 義樹	里見 博	島岡 孝治
清水 浩一	白石 光憲	竹村 秀雄	竹中 一良
竹中 照次	田中 健次	立岡 寛次	寺村 定雄
富岡 成夫	辻本 一義	塚田雄一郎	上山 欣秀
山本 哲三	山崎 三東	山下 勝弘	安田 嘉雄
吉沢 和夫	行松 実		

東 大 阪 東

赤松 慶亮	朝田 全紀	出口 和義	福井 秋雄
春田 武光	市口 武志	池田 博信	井上 家昌
犬童 逸士	石田 肇	伊藤英太郎	梶原 孝彦
金子 真二	金子 泰輔	加納 真治	勝山 巖
川口 淳三	喜田 敏雄	城戸 義雄	木村 繁雄
北川 忠嗣	北村 充彦	前田 昇治	溝畑 正信
水守 俊明	水谷 弘	森 幸雄	中西 正美
中西 昇	西尾 健二	野村 慎昭	岡田 耕治
奧林 繁一	表 康之	坂本 弘	沢村 正勝
島 顕脩	須崎 洋一	寺田 秀興	寺西 太一
山西嘉一郎	吉田 玄蕃	吉川 謹司	吉川 忠章

東 大 阪 中

出原 正秀	藤原 英夫	後藤 弘	萩原 莞士
長谷川 厚	百濟 洋一	金子 誠二	三宅 幸造
宮田 照厚	西川 毅	野村 喜一	岡田早苗
岡島 耕市	大畑 齊	尾崎 弘昌	佐藤三千秋

瀧田 浩彦 坪倉 修吉 渡辺 斌 吉川 明宏
湯谷登来男

東 大 阪 西

樋口 貞治	井出 幸彦	岩本 昭利	岩崎 旭人
角井 勝美	木村 豊吉	栗和田 榮一	松井 繁男
松尾 治	宮本 貞雄	宮永 憲一	森川 増男
村上 正治	村上 益子	西村 禎夫	岡本 益子
大西 武治	大西 益子	大井 勝利	島田 直弥
嶋田 長寿	杉野テル子	杉野 時雄	高田富三男
高田 容子	竹内 剛治	東瀬 博	高田直三
辻尾 佳代	氏野 隆司	米島 未次	辻尾 浩委
吉江 慶晃	吉城 鉄也	吉城由紀子	吉江 広美

枚 方

安積 喔夫	船越 三男	畠山 武嗣	服部 修
堀井 克之	堀岡 晃	今仲 弘	磯田 隆平
岩阪 俊介	門前 武彦	神田 正昭	北本 健二
倉内 勇吉	松平 重男	三村雄太郎	南 良明
三代 博	宮田 久嘉	水尾 祥一	森原 寛一
永井 岑一	中澤 利文	小野 俊文	大野 順造
大谷 歆男	大矢 尚史	執行 経世	諏訪 正美
多田 高利	高木 一郎	竹安 真治	寺嶋 三郎
山本 哲彦	吉田 弘		

枚 方 < ず は

吾郷 泰廣	土井 志郎	藤原 和彦	浜野 庄作
原田 武夫	畑屋太一郎	林 祐弘	平尾 公介
今中 七郎	今西 義人	磯田 勝信	岩本 昌治
泉谷 楠夫	駕田 毅	金子 憲一	刈米 重夫
片桐 公秀	片山 通夫	河村 裕司	川島 吉博
北川 順清	北村 静子	北村 隆	小北 英夫
靖夫 昌弘	前田 昌治	南 武	宮田 明
長村 文雄	長村 治	中 一皓	中川 定雄
中村 雄策	中西 庸夫	中野 保博	岡田日出男
小野 達郎	大谷 義雄	鳴中 完治	田原 一繁
高島 叔孝	竹広 猛	田中太一郎	谷本 稔

茨 木

橋本 淳	橋本 秀雄	橋本 陽二	日野岡信太郎
門谷 孟	簡 仁一	金田 憲幸	菊山 逸夫
木本 保平	清野 耕之	小池 明治	松尾 康弘
水田 泰次	森安 耕平	長澤 泰康	中村 憲次
中西 勝一	中田 耕平	中谷 泰祥	野田 征夫
野口 健一	岡村 末雄	大森 慈祥	坂井 正純
柴田 彰	柴田 鏡子	島津 禮次	高田 克明
高島 健	竹脇 正秀	田中 義信	高田 克平
寺野 福男	鱈洲 栄一	山口 和雄	

茨 木 東

樋田 之宏	土方 圭子	土方 正英	井上 幸一
石川 一彦	石川 京子	貝本 正年	勝間 寿
川越 栄子	川越 喜平	木本 誠一	越澤 弘昭
増本 猛	水田 勉	西中 務	小椋 清詩
岡市 正規	阪上 博史	塩谷嘉太郎	城谷 星
高見 孝義	高岡 賢弘	竹村ルミ子	瀧川 理也
辰見 博義	対馬 祥全	上田 英雄	上原 秀和
山本 武夫	矢野 克吉	米花 豊	吉田 操

茨木西

赤田 邦男
林 重三
加藤 英子
中井 稔
野地 龍夫
須川 就三
山本 高司

赤井 ムツエ
岩井 久史
小嶋 陽光
中西 隆英
大森 保延
小路 三郎

別處 了一
樹下 稔
都田 慶一
中竹 正
大槻 豊
竹林 敏彦

橋本 善治
角谷 真枝
村田 昭
西尾 忠夫
佐々木 良高
田村 英明

池田

明石 巧
橋本 公宏
片山 央
橘高又八郎
真鍋 司
西村 一夫
十家 和弘
山本 格

荒木久太郎
東山 三郎
岸上 宏司
小林 照幸
海邊 忠治
奥村 昌也
徳永 昭夫
柳谷徳次郎

藤川 隆治
今北 利信
北林 成計
小島 治
松本 弘
小野 功雄
遠山 隆重
吉岡 崇

原 宜二
伊瀬 芳吉
北野 紀之
小俣 恒夫
村上 実
篠原 克明
津川 正幸

池田くれば

檀 信義
林 克彦
北村 富之
溝口 雅貴
新田 耕平
田中 敏昭

藤井 保雄
堀 康廣
国司 禎相
森 茂寛
野入 邦彦
谷田 史朗

福田 清己
石田 明正
宮下 博
森 茂
太田 均
津田 昌信

古川 智
加藤 隆司
三好 洋二
中川 三郎
塩川 勝治
山内 邦夫

門真

秋永 俊彦
羽生 文武
堀内美津子
北野 武治
森本昭一郎
仲井 光夫
瀬越 旻
末田 壽子
豊田 峻
吉村 光弘

秋山 哲夫
羽生 和子
今村 洋二
熊西 勝
村田 敏秋
中塚 一郎
瀬越 洋子
角 董雄
土田 進彦
吉村 孝子

藤井 貞夫
日紫喜基久
加納 次郎
丸山 安雄
永井 博之
大野 敏次
須藤 直廣
高橋 英雄
宇治 正孝

藤井昭三郎
堀内 司朗
片桐 昌夫
森本 充子
仲井 盈子
斎藤 正己
末田 正
徳山 順一
吉井 茂雄

交野

青野 明
平田 至宏
小葉 照三
溝辺 明夫
中野 修行
田中 達晃
渡邊 哲也

浅田 莞爾
加地 脩郎
古神子 壽
溝辺 和子
小川 幹雄
都築 武保
吉川 峰明

芦田 弘
加藤 秀逸
丸野 務
森 光雄
奥 嘉隆
富田 利一

後藤 治久
木下 久則
松本 道廣
中西 尚
大宮 力以
辻本 末廣

箕面

相原 正雄
藤原 敏裕
石川 傑
川端 崇旦
村田 勝彦
小田 幸弘
佐伯 吉捷
瀧瀬 尚峻
吉龍 資雄

相原 和子
福井 重一
井内 照博
松本 勉
長井 伸一
尾上 克雅
阪口 三身
田村 徳郎

青 敬祐
林 喜英
亀岡 栄蔵
光岡 史富
中井 満洲男
大槻 四郎
庄司 修三郎
遠山 雅昭

藤井 稔夫
稲治 清
片山 三郎
水谷 忠弘
中西 和也
佐伯 紀子
高島 照夫
吉川 闌

箕面中央

浅井 敬一
堀江 正巳
川村 智一
西田 隆昭
奥山 淳三
植田 豊實
山本 章

東 良三
堀川 明
北島 清光
西村 是滋
柚 誠二
上野 弘之

原 哽
石田 博和
前川 茂
野村 正勝
芝 盛久
浦川 章子

樋口 治
加藤 成一
宮野 康治
小倉 勲
常俊 章
浦川 光雄

守口

赤澤 正道
江端 将哲
橋本 泰明
家村 弘美
池永 道彦
井上 康子
石山 紀美子
伊藤 史江
木崎 晟吉
甲田 将典
倉田 峯子
松本 充子
南野 久米二
宮内 勝夫
中道 均
中西 徹
西原 美佐子
岡村 順子
小野山 攻
坂井 賢二
里田 百子
須山 知行
高橋 敏朗
田中 修二
常盤 泰宏
右田 堯雄
横尾 明子
吉川 悦子
吉延 文夫

秋山 憲敏
藤原 明弘
疋田 茂雄
家村 武秀
今井 勇
石橋 高夫
石山 芳和
伊藤 博
岸 健次郎
小西日出子
熊澤巴津子
楠神 壽
松尾 妙子
三浦 純子
宮内 次美
中村 勲
中谷 隆三
西原 房三
岡村 晃明
佐治 信隆
坂元 克行
佐谷戸安好
多田 富貴子
高士 修
田代ヒサエ
富森 真一
山田多津子
横尾 定美
吉川 憲男
芳滝 直樹

芦谷 光
深田 清一
平井 秀興
池本 貴
井上幾之進
石井 賢治
伊藤 廉
桂田 幸三郎
北風 重夫
小西 和実
熊澤 忠躬
正木 一光
松尾 安彦
三浦 俊造
仲井 守
中村 保生
中園 直樹
西村 公夫
大西 弘
阪口 明
坂本 茂夫
島野 淳子
多田 正司
玉井 満司
田代 精作
辻本 啓次
山地 安夫
横山 慶子
葭川 良太郎

土井池幸彦
舟橋 透
久田 正一
池永 房江
井上 正男
石谷 隆一
伊藤 宜史
川端 義孝
北村 正彦
小西 豊和
倉田 昭
松本 皓
三国 義雄
宮下 稔
中島 警子
中西知加子
西口 勇
小田佐和子
大西 晃夫
境 克巳
坂本ヨシ子
白川 元昭
高橋真理子
田中 広子
他谷富美子
辻村 弘
山下 圭一
横山 正憲
吉中 光雄

寝屋川

天野 昭一
東 平介
池田 政宜
梶田 周作
前田 覚
森 時頼
奥野 正男
白井 清一
田中 稔
山口 次郎
由木 泰紀

藤井 修
樋口 宗次
乾 数匡
木村 陸朗
前田 澄雄
棕本 精一
大東 豊治
白井祥一郎
堤 重義
山下 勇

合田真佐彦
平田 大一
石田 光徳
小西 真明
松島 磐
奥本 義昭
清水 茂實
高木 二郎
内田 恵三
吉川 稔

橋本 進
平田 正二
石山 憲雄
紅露 政利
水崎 勝
奥野 喜好
下牧 重彦
田辺 和宏
藁 幹展
好川 照一

寝屋川東

浜田 博章
岩城 宏司
南井 一彦
西邨 智雄

樋口 宗廣
北本 明
南井 恒治
大原 孝

生野 史朗
小林 道明
盛岡 建吉
尾崎 幸次

井上 幸治
松本 勉
中野 栄一
坂元 照明

桜井 敏 佐藤 敦俊 棚原 稔 上野 章一
渡辺 亨次 山田 繁 柳澤 直 安田 修

戸嶋 秀明 辻 史行 上野 晴夫 鷺塚 昭夫
山田 克明 山本 幸弘 山根 達雄 山下 勝
山下 達雄 柳瀬 悌二 安本 正明 米田 秀実
吉田 英志 吉村 修

大阪

赤樫 卓爾 秋山 喜久 青木 久夫 文箭 安雄
頼川 勉二 江崎 勝久 藤城 泰三 藤田 温
深川 誠 古林 徹也 古田 敬三 古田 昌子
濱田 鉄之助 原井 龍一郎 早嶋 茂 平岡 龍人
平田 豊 廣瀬 太一 廣瀬 吉彦 市川 宏
井狩 彌治郎 生駒 一夫 伊東 直樹 葛西 得男
川田 達男 木村 五郎 木村 直樹 倉林 育四郎
小林 龍三 小松 健男 小西 哲夫 倉林 育四郎
黒田 章裕 黒川 義春 松田 隆明 松本 圭史
松島 裕 水兼 克介 最上 平太郎 森井 清二
森田 武 中村 精吾 成瀬 宗 西川 潔
西崎 保孝 能村 光太郎 緒方 正三郎 岡田 東一
奥井 功 大西 正文 大多 一雄 長田 新平
尾崎 敏紘 領木 新一郎 齋藤 守慶 阪口 英一
阪本 穰 迫田 太 佐戸 正夫 関根 恒雄
島田 清隆 下村 正太郎 白川 俊一 田淵 暉久
武貞 一彦 田邊 剛 谷川 正 田代 和
立松 敬一 立野 純三 寺田 和之 螺良 英郎
辻本 朝男 辻本 光彦 上田 隆三 植田 義明
上西 圭治 瓜生 道雄 和田 亮介 若山 繁
山田 一郎 山上 武宏 山口 淳一 山口 格太郎
山中 直樹 山崎 勲 吉本 晴之 吉本 仁三
吉村 明 吉村 眞太郎 湯木 正徳 湯木 敏夫
銭高 一善

大阪中 央

足立 陽一 福元 輝雄 古渡 正記 古谷 裕子
林 紀三夫 茨木 恵永子 茨木 壽男 飯田 精三
石川 寿三郎 片山 修二 川崎 勝紀 小出 隆昭
越原 良忠 益田 照夫 森 舜久 西東 茂之
西口 宗宏 新田 久治 佐藤 正夫 芹川 明義
佐古 忠司 笹木 秀雄 佐藤 正夫 武田 直和
清水 安一 白井 教雅 高木 義輝 武田 康修
田宮 秀雄 田中 久雄 島居 鋭徳 坪井 公
上田 祐嗣 和田 高明 横山 守雄 吉山

大阪堂 島

藤本 眞一郎 廣瀬 幸雄 石川 英二 片岡 亥一郎
川村 俊明 川崎 全司 川本 幹治 小林 保伸
幸田 精一郎 前田 勉 増山 博 村野 壽昭
中島 武 西野 公庸 西尾 進一 小川 道雄
佐藤 太一郎 白井 義人 高宮 英一 津本 洋一
植出 明雄 海原 且 横山 利夫

大阪阪 南

阿部 文彦 綾井 治一郎 古田 鶴彦 古藪 盛三
後藤 稔 萩谷 博隆 橋本 和昇 畑 良隆
服部 四郎 細田 寿 細川 壽太郎 伯耆 徳武
井上 隆智 和泉 俊治 城野 和三郎 神末 雅博
菅野 省三 笠井 勝巳 児島 孝紀 金剛 正和
小山 隆三 前田 忠藏 前山 克己 増田 亨
松本 恵 仲野 欣弥 中野 ルツ子 中野 董夫
中尾 宏 中塚 春夫 南部 高志 西埜 俊弘
能口 武雄 野間 寛治 越智 宏暢 岡田 平一
岡島 義一 奥 剛典 大野 定俊 阪 秋廣
酒井 偉雄 高橋 重光 寶生 孝七郎 竹内 三郎
田村 弘 恒川 登 津崎 正幸 宇田 壽彦
上島 育二 植嶋 稔郎 馬越 正也 和田 健一
若宮 房次 山本 研二郎 吉田 洋 吉川 俊一
吉山 英次 四稜 行雄

大阪阿 倍 野

安藤 博元 青木 憲治 青野 秀治 藤田 誠一郎
福田 浩一 池内 秀夫 石黒 爲三 亀井 龍彦
木船 貴由 木村 雅太郎 北口 信雄 小室 樹
小西 浩二 河野 省三 小谷 一郎 小寺 恒男
櫛田 雄一 前中 研 松下 文武 三柄 昭明
森 哲哉 盛本 孝司 村田 治彦 永田 諄二
中尾 吉延 中塚 昌宏 西田 恭三 西川 雅雄
岡田 擘昌 岡野 文雄 酒井 泰男 杉村 重子
高橋 健三 武田 秀孝 竹田 勲 竹中 恒雄
武内 善二郎 田村 栄子 田村 信三 立石 泰教
寺本 俊一 得田 栄蔵 辻 久美子 辻井 良朗
浦野 庸三 渡邊 純一 山口 昭雄 山本 晴久
山下 義一 柳本 悠紀子

大阪ち や や ま ち

青木 民男 別所 克美 春次 政明 長谷 正孝
林 誠一 檜垣 誠次 菱川 大造 市村 重俊
飯村 佳夫 井上 喬雄 石崎 好洋 板倉 讓
伊藤 邦輔 神畑 純夫 河佐 浩 川島 育也
木岡 良郎 北島 圭二 小林 勝 小林 孝
小松 謙一 葛尾 都志樹 前田 京子 前田 嗣吉
前田 要之助 松本 雅郎 真崎 貞夫 宮川 憲雄
水野 昭典 水島 陸司 椋田 浩義 柳川 善一
仲井 国夫 中尾 守成 西田 央 西村 隆
西埜 伊宜 西岡 芳樹 小川 慎司 小原 雅美
大槻 映史 大塚 豊 尾崎 健太郎 坂 治彦
佐田 博之 沢村 修 新谷 守 杉山 則夫
杉山 慎一 田上 元一 田川 公造 高橋 定郎
田中 豊造 谷口 晴彦 寺島 通弘 島澤 泰敏

大阪イ ブ ニ ング

足立 敏明 赤根 賢治 藤江 正謹 藤本 加代子
福田 守 福井 章 古谷 登士光 儀間 義威
濱村 太造 原田 司 古谷 豊二 原野 昭夫
橋本 優也 波多野 幸造 平岡 博義 池田 静夫
池原 保三 今北 吉久 石田 晃 石村 伸人
界外 昇一 神谷 明史 片山 久江 加藤 勝
北 耕一 清原 鐵也 小松 幸代 小松 陽一郎
小松 大二 松浦 純男 三木 優 西沢 彰敏
岡本 耕二 奥 公男 大沢 昭二 小崎 慶子
小崎 照夫 坂井 直博 三埜 好 笹井 敏之
新家 政延 塩田 憲治 田中 駿吉 田中 義信
玉井 敏剛 植田 喜保一 宇野 能史
坪内 敏仁 山本 康隆 山 西 瓜本 富士男
山口 浩司 吉田 浩司 吉田 雄 米田 勝彦

大阪東

秋吉 節夫 邦夫 藤井 邦夫 良光 本藤 良七郎 伊藤 勝治 北川 裕司 倉田 裕司 松本 史都代 本儀 純 中嶋 博信 中田 尚文 新庄 洋也 武貞 昌志 浦西 正雄 山本 達哉

青井 隆 藤木 鐵三 池田 貞雄 伊藤 貞男 小濱 雅之 前岡 英一 三上 教道 村岡 秀雄 中村 育二郎 西尾 忠朋 新堂 友衛 田中 経久 山懸 晴子 山中 嵩

張 福家 稻垣 岩橋 小池 松本 宮岡 村田 中村 大原 新谷 谷口 山懸 吉岡 哲彦 達二 邦弘 貞雄 宣之 昭 邁 吉弘 健 司 健 司 善典 吉弘 平藏 清輝 土井 孝夫 林 輝久 伊藤 彰彦 片山 勉 雄三 松本 良諄 森 勇 中島 博司 中西 滉 大森 富夫 杉浦 嘉功 辰野 元彦 山本 武男 吉澤 邦嗣

大阪東淀

足立 博史 細川 潔 今村 周平 鉦崎 克己 森 國治 西村 實 坂本 旭 高田 直和 田村 順子

赤堀 精一 伊賀 修司 井上 武 北尻 金三郎 長洲 眞 小原 正一郎 佐々木 幸 高野 隆 豊島 芳治

浅田 茂 飯田 常俊 石田 秀信 丸山 静雄 中 眞一 大津 久直 菅本 泰助 竹田 明弘 辻 秀哉

細江 重 池田 啓一郎 城村 幸治 眞下 豊一 中村 孝三郎 小澤 アキ子 高井 利一 玉井 三貫男

大阪平野

地久里 昌廣 金子 孝治 喜多 克己 国分 順一 松本 忠重 三好 宏 中庭 寿朗 信根 勝一 大西 淳 島田 喜代司 友定 弘藏 植村 宏一郎 依岡 孝明

平井 政博 川上 善司 喜多 敏明 小谷 義弘 松島 速美 森 由雄 中野 凱一 尾川 雅清 尾崎 達郎 杉本 浩一 東西 和夫 山崎 啓一 吉原 保之

井上 弘文 瓦野 良幸 小林 治夫 久下 井 昭 三原 展 毛利 進 西川 修身 岡部 卓雄 佐野 元英 須戸 弘昭 津川 康三 米田 元雄 吉本 秀章

伊藤 壽朗 木野 一信 孝橋 巖 的場 秀恭 三野 久光 中道 博文 西村 淳 大倉 國一 柴林 俊二郎 太口 登喜一 塚田 康策 米田 忠由

大阪本町

安藤 康雄 平瀬 健 石橋 正紀 児島 満 中森 英夫 瀬川 正明 富田 進 吉井 洋一

田 晴重 平田 良三 伊藤 浩一郎 河野 廣利 中田 安彦 杉江 良三 山口 英典

橋爪 博義 池田 正 金沢 忠昭 松村 榮一 岡本 米藏 鈴木 儀雄 山本 兼右

樋野 忠志 池田 哲男 岸 孝太郎 長澤 亨 櫻井 勲 寺西 邦男 柳本 信雄

大阪城

生駒 純一 加藤 勉 岡田 秀一 内海 浩之

井上 教規 宮阪 登 妙中 幹男 和田 眞実

石田 勝三 長友 滋尊 田中 俊男

糸井 寅雄 西山 義信 辻中 明一

大阪城南

有光 津郎 濱田 三弘 池田 義彦 井上 大治 井谷 齊 金田 勝弘 木寺 彦三郎 三木 敏裕 宮子 正憲 中川 桂子 中村 喜英 西村 五郎 大東 敏男 岡倉 三郎 境 高彦 島本 博晃 住田 新平 田中 隆英 上山 善紀 藪内 清治 山本 正夫 横溝 美良

朝倉 良 畑田 豊 今井 賢二郎 石田 馨 伊東 征 片山 勝彦 小森 康雄 三谷 貞和 向井 秀文 中川 章三 中谷 佳正 西谷 雅之 岡部 泰鑑 岡本 克持郎 坂本 孝司 島谷 清 砂田 純男 遠田 義昭 梅崎 道夫 柳生 佳洋 山崎 博史 吉岡 光雄

藤澤 省三 林 正男 今岡 巖 石浜 雪大 泉 吉次郎 萱沢 進作 栗谷 貞義 光信 昌明 永井 正美 中嶋 通雄 南賀 勝之 西澤 正男 岡田 繁雄 大森 敬夫 坂本 幸雄 新垣 善男 鈴木 良造 津和 章雅 渡邊 邦雄 山口 寛 山下 健三

福本 穀平 本田 盛 今里 弘行 石浜 典子 楞川 彌吉 北 恭一 松井 将雄 三宅 一真 内藤 喬皓 中本 和洋 成瀬 俊昭 野中 一彦 岡井 正弘 大塚 孝哉 佐々木 正治郎 杉原 茂 武田 繁治 上 敏郎 渡邊 洋子 山本 英樹 八尾 嘉之

大阪城東

有山 茂 伊坂 泰治 片山 雅和 北村 寛治 松村 光郎 大西 眞尚 武内 克郎 殿浦 嘉郎 渡辺 一雄

藤田 幸一 石川 完二 桂 知良 北村 讓 松矢 浩司 瀨口 琢巳 田中 英和 辻谷 弘 山田 喜吉

淀 和泉 城戸 清井 水間 佐川 田中 上西 山本 芳朗

今津 一雄 角野 隆史 北濱 貞雄 小松 弘人 野村 裕二 住吉 正敏 照屋 貞夫 牛山 淳一郎 吉田 禮

大阪柏原

檀野 隆一 早川 清一郎 柏元 勲 松原 貞一 岡原 国継 生津 清 高井 康伊 植田 勤 米田 久子

藤井 静光 井上 喜一 岸 太郎 宮川 宗三 阪口 勇 庄野 嘉男 田中 義男 山本 光則 吉村 源逸

原 柴子 石崎 昭 古賀 省三 西原 寬一 榊原 春枝 杉原 久史 寺田 信正 山本 光勇

原 博之 岩井 洋 町野 勝康 西岡 哲也 榊原 尚典 隅谷 幸子 植田 千恵子 安田 惠子

大阪北

荒井 敬一郎 古市 実 飯田 正弥 菊井 正三 古今 紘 國枝 幹司 望月 徹彌 大西 宏史 笹田 泰秋 清水 裕之 高崎 貞夫

荒卷 恭士 古野 清賢 橋口 文四郎 石田 豊司 小林 治郎 小西 和一 栞田 圭児 中村 富也 阪口 善雄 仙田 恒夫 曾々 木 勉 高月 璋介

土井 正裕 呉 美惠 蓮尾 碩才 石黒 時夫 小林 林之助 鴻池 一季 松本 進也 鳴海 鉄一 阪本 文子 渋谷 敏郎 菅生 和代 武田 佳次

藤井 桑正 後藤 二郎 平川 惠一 上山 清治 小林 豊造 小谷 泰彦 森 輝彦 緒方 満 島本 勝義 阪田 誠次郎 菅生 浩三 樽谷 清孝

鳥飼 勢三	和中 裕	八木 一雄	山川善一郎	田中 三男	田中 善雄	津江 孝夫	辻 達雄
山本 公平	山下 和彦	山下 嘉治	安田 孝	植田 光子	植田 信廣	植田 信男	山中 文和
吉田 謙次	吉治 仁義			山中 延子	山野 茂	横山順治郎	

大阪北

芦野 徹司
濱浦 康水
井上 泰旭
加藤 慶二
熊本 武史
松本 秀樹
中神 秀明
大西 久晴
白倉 孝雄
竹山 明宏
坪内 憲治
吉原 雅郎

梅田

出口 敏朗
平澤 久夫
岩田 淳一
木下正二郎
黒田 勇司
三馬 忠夫
中村 晴雄
斉藤 義博
鈴木 忠夫
田辺 嘉之
辻本 俊彦

江川 政之
細田喜代司
門脇 義房
岸本健之亮
黒木 基康
森本 大
越智 碩夫
清水 勝年
田島 信義
寺岡 龍彦
宇都宮信雄

江尻 晋策
稲葉 正
片山 俊博
講崎 元一
丸毛 和博
長田信一郎
奥田太加幸
白石 章
高橋 一弘
富岡 泰雄
柳原 賢治

大阪みなと

千田 和則
井上 隆晴
小出 實一
森 栄一
中山 正隆
清水忠治郎
山本 桂三

江指 助
石田 圭一
松本 國泰
村尾 平馬
岡田 哲男
高田 知彦

藤井 武治
垣内 康弘
松井 素子
中北 清夫
奥村 保夫
外上 孝

藤田 正昭
神崎 友次
三木 文雄
中村 幸盛
奥中 克治
富 道雄

大阪北

安達 研
稲田 正伸
川内 忠脩
小林 雄友
松尾 寛
西田 恵吉
大石 博雄
立川 隆藏
辻本 嘉助
山野辺理一郎

淀

相原 一裕
伊藤 清一
木原 政和
小塩 佳司
村居 恒司
西村 淳一
篠塚 隆弘
田名瀬正直
佃 作郎
吉田 正則

濱中 応彦
泉 幸夫
北 敏典
松川 雅典
中川 建司
岡田 孝司
副島 良廣
谷口 光夫
内田 頼泰
吉村 孝治

花原 昭弘
片山 好郎
喜多村勲佑
松本 圭右
仲堅 勝
大橋 融
菅本憲市郎
辻 信次
渡辺 生児

大阪中之島

阿部 武
長谷川 剛
井戸本泰次
小林 俊明
中道 正伸
大下 智敬
杉本 憲治
上田 久之
山本 肇

安達 昌弘
橋野 雅彦
井上 明
小竹 靖二
中村 大作
佐野 唯博
高野 博行
上野 弘也

木田 信正
東田 真治
犬飼 直之
望月 公治
荻田 勇
志水 慶一
高島 凱夫
梅原 豊和

針谷 紘一
堀口 利夫
岩坂 壽二
永井 俊行
岡本 吉富
下江 庄司
谷口 量一
牛嶋 奎宇

大阪御堂筋

安部 潤一
井上 秀人
影田 清晴
来山 繁
丸本 泰生
中川 憲育
坂田 哲男
清水 康市
高田 潔
打垣内尚雄
氏原 毅士
山下 治源

堂筋

東 芳機
岩井伸太郎
川崎 二郎
近藤 貞彦
右田 治彦
野邊九州男
澤田 祐幸
塩見 敏朗
高原 政巳
打垣内恵子
山田 和義
山崎毅四郎

藤原 亮
岩津 陽介
北所啓次郎
近藤 建司
宮岸 隆
岡崎 桂司
茂田 文彦
祖父江一郎
高嶋 秀行
上野 博明
山田 耕司
矢本 博三

原 孝彦
影田加津子
北村 憲一
蔵田 隆一
宮本 仁
尾畷 彰廣
島 甚一郎
鈴木 俊生
谷本 隆広
宇治 正雄
山田 良一
吉田 二郎

大阪難波

段 為梁
石橋謙太郎
北橋 保
久保 勇
三谷 義典
仲川 裕之
佐伯 尚男
竹内 英堯
鄭 惠琴
上田 修碩
山口 貞夫
吉村 茂夫

本田 龍三
片岡 晴彦
小林 幹弘
久保 忠義
森山 泰文
西森 喜一
笹岡 広造
棚原 薫
寺本 年範
植松 一良
山本 忠司

飯田 順雅
貴島 普
国分 重昭
前田 信夫
村生 悦三
布谷 勇之
澤井 稔
谷口 勉
土屋 正
上山 照夫
吉田 尚司

井上 正典
北橋茂登志
駒井 敏彦
三谷 喜彦
長倉 吉宏
小田 雅義
高島 徳人
鄭 則之
津村 治秀
藪嶋 哲夫
由井 茂

大阪なにわ

浅井 光二
伯井 守
北澤 高志
黒津 忠夫
岡本 和治
柴田 俊明
菅本 高美
時枝 博司
上原吉太郎

茶珍 恒彦
浜本志磨雄
小鍛治雄皓
横野進一郎
岡本 光正
島崎進一郎
諏訪 正三
徳岡 佑造
上西 康治

絵川 長昭
春木 洋次
熊田 壮一
野野 法善
佐伯 崇邦
庄野 毅
瀧川弥州男
辻 壽
山田 繁治

惠美奈博光
堀家 太一
倉橋 忠男
森 正博
澤 貞雄
曾々木 敦
田中 寿秋
植田 順三
山本 和雄

大阪南

相田 襄治
長谷川恵一
本田 和正
海堀 寅一
木村 正則
小林 正人
越井 英子
楠岡 一雄
中島恵美子
信垣 昭
奥井 末一
佐々木純一
新開 信之
武田 太郎

浅沼 健一
橋本 憲之
池田 一郎
菅野 那智
木下 秀行
國分 紀一
越井 健
松本 晴次
中島俊一郎
大淵 馨
大迫 茂人
薩摩 嘉弘
白山 隆
田村 叡子

伊達 徹
樋口 学
井上 通
菅野保二郎
木下 貞三
近藤 浩司
小谷 公穂
三原 幸二
中田 康仁
及川 修市
酒井 芳申
島岡 純一
城下 真二
田村

濱口 廣海
平岡 英信
伊藤 隆彦
木村吉弥太
岸田 功
小西 欣一
久我 三郎
南 喜代春
新田 精一
岡田 敏
更家 章太
清水 裕
高木 一見
田邊淳一郎

大阪南西

縣 莊一
服部 勇治
岩本 樹雄
小林 力
南 克昌
宮口 十吉
中丸 義昭
奈良 俊平
野々原喜久夫

赤坂 登
葉山 泰弘
加藤 毅夫
小山 大輔
南 樹一
宮井 康
中松 修三
西田 忠平
小長谷道人

藤川健一郎
林 一良
葛井 重雄
前田 孝夫
三代 文夫
森 繁治
中山 治臣
西川 定男
岡原 栄造

古林 潤也
乾 繁夫
葛城 健二
増田良太郎
光満 寛守
長濱 晃
中山 寿一
農端政之助
奥村 丑松

小崎 健新 佐野 静夫 佐々木定彦 四方幸一郎
田口 史郎 時岡 正光 辻井 用一 津江 正暉
矢田 勝利 山本東美雄

大阪西

橋本 誠一 平田 晃祥 細谷 明 井手野下秀守
神崎 茂 北方 龍一 北方百合子 小松 清吾
鴻野真太郎 熊谷 尚之 前田節ノ助 松中 修身
松本 孝 桃谷 晃平 村岡 大輔 中川 恭子
中川 泰伸 中筋 一朗 新津 敬直 二宮 敏明
西浦 正勝 小川 哲男 大橋久賀雄 岡本 正春
岡崎 忠 大塚 圭子 大塚 道夫 大富 國正
坂本 倍 島田 頌三 塩田 一夫 高木 寛
高士 雅次 田邊 純一 田中 孝男
山田 禮二 山上 和則 安盛 壽一
吉田 實 吉村 健

大阪大手前

服部 昌美 速水 逸也 廣末 利男 飯田 都
飯尾 幸司 今西 恭晟 石津 潤司 板野 眞巳
井澤 正光 金高 好伸 木田 賢治 小林 君夫
草野 恒治 松本 重臣 松浦 貞男 宮竹 昭
中村富太郎 西尾 昌也 大蔭 政勝 佐藤 良和
下村 敏夫 高折 忠太 竹内 信美 瀧内 氏重
田村 和之 田中 聰吉 立川 俊一 徳崎 善信
白井 慶勝 八木 誠 山本 博史 山本 梁介
山本 陽三 矢野 信夫

大阪淀

藤井 吉郎 長谷川英一 橋本 尚三 平野 茂夫
岩本 潤三 泉沢 哲史 木村 勝彦 木村 利雄
北村 栄三 河野 烹 小谷 正勝 牧野 英一
丸山 良一 松永 昭男 松尾 忠治 松之内温順
松下 修作 宮越 昭 持田 力 村岡 正啓
中井 保 中村 暢秀 大柱 公人 大石 正守
太田 寛 佐伯 洋 茂木 皓守 新海 研志
篠原 良洋 杉山 宗央 武富 貞敏 上野 義治
和栗 良成 矢野 徹

大阪咲洲

荒石義一郎 有賀 一夫 浅沼善次郎 深川 護
浜本 芳彦 畑野 眞次 本多 至成 籠池 靖憲
釜口 正夫 釜中 明 河部 悦子 是永 明
小脇 敏春 松本 功 水谷 幸孝 成山 肇
西田 照雄 西村 敏之 野村 卓三 大國 正直
大石田雄二 大久保 茂 太田 裕史 崎島 克二
島崎 公一 鈴木 邦彦 高松 伸伍 竹川 公三
上田 彰 山本 誠 山村 哲也

大阪西北

足立 利夫 土井 清志 藤井 宏一 藤井 進次
藤岡 靖夫 羽間 収治 平田 泰弘 石高 治夫
岩城 本臣 井爪 民雄 勝亦 良彰 河合 秀行
木村 仗治 小林 則夫 小松 清 松山 恒太
永井 忠雄 中村 光信 中西 弘 中野 晴由
岡本 好孝 奥野 武久 尾下 千明 瀬田川昭俊
島 安明 下村 裕 白井 治義 武尾敬之助
田中 潤治 築添 正 上田 宏二 八幡 千秋
山下 勝 吉田 育弘 吉岡 康雄

大阪西南

青木 達也 藤井 禧進 深田 英雄 古里 龍一
濱岡 正典 長谷川純二 平田 勝久 平田啓治郎
廣瀬勤一郎 廣瀬ヨシ子 池田 輝 今井達一郎
稲田 増光 井上 良昭 海堀 常夫 亀井 築美
神戸 鐵夫 河村 英之 木村 雅彦 神島喜與一
宮川 和夫 三宅不二子 宮崎 正 水野 豊黄
森 肇 森下美恵子 毛利 哲三 村井 史郎
村石 全 村上 秀夫 村上 睦郎 無量井與吉
中西順一郎 中山登美子 南光 優 丹羽 健二
野崎 弘毅 小田 眞弘 岡本 惠年 沖見 圭祐
沖中 栄子 大庭 萬三 大喜多克己 佐伯 正也
崎島 九郎 佐野 吉延 重村 登龍 下篠 信
品川 潔 四宮 孝郎 菅澤 龍二 杉元 一幸
高木 正巳 高澤富士子 高澤 俊也 武田 元彦
田中 穰二 鳥井 潤二 辻 英明 露口 佳彦
上田 善信 若命 道生 八木 洋子 山口 一儀
山本 秋夫 弥谷左兵衛 横井 英朗

大阪船場

荒木幸之助 有村 善雄 浅川 幸保 平山 明彦
伊藤 清一 井澤 武尚 北野 勝己 平澤 弘武
河野 幸一 小山 章松 伏野富美雄 松本 順作
松下 利夫 森 昭典 村木 正明 岡田 富二
斧原 秀夫 斧原 周子 大磯 隆一 卜 永 中
卜 仁 酒 竜 吉弘 斎藤 満一 斎藤 憲司
清水 明 清水 清一 白井 淳二 鈴木 肇
高岡 英文 徳永 孝哉 富本 亨 若原 一之
渡辺 幹男 渡辺 忠之 山脇 尚

大阪心齋橋

赤川 好央 朝田 由治 芦邊 康徳 馬場 康彦
藤原 博満 福西 幸夫 早川 謙一 平岩 武雄
広島 一光 登馬洋一郎 市田 芳一 石原 正七
岩田 行雄 河合 正行 小嶋 秀夫 鴻池 精彦
黒川 辰藏 松永 慶 宮田 貴代 森 泰輔
村上 直樹 永通 明温 成田 亮 西本 康男
西本 晋介 西尾 修三 野口 政一 岡田 健一
奥本 悦子 大前利太郎 塩山 博之 助川 豊弘
助川 正司 高橋 久三 高橋龍太郎 高橋裕次郎
竹田 好清 田窪 賢司 田中 等 津乘 宏通
吉田 耕造 安田 忠壽 米田 文郎 萬 満

大阪城北

濱田 智志 服部 貢 細川 喜信 伊藤 成幸
泉岡 久夫 川村 一郎 桑原 潔 中山 卓三
西 正中 大西 康仁 芝川 又彦 上堀 博三

大阪そねざき

藤田 弘子 春次 光子 橋本亜生子 堀江 早苗
市橋 了子 井田 保子 池中 国子 稲山 京子
井上 千明 井上サエ子 磯上 雅子 伊藤 信子
岩本 洋子 片本 邦 革嶋由利子 岸本美智子
小湊 雅子 松本智津子 松本 一夫 三浦恵美子
森本 和代 森本 隆子 中西 すすゑ 野村 浩司
岡本 孝子 竜 竜子 佐藤 安子 澤田 典一
鳴村美津子 新宅久美子 首藤 忠正 菅原 真一
鈴木たか子 多武 冨美 竹之内 勲 竹尾 愛

谷間庸子 山田美美江	寺本美津子 山本和美	鶴田正信 柳田恒明	上田稚子 結城利江子	前田義雄 三宅一嘉 内藤雅敏 大島伸雄 多田昭三 田中敬一 上田堯 山崎正博	松林邦紀 森芳郎 中川浩孝 下宮義弘 多田龍弘 田中研一 山口雅民	松島逸郎 森隆和 中造勝昭 杉浦喜好 高階義矩 田中昌彦	三野文男 村上信 奥田儀一 莊司登良 竹淵弘 寺野林三	
大阪住之江			池田淳八 小池貢 宮後浩 中辻忠男 西田敦宜 大代光芳 末永皎 山戸武	片山一步 栗田仁宏 森口晏宏 成田重彦 西川浅太郎 佐賀原篤男 田邊千尋 大和司	大阪鶴見			
安藤弘 勝根慶治 李景禹 村上高児 成山博文 乘光孝明 齊藤昭 辻本泰直 吉田賢二	井川重次 清川忠義 松本経弘 中川忠雄 西雅章 沖駕喜良 崎島七郎 上川與一				阿部成之助 平林昇 川忠 小山義之 水間頼孝 西野政治 音在秀信 清水正憲 武市敏一 津田圭一 浮舟邦彦	秋山晴近 平山伴 菊井康夫 松岡茂雄 村瀬景三 岡美里 大内昭男 清水真知子 武内教治 堤之柳太郎 宇野滋	福地悟 岩本博幸 小林省三 光山惠治 中嶋英貴 岡豊 佐藤俊一 須田潤市朗 田中信明 内田廣 山田秀雄	長谷川正 梶健一 小堀浄孝 宮本忍 中村浩一 岡田彌 澤見和郎 高橋正明 田沢洋一 内田吉穂 横山助光
大阪住吉			代田和一 原野圭司 片上淑子 木曾英次郎 越野保夫 三木敏男 西尾良一 小野時雄 崎山耕作 高橋実 谷山誠賢	土居進 早原瑛 川畑徳幸 北川雅詳 前川彦右衛門 村上憲一郎 種田恵子 太田敬紀 佐藤道雄 高子克之 辻本友明	大阪梅田			
新井文三 藤浪庸介 飯原弘章 川上富清 小松俊雄 松本章好 中澤章好 種田憲次 大塚三十四 柴吉一 瀧口利章 渡部富士雄	張壁東 福田幸一 板垣美一 木村英一 小室甲 松村武 西口幸雄 奥田清 小浦務 住井雅義 瀧口富子				荒井誠一 寶田重幸 梶谷健二 川口清高 三輪史朗 野口秀夫 折寄武士 坂本幸哉 篠原耕一 高原新一 戸石泰司 塚本伊久男	古澤和三 井田忠 柿田仁司 北村巖 森康次 野添泰男 小笹太郎 坂内三郎 袖俊二 高岡幸栄 徳山喜昭 梅名茂男	東山輝一 飯田正夫 上小澤敏行 葛原忠知 中西正七 奥田孝夫 李安邦 佐野千代造 杉村利史 田村治典 土田喜和 吉田和弘	平山博史 稲本一夫 金子光一 松田晉 仲庭成和 大西祐造 坂本好輝 佐野和雄 田原祥一郎 谷田隆一 辻中昭一 吉田喜一郎
大阪天満橋			赤松照夫 橋本謙三 金田五郎 北川哲 久保善九郎 三好三郎 成松正和 大橋敏之 谷本圭二 東田俊夫 山口雄康 安田一男 吉澤秀夫	在本茂 堀江恭男 河原勉 北村嘉宏 鎌田充生 永江溥 野口幸助 大矢平治 寺井種伯 浦谷朗 山本喬一 安田義治	大阪梅田東			
足立三朗 浅川正英 城尾登 川本浩 郡悦清 南川和茂 中川政照 小倉裕 樺本勇 寺杉伊左衛門 和田守道 山本誠 保倉賢造	赤木頌一 衣斐孝雄 貝塚讓 岸本良一 小寺一矢 三好勝 中村健輔 岡本貞彦 高松昭夫 富田清隆 山田良一 柳原巖 吉谷巖				上井喜八郎 原田太郎 犬伏重忠 木村正紀 前野慶次 皆川長也 野田宏 杉野浩次 谷澤保 宇津江信夫 山野謹五郎	青柳貞次 市川寛城 伊藤栄一 木岡良介 増田満 永田稔 大野忠雄 菅生肇 手塚政一 山本平八郎 矢野明三	船木恒雄 井上芳治 加古康明 小湊收 増田喜彦 中野収二 芝川敦 高橋一郎 津田宏毅 山本毅	華学昭博 井上隆司 革嶋恒徳 久保勝彦 松原倉敏 中瀬令造 杉本正広 谷本明 津野勝彦 山村森一
大阪天王寺			古池幹郎 平尾一平 川端一价 松井隆雄 西原好一 新見葵 武田純三 若宮邦弘	花田力 平山巖 小林明 中嶋平一郎 岡橋研一 新屋正富 田中謙三 柳川瀨隆夫	大阪うつほ			
土居原作郎 八鳥和久 家田成夫 小西祐謙 中村弘 大川博道 杉本源衛 辻敏郎 吉田進	福島健治 林潤 磯崎敏男 高妻忠信 中野正仁 大塚陽三 高見篤志郎 牛場一夫 吉田章男				赤坂信義 羽生一喜 池田英輔 梶元英 川橋都子 豆村賢治 中山重積 奥田兼三 佐伯徹	天羽邦照 橋本逸郎 今井忠臣 片見富士夫 川橋豊 松田隆治 岡田興重 奥澤邦彦 斉藤隆二	藤原達治郎 林善三 岩井莞治 河啓一 木村一雄 松岡晃一郎 岡本治人 大森治宏 阪上宏	福本桂三 池田周弘 城守隆 川口大次郎 木下明之 中西克巳 岡崎善久 蓮舎勝克 鳴隆治
大阪東南			濱田昭 北條誠久 毛尾武史 甲佐史郎	榛木登司 乾良次 木村行雄 前田敏弘	大阪東			
荒木彰一 橋本友三 伊藤武定 北田耕一	朝田俊孝 林銑吉郎 金田明治 近藤功				赤坂信義 羽生一喜 池田英輔 梶元英 川橋都子 豆村賢治 中山重積 奥田兼三 佐伯徹	天羽邦照 橋本逸郎 今井忠臣 片見富士夫 川橋豊 松田隆治 岡田興重 奥澤邦彦 斉藤隆二	藤原達治郎 林善三 岩井莞治 河啓一 木村一雄 松岡晃一郎 岡本治人 大森治宏 阪上宏	福本桂三 池田周弘 城守隆 川口大次郎 木下明之 中西克巳 岡崎善久 蓮舎勝克 鳴隆治

菅 晃生 杉本 誠二 高田 省三 竹田 雅則
田坂 正夫 堤 昌彦 山田 和義 横井 浩

大阪淀川

青木 高 青山 昭雄 浅野 照雄 芦原 義倫
平田 達男 磯田 欣二 板野 桂吾 松居 祥二
松尾 惠央 松山 恭三 三島 紘一 村上博太郎
野村 哲三 佐藤 輝男 白方 誠彌 白山 鴻鍵
杉本 忠博 杉村 正三郎 杉田 幸視 瀧野 悟郎
田中 忠男 筒井 一太 内野 龍男

千里

安達 昌秀 天野 正 藤満 宣夫 羽田 祐三
廣間 利隆 井上 暎夫 伊藤 誠 岩知道 寿夫
岩崎 熙毅 川瀬 甲子雄 木下 迪男 北垣 次彦
近藤 敏之 神島 博昭 小谷 澄信 小谷 泰
的場 延雄 三谷 裕康 宮内 修平 門間 進
中井 正信 中井 貞雄 中井 利隆 中谷 良恭
新原 健市 仁村 泰治 西田 泰晤 西形 文孝
西村 壯一 野中 高明 沼田 尚 岡本 弘
奥野 善彦 奥野 良臣 坂口 治男 坂口 健
作田 正義 柴田 多一郎 祖父江 鎮雄 賢士
田村 福造 田村 興作 寺井 明納 繁樹 潔
上篠 三郎 白井 弘行 矢橋 弘嗣 山田 潔
依田 平 吉村 輝久雄

摂津

荒川 義郎 茶橋 和夫 原田 肇 樋上 幸夫
稲垣 俊文 岩城 邦廣 神田 保廣 樋村 泰信
小林 一弘 小林 進 小坂 勉 窪田 公男
前田 暁信 三木 秀雄 三好 一則 望田 能弘
門田 孝三郎 森川 正幸 中川 広司 中井 清司
西田 文夫 西島 英信 西川 保 西本 勝
埜口 定雄 奥野 實 大澤 勝哉 酒井 公明
田中 美春 寺西 雄治 吉岡 二三男

四條驛

畑 正廣 平井 一 池村 弘一 景山 隆光
貝阿弥一郎 木村慎一郎 松村 正毅 三原 初男
中川 法政 西本 博 清水 勝美 田原 春 稔
田村 成明 田村 實 築山 一男 山口 愛彦
山内 紀之 柳本 久治

吹田

安封 嘉一 足達 忠利 足立 善信 有澤 潤
坂東 翠子 坂東 宏 堂前 善宣 藤田 宗男
林 博子 羽間 勝昌 平栗 勲 平山 美智子
平山 直樹 本田 寿子 市川 徳明 井村 卓治
井波 静孝 稲本 英治 井上 陽二 井上 義信
石井 博章 伊藤 徳次郎 伊藤 多恵子 紙谷 弥一郎
金子 義高 井上 浩邦 木田 正六 木田 育伸
木村 雄次郎 北村 英一 小島 義平 小阪 喜彦
古徳 幸俊 光吉 聖 中井 健 中澤 保夫
成尾 紹雄 岡村 孝次郎 大枝 朗 大橋 弘一
大坪 秀男 大山 武司 佐々木 伸行 里村 隆
柴田 仁 四宮 眞男 曾呂 昌弘 竹内 良一
田辺 嘉穂 田中 信人 田中和 一郎 寺西 孝年
立木 靖子 上本 博 上野 貞夫 浦川 政一
和田 弘毅 山本 典 山村 利貞

吉田 充

吹田江坂

赤木 圭介 荒木 勝博 東 秀夫 延 秀恵
榎木 庄司 福田 博志 古川 久好 芳賀 洋
長谷川 清 速見 博 林 貞夫 堀田 稔
今村 啓志 金ヶ江 裕之 金子 武夫 栢本 淑子
木下 喜昭 北村 康栄 北山 陽一 國澤 靖之
栗 義数 米谷 正夫 宮前 賢一 水谷 善博
長澤 義雄 中村 利男 中山 安信 西上 博幸
西口 隆三 西村 義博 西山 俊明 小野 雅章
大井 清 大井 信博 澤田 敏明 杉本 英一郎
杉本 全司 田畑 勉 田口 長兵衛 田中 襄吉
田中 茂晴 飛田 昭男 頭根 敏雄 鳥辺 甚吉
辻村 保雄 内田 正 和田 貞雄 八橋 志夫

吹田西

青木 郁二 新井 清明 浅井 勇夫 榎谷 忠治
藤井 清樹 藤田 富美 郷上 善次 萩尾 宗樹
橋本 治宣 昌義 平野 善次 家村 武志
池永 洋高 昌郎 井上 隆 石崎 克弘
梶山 哲 前田 昌平 木田 壽雄 木下 通之
宮川 藤一郎 水間 正一 毛利 征一郎 宮川 定吉
永田 昌範 中濱 巖 中田 武美 仲辻 章
難波 恒則 西垣 哲 西村 忠雄 野尻 弘
小川 勉 大谷 習田 阪本 勝彦 澤井 正寛
鈴木 基弘 習田 隆一 田原 幸明 田中 忠正
吉岡 五郎 山本 隆一 山村 幸明 吉田 一雄

高槻

浅野 正之 土井 文雄 平野 富一 波々部 廣行
細谷 光彦 生駒 俊雄 今堀 幸 入江 和夫
入江 輝彦 入野 敏夫 岩井 祐造 岩崎 皓二
梶田 政直 神田 敏夫 木下 建三 岸田 喜八郎
牧 正治 舛井 英二 村上 秀雄 村上 正巳
永井 利彰 中島 好信 西田 直弘 大関 道磨
尾崎 貞親 齋藤 修 佐藤 公世 清水 利男
園田 昭治 高戸 敬一 津田 孝美 梅原 正見
米田 誠宏 善積 章

高槻東

有馬 敏晴 近森 信人 藤田 圭吾 浜田 実男
長谷川 暉郎 橋本 房利 橋本 雅央 林 敬次郎
樋口 道夫 平賀 正 一ツ橋 昭 正田 和希
堀江 義明 石井 清隆 岩田 喜義 甲斐 敏晴
川村 俊 岸本 忠男 北田 他実夫 北浦 信行
松野 稔 松浦 寛法 光本 賀一 森本 章
森山 鐵男 村上 元昭 長野 美喜知 中島 三郎
中村 隆一 根岸 宏邦 西田 実 西原 漸
西川 豊蔵 岡村 勝之 斎藤 昇男 堺 常一
妹尾 四郎 下岡 一廣 白藤 清一 杉岡 宗雄
高木 莊輔 高谷 敏雄 瀧井 理 谷村 新平

高槻西

東 富美雄 古澤 照清 長谷川 博之 畠 泰夫
早瀬 徹 五十嵐 重行 片山 直 川合 宏宣

木原 隆 近藤 眞道 桑内 義雄 森本 茂 下園 義明 谷知 義昭	菊池 祐生 河野 通貞 間石 成人 奥井 敬之 白神 正夫 和三 弘磨	古畑 時夫 高津 嘉夫 三好 誠 坂本 信人 莊田 司	小玉 誠三 栗田 忠一 森本 栄三 澤田 順司 武山 茂樹	松村 匡浩 中川 將次 仲谷 常寛 小川 節哉 坂上 圓 下城 憲 正野 純吉 田中 孝 戸田 幸雄 山口 八郎 吉田 八郎	森 慶太郎 中島 孝夫 那須 郷磨 岡田 禮一 坂本 憲治 杉本 一三 高田 吉治 田中 昌之 當内 斉 山畑 雅裕 吉川 鹿雄	森川 勝啓 中西 啓博 西久保 康勝 奥田 勝清 佐野 脩弘 鈴木 優一 高木 安脩 谷村 祥義 渡辺 義治 山本 敏行 吉成 敏行	永井 忠男 中谷 武男 西海 元樹 大槻 美佐夫 柴田 英一 正田 英雄 高井 常彌 戸田 操 山口 智士 横井 憲二
--------------------------------------------------	----------------------------------------------------	-----------------------------------------	-------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------

豊中

青木 禎一郎 千葉 隆造 一瓢 利男 木村 実 近藤 俊夫 森本 健二 野竹 邦弘 坂本 壽三 田中 正一 渡部 威	浅原 啓由 竹玄 賢司 門 宏明 清永 兼弘 牧本 利夫 森山 貞信 小川 正彦 渋谷 有策 田中 勇之祐	馬場 一雄 橋田 進尚 柏木 英志 小林 豊治 南川 稔 中井 修平 小川 斉 末村 徳彦 内田 徳彦	枇榔 五郎 林 董保 勝本 信義 小玉 和一 南坂 敏之 西山 清彦 佐伯 啓次 田中 宏道 渡辺 宏道	八尾 中 福家 克彦 片岡 哲玄 村上 慎一 小倉 郁夫 瀧澤 之助 矢島 正孝 吉村 清明	八尾 東 藤田 勇 福本 昭三 香川 健二 桑 増秀 松田 憲夫 森下 慶治 岡田 徳一 大熊 千賀子 杉本 正義 辻 吉和 安井 和隆	橋本 道夫 木村 信彰 長浜 茂利 斉藤 利宏 玉井 登 山倉 憲二 吉岡 憲二	廣瀬 信夫 小林 敬和 中井 理和 阪口 利和 田中山 義一	計 達夫 信 敬 理 和 義 一	泉 寛治 松田 一良 沼井 義一 杉本 久仁 時野 猛 柳 雄二
---------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------	--------------------------------------------	---------------------------	-------------------------------------------------

豊中南

秋川 藤次 八田 昌三 飯野 敏雄 北村 恭一 栗本 武 森田 治男 大野 昭一 柴野 悦子 高野 賢二 山中 久男	榎原 嘉之 平山 稔 八良 八良 小林 春市 三田 裕 中村 惠英 大田 比登史 柴野 貴 豊田 宏三 山西 保正	藤原 俊彰 堀内 彦仁 柏木 義文 昆 健一郎 宮内 敏光 西川 治男 酒井 千秋 重野 剛 上田 卓也 吉崎 弘明	古澤 照男 兵庫 廣 加藤 照雄 熊谷 常一 森口 武史 岡本 眞弘 坂本 英一 鈴木 寿道 山本 和	八尾 東 藤田 勇 福本 昭三 香川 健二 桑 増秀 松田 憲夫 森下 慶治 岡田 徳一 大熊 千賀子 杉本 正義 辻 吉和 安井 和隆	藤田 禮子 原田 隆光 川密 眞 桑田 夕ア子 松井 謙之 森田 時男 奥田 長二 鹿田 秀雄 鈴木 洋 筒井 重之 吉川 日出子	福家 才助 池本 繁喜 萱村 信造 真野 鐵生 松本 智幸 長沢 徳治 大橋 秀造 清水 三夫 武村 健一 和田 輝夫	福井 茂行 井上 早苗 木村 千彌子 増田 潔 松村 栄三 岡田 卓三 大熊 実 杉本 初美 谷岡 慶一 八木 清三郎
---------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------

豊中一

有馬 啓祐 羽瀨 一司 池田 正義 草野 保 村井 健三 中川 邦介 尾形 理一 笹部 義平 武田 昭 上西 利三 山本 三郎	大阪 道満 濱田 英機 板垣 周男 町田 秀宇 永野 啓之介 中尾 正三 大久保 博泰 清水 敏之 田村 茂樹 植野 郁太 行岡 義藏	大阪 隆 英機 周男 秀宇 啓之介 正三 博泰 敏之 茂樹 郁太 義藏	空 藤野 茂安 平林 初夫 木本 亮介 松田 隆 永田 利爲 中山 徹雄 齋城 正之 下平 健 田中 竹二 渡邊 源治	港 藤原 明 本間 治夫 木下 俊作 松下 十三雄 長渡 寛 小田 泰義 坂戸 照雄 杉本 博己 築山 一夫 山吹 壽	豊中 千 雨森 健 井元 弘 梶本 良治 村井 兼一 西島 詩子 大井 皓二 東松 孝臣	里 荒木 勲 稲田 絃 河崎 守男 長澤 彰 野原 嗣久 阪口 恵子 内田 裕康	藤原 安雄 伊藤 一弥 小西 池淳一 西田 尚道 奥田 旭 笹山 利雄 内田 真由美	福島 蓮二郎 甚田 倫弘 前川 好弘 西島 修藏 奥野 照夫 高橋 貞夫 横山 昌弘
-----------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------

豊中千

雨森 健 井元 弘 梶本 良治 村井 兼一 西島 詩子 大井 皓二 東松 孝臣	里 荒木 勲 稲田 絃 河崎 守男 長澤 彰 野原 嗣久 阪口 恵子 内田 裕康	藤原 安雄 伊藤 一弥 小西 池淳一 西田 尚道 奥田 旭 笹山 利雄 内田 真由美	福島 蓮二郎 甚田 倫弘 前川 好弘 西島 修藏 奥野 照夫 高橋 貞夫 横山 昌弘
-----------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------

八尾

力石 恒夫 畑 由雄 今川 憲治 板倉 兵衛 木村 義一	後藤 孝吉 平松 秀一 今井 博 岩田 良 久保川 省悟	原田 正義 平野 大太郎 稲田 明人 加藤 隆 増田 鼎	橋本 雄司 池尻 誠 居相 英機 河田 道雄 松本 新太郎
------------------------------------------	------------------------------------------	------------------------------------------	-------------------------------------------

八尾中 央

福家 克彦 片岡 哲玄 村上 慎一 小倉 郁夫 瀧澤 之助 矢島 正孝 吉村 清明	橋本 道夫 木村 信彰 長浜 茂利 斉藤 利宏 玉井 登 山倉 憲二 吉岡 憲二	廣瀬 信夫 小林 敬和 中井 理和 阪口 利和 田中山 義一	計 達夫 信 敬 理 和 義 一	泉 寛治 松田 一良 沼井 義一 杉本 久仁 時野 猛 柳 雄二
-------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------	--------------------------------------------	---------------------------	-------------------------------------------------

八尾東

藤田 勇 福本 昭三 香川 健二 桑 増秀 松田 憲夫 森下 慶治 岡田 徳一 大熊 千賀子 杉本 正義 辻 吉和 安井 和隆	藤田 禮子 原田 隆光 川密 眞 桑田 夕ア子 松井 謙之 森田 時男 奥田 長二 鹿田 秀雄 鈴木 洋 筒井 重之 吉川 日出子	福家 才助 池本 繁喜 萱村 信造 真野 鐵生 松本 智幸 長沢 徳治 大橋 秀造 清水 三夫 武村 健一 和田 輝夫	福井 茂行 井上 早苗 木村 千彌子 増田 潔 松村 栄三 岡田 卓三 大熊 実 杉本 初美 谷岡 慶一 八木 清三郎
-----------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------

松戸東

渡辺 多夫

東京銀座

大沢 静夫

福井南

前島 健治 前島 貴久子

三田

松下 克巳

奈良西

林 秀彦

京都伏見

玉井 公詞

富田林

大槻 武男

地区大会を終えて



地区大会委員長
横尾 定美

1995～1996年度R.I. 第2660地区大会は、熊沢忠躬がバナーの主宰の下に、5月10～11日の両日にわたって、ロイヤルホテルとフェスティバルホールで開催され、盛会の裡に幕を閉じることが出来ました。

本大会は、R.I. 会長代理としてアラスカより日系二世のステイブ・K・ヨシダ氏ご夫妻をお迎えし、参加者は来賓、地区会員とご家族、その他関係者あわせて3453名にのぼりました。

ステイブ・K・ヨシダ氏は本会議その他で、自らロータリーの処女地シベリアで幾つかのロータリークラブを創立したいきさつを、淡々としかも感動をこめて語られました。これは当年度のR.I. テーマ、真心、慈愛、平和を地でゆくお話で、感銘深いものがありました。

地区大会の呼び物である大会シンポジウム「アジアと太平洋地域における大阪の役割」と、大会記念講演、橋本大二郎氏の地方自治からみた都市と地方のあり方についての示唆にとんだ講演は、聴衆に大きな反響を呼びました。また、家族の集いで浜村淳氏の「人・街・夢」というお話、そして私たち守口ロータリークラブの手作りとも言える歓迎晩餐会、また最後の締めエンターテイメント、Osaka Easy Jazz Bandの華やかなジャズ演奏とダンスなど、それぞれ満足して頂けたのではないかと考えております。

手続要覧を見ますと、地区大会の目的は交歓と感銘深い講演と、地区内クラブおよび国際ロータリー全般に関する問題の討議云々となっています。本大会を顧みて、この目的はほぼ達せられたのではないかと自画自賛しています。これも第2660地区の各クラブの会員の皆様のご指導とご協力のお陰であります。また私業を抛って奔走された地区大会幹事横山正憲氏をはじめ、大会実行委員会の諸姉の献身的なご努力の結果であることは申すまでもありません。有難うございました。またここに改めまして地区内全関係者に対し、厚く御礼申し上げます。



編集後記

1995～1996年度国際ロータリー第2660地区大会は、去る1996年5月10日～11日の2日間、多数の皆様のご協力により盛大に開催され無事に終了できました。

記録誌の編集にあたってはできるだけ客観的に、正確に、又皆様に見やすく、読みやすくをモットーに努め、そして記録誌として末永く座右に置いていただけるようなものをと念じ作製しました。

編集にあたりお力添えをいただいた地区大会役員の皆様に厚くお礼を申し上げます。

記 録 委 員 会

委員長 吉 中 光 雄

副委員長 秋 山 憲 敏

江 端 将 哲